

Ⅲ. 調査結果の分析

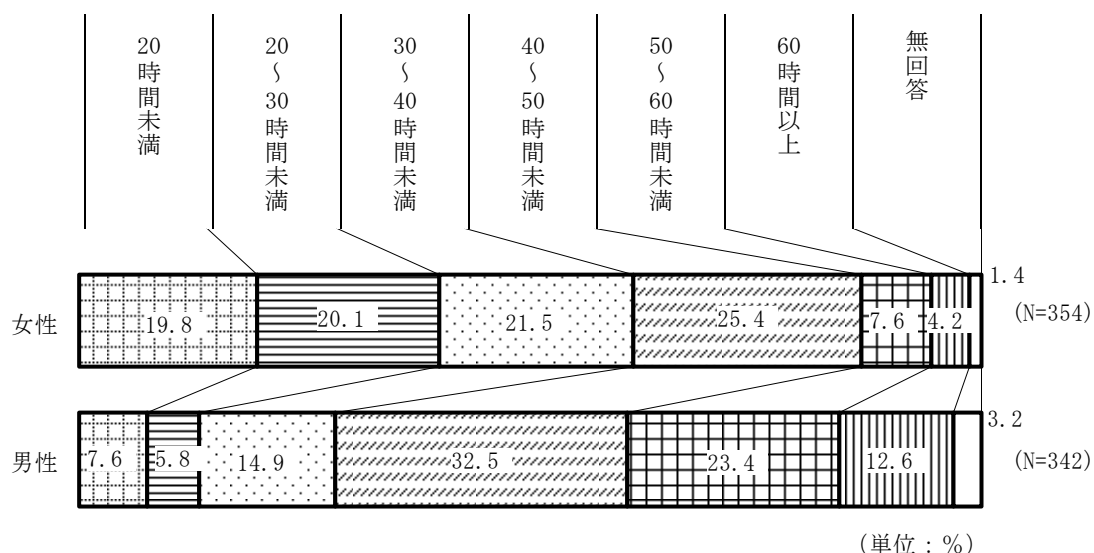
1. 仕事について

問6で、現在「仕事をしている」と答えられた方におたずねします。

問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか（残業時間も含みます）。

（○は1つ）

図1-1 1週間の労働時間



■週60時間以上働く男性は12.6%

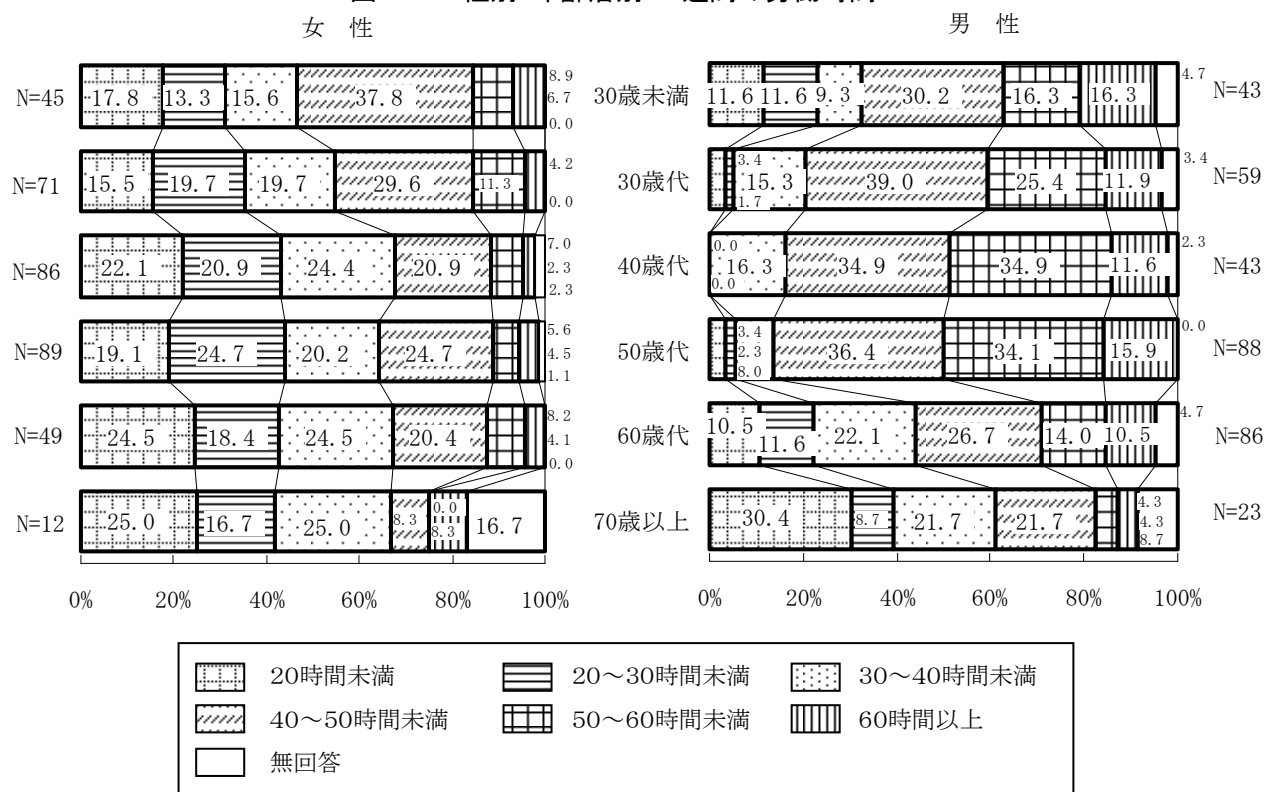
女性の労働時間をみると、「40～50 時間未満」の割合が 25.4%で若干高いものの、「20 時間未満」から「40～50 時間未満」での各割合が 20%前後であり、労働時間に片寄りが無い。

男性の場合は、「40～50時間未満」の割合が最も高く 32.5%。ついで「50～60時間未満」23.4%、「30～40時間未満」14.9%、「60時間以上」12.6%である。

法定労働時間である週40時間（事業場の規模と業種によっては44時間の場合もあり）を目安としてみた場合、これを超える時間を働いている割合は、女性37.2%・男性68.5%で、男性の方が約30ポイント高い。

性別・年齢層別

図1-2 性別・年齢層別 1週間の労働時間



参考表 性別・年齢層別 1週間の労働時間

		対象者数(人)	20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50～60時間未満	60時間以上	無回答
女性	30歳未満	45	17.8	13.3	15.6	37.8	8.9	6.7	0.0
	30歳代	71	15.5	19.7	19.7	29.6	11.3	4.2	0.0
	40歳代	86	22.1	20.9	24.4	20.9	7.0	2.3	2.3
	50歳代	89	19.1	24.7	20.2	24.7	5.6	4.5	1.1
	60歳代	49	24.5	18.4	24.5	20.4	8.2	4.1	0.0
	70歳以上	12	25.0	16.7	25.0	8.3	0.0	8.3	16.7
男性	30歳未満	43	11.6	11.6	9.3	30.2	16.3	16.3	4.7
	30歳代	59	3.4	1.7	15.3	39.0	25.4	11.9	3.4
	40歳代	43	0.0	0.0	16.3	34.9	34.9	11.6	2.3
	50歳代	88	3.4	2.3	8.0	36.4	34.1	15.9	0.0
	60歳代	86	10.5	11.6	22.1	26.7	14.0	10.5	4.7
	70歳以上	23	30.4	8.7	21.7	21.7	4.3	4.3	8.7

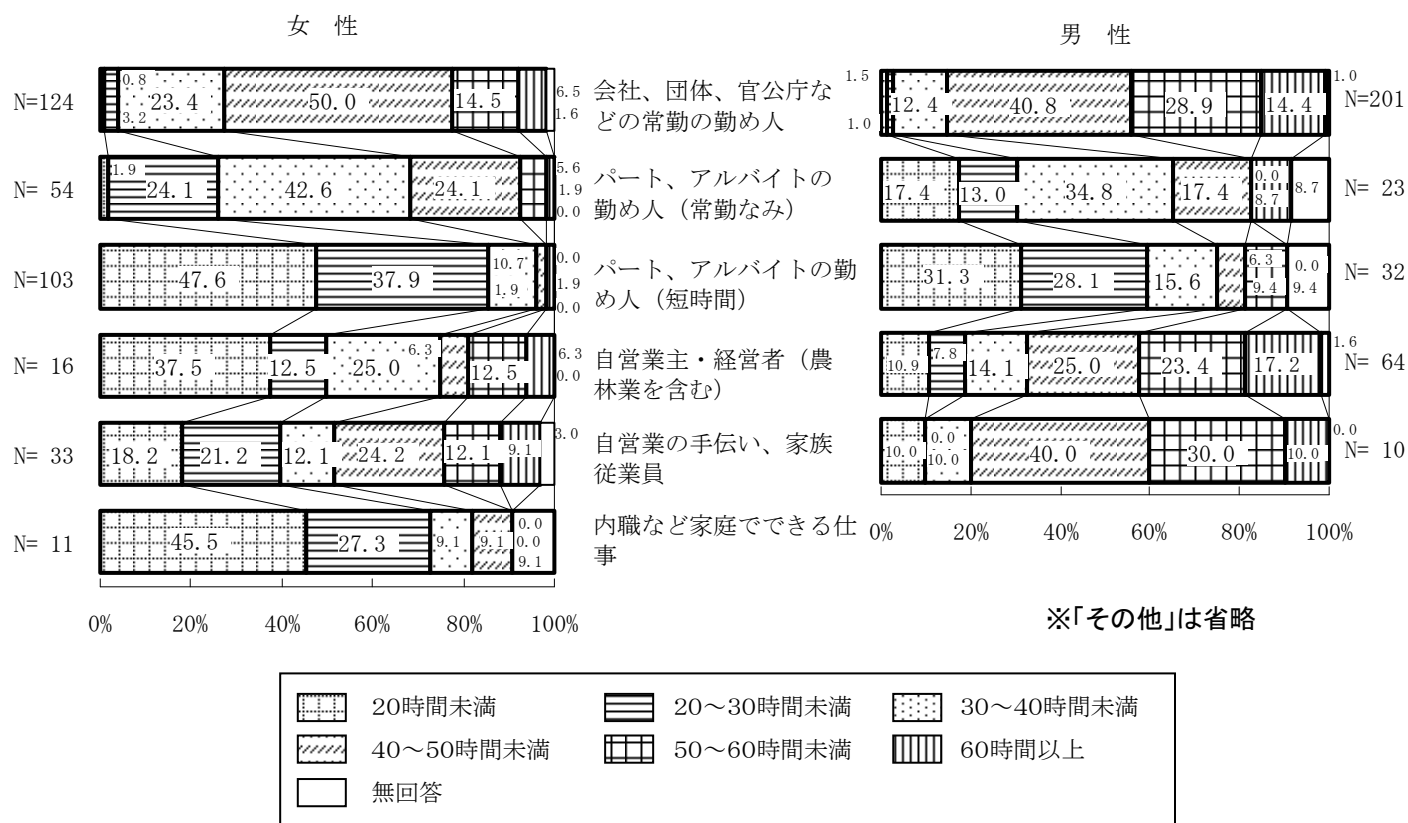
(%)

◆女性の場合、「40～50 時間未満」の割合が最も高いのは 30 歳未満で 37.8%で、「40 時間以上」の割合は、53.4%である。

◆男性の場合、「60 時間以上」の割合は、30 歳未満で 16.3%、50 歳代で 15.9%と、他の年齢層よりも高くなっている。

性別・職業別

図1-3 性別・職業別 1週間の労働時間



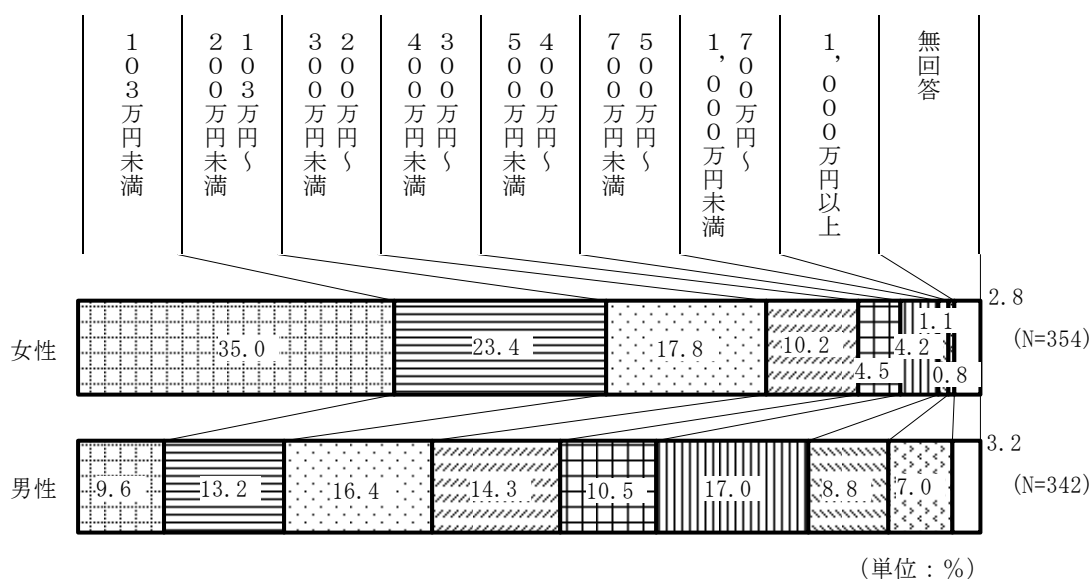
参考表 性別・職業別 1週間の労働時間

		対象者数(人)	20時間未満	20~30時間未満	30~40時間未満	40~50時間未満	50~60時間未満	60時間以上	無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	0.8	3.2	23.4	50.0	14.5	6.5	1.6
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	1.9	24.1	42.6	24.1	5.6	1.9	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	47.6	37.9	10.7	1.9	0.0	1.9	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	37.5	12.5	25.0	6.3	12.5	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	18.2	21.2	12.1	24.2	12.1	9.1	3.0
	内職など家庭でできる仕事	11	45.5	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	その他	13	15.4	23.1	30.8	23.1	0.0	0.0	7.7
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	1.5	1.0	12.4	40.8	28.9	14.4	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	17.4	13.0	34.8	17.4	0.0	8.7	8.7
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	31.3	28.1	15.6	6.3	9.4	0.0	9.4
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	10.9	7.8	14.1	25.0	23.4	17.2	1.6
	自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	0.0	10.0	40.0	30.0	10.0	0.0
	内職など家庭でできる仕事	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	10	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0	0.0	30.0

(%)

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（○は1つ）

図1-4 昨年1年間の収入（税込み）



■女性の場合は、「200万円未満」が60%弱

女性の場合をみると、最も割合の高いのは「103万円未満」で35.0%、3人に1人の割合である。ついで、「103万円～200万円未満」が23.4%、「200万円～300万円未満」が17.8%と続く。

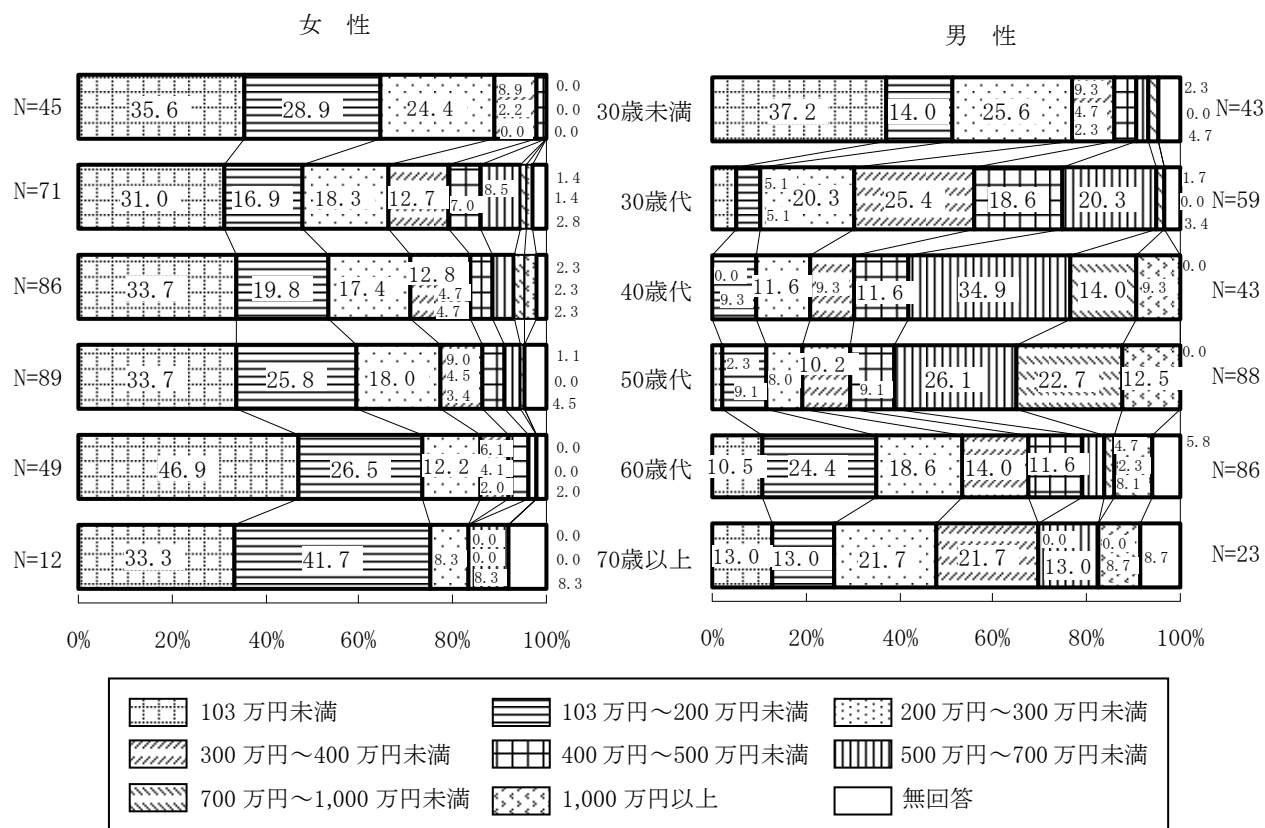
男性の場合は、割合の高い順にみると「500万円～700万円未満」17.0%、「200万円～300万円未満」16.4%、「300万円～400万円未満」14.3%、「103万円～200万円未満」13.2%であり、各層に分散している。

■男女の収入差は大きい

男女で収入を比較すると、「200万円未満」の収入が女性の場合は58.4%であるのに対して、男性は22.8%。また、「500万円以上」の収入が女性の場合は6.1%であるのに対して、男性は32.8%となっている。

性別・年齢層別

図1-5 性別・年齢層別 昨年1年間の収入(税込み)



参考表 性別・年齢層別 昨年1年間の収入(税込み)

		対象者数 (人)	1 0 3 万円 未満	2 0 0 万円 未満	3 0 0 万円 未満	4 0 0 万円 未満	5 0 0 万円 未満	7 0 0 万円 未満	1, 0 0 0 万円 未満	1, 0 0 0 万円 以上	無 回 答
女性	30歳未満	45	35.6	28.9	24.4	8.9	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	71	31.0	16.9	18.3	12.7	7.0	8.5	1.4	1.4	2.8
	40歳代	86	33.7	19.8	17.4	12.8	4.7	4.7	2.3	2.3	2.3
	50歳代	89	33.7	25.8	18.0	9.0	4.5	3.4	1.1	0.0	4.5
	60歳代	49	46.9	26.5	12.2	6.1	4.1	2.0	0.0	0.0	2.0
	70歳以上	12	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3
男性	30歳未満	43	37.2	14.0	25.6	9.3	4.7	2.3	2.3	0.0	4.7
	30歳代	59	5.1	5.1	20.3	25.4	18.6	20.3	1.7	0.0	3.4
	40歳代	43	0.0	9.3	11.6	9.3	11.6	34.9	14.0	9.3	0.0
	50歳代	88	2.3	9.1	8.0	10.2	9.1	26.1	22.7	12.5	0.0
	60歳代	86	10.5	24.4	18.6	14.0	11.6	4.7	2.3	8.1	5.8
	70歳以上	23	13.0	13.0	21.7	21.7	0.0	13.0	0.0	8.7	8.7

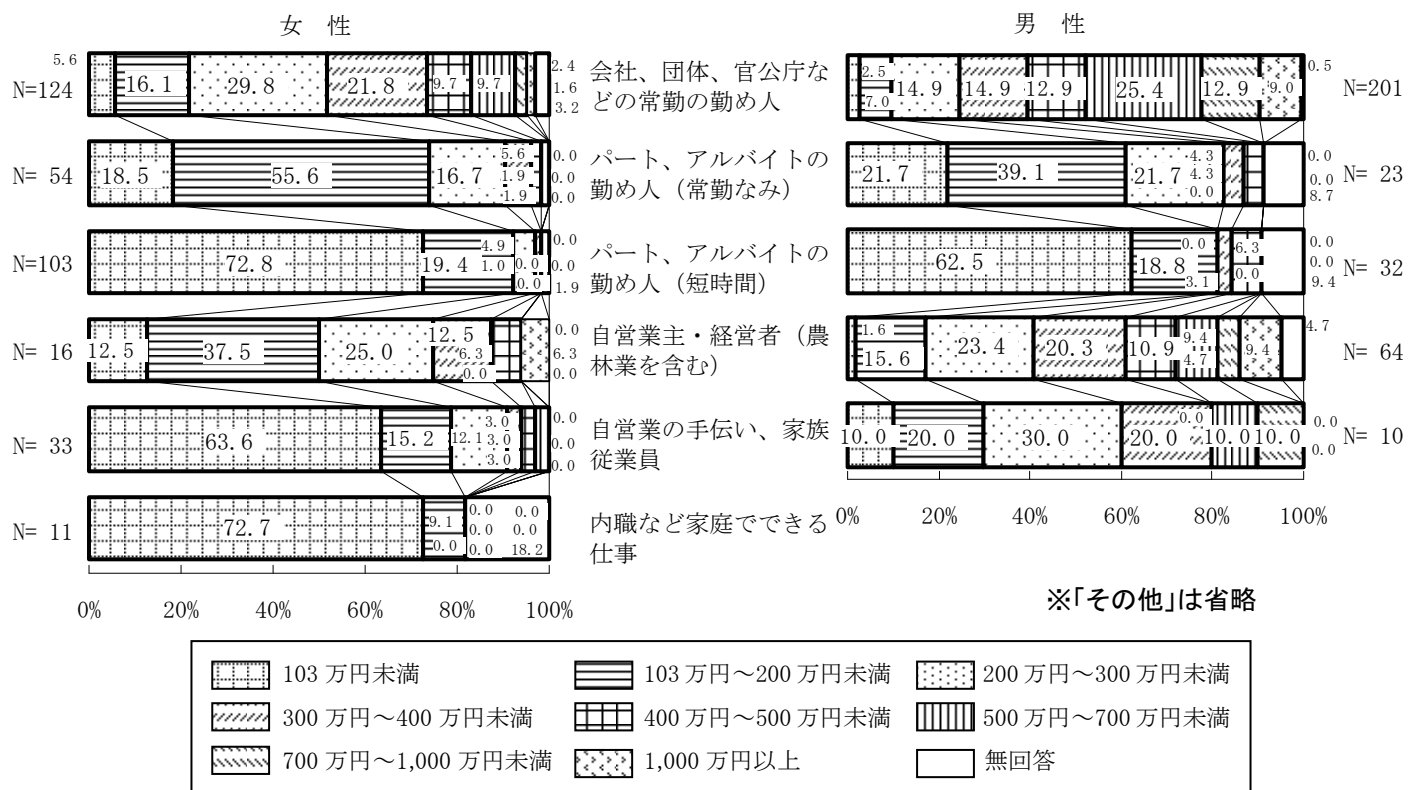
(%)

◆女性の場合は、すべての年齢層で「103万円未満」の割合が30%以上であり、特に「60歳代」では46.9%である。

◆男性の場合は、「103万円未満」の割合は、30歳未満で突出して高く、37.2%である。60歳代、70歳以上でも10%を超えている。「700万円～1,000万円未満」の割合は、50歳代で20%を超えている。

性別・職業別

図1-6 性別・職業別 昨年1年間の収入(税込み)



参考表 性別・職業別 昨年1年間の収入(税込み)

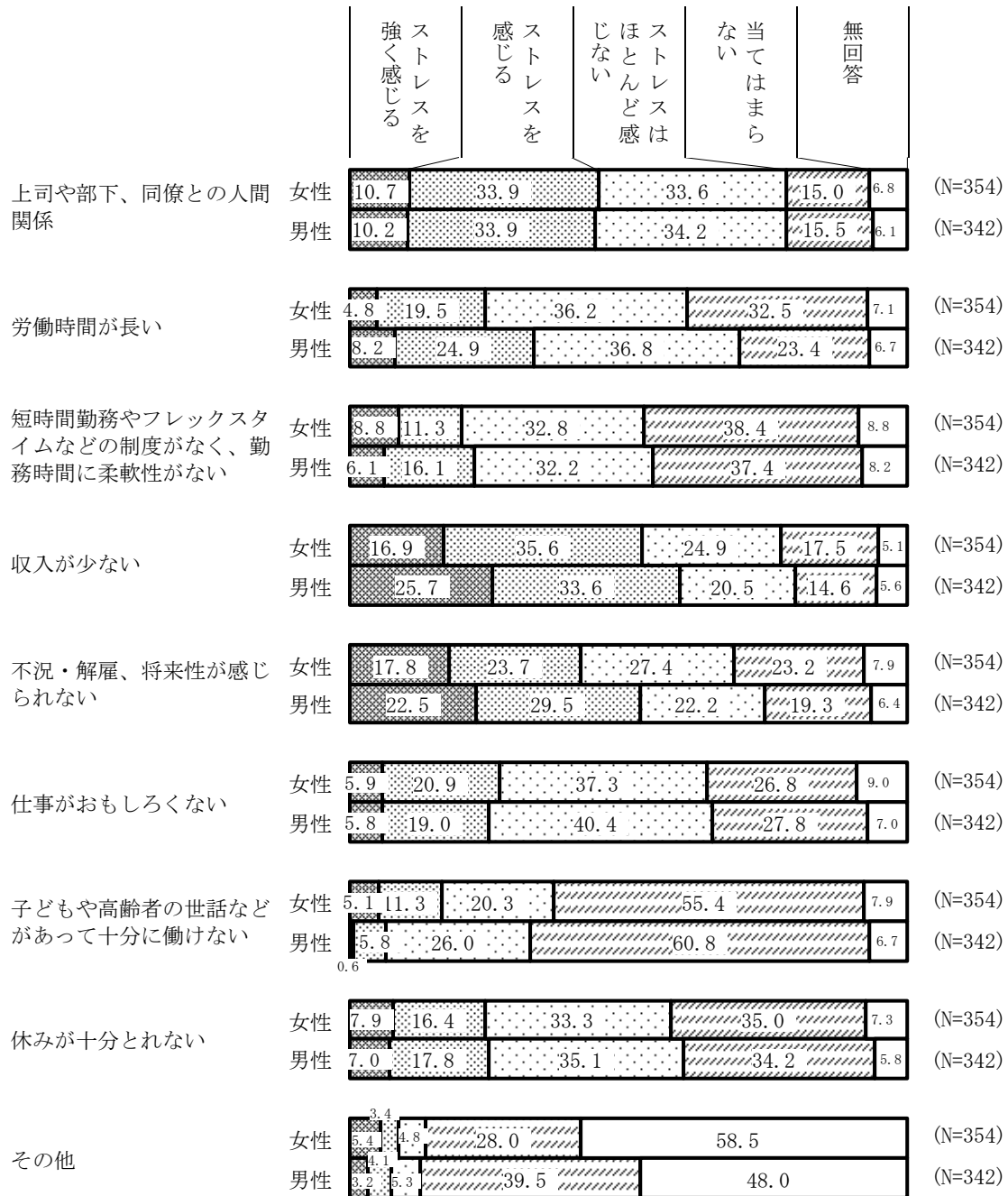
		対象者数 (人)	103万円未満	103万円～200万円未満	200万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～700万円未満	700万円～1,000万円未満	1,000万円以上	無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	5.6	16.1	29.8	21.8	9.7	9.7	2.4	1.6	3.2
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	18.5	55.6	16.7	5.6	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	72.8	19.4	4.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	12.5	37.5	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	63.6	15.2	12.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内職など家庭のできる仕事	11	72.7	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2
	その他	13	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7	7.7	7.7	0.0	15.4
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	2.5	7.0	14.9	14.9	12.9	25.4	12.9	9.0	0.5
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	21.7	39.1	21.7	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	8.7
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	62.5	18.8	0.0	3.1	6.3	0.0	0.0	0.0	9.4
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	1.6	15.6	23.4	20.3	10.9	9.4	4.7	9.4	4.7
	自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	内職など家庭のできる仕事	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	10	10.0	20.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

(%)

◆どの働き方においても、女性の収入の方が男性よりも低い傾向がある。

問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。①～⑨の項目ごとに当てはまる番号に○をしてください。（①～⑨の項目ごとに○は1つずつ）

図1-7 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い



(単位：%)

■最もストレスになるのは「収入が少ない」こと

男女ともに＜ストレスを感じる＞（「ストレスを強く感じる」＋「ストレスを感じる」の合計）割合が最も高いのは「収入が少ない」（女性 52.5%・男性 59.3%）である。ついで、「上司や部下、同僚との人間関係」（女性 44.6%・男性 44.1%）、「不況・解雇、将来性が感じられない」（女性 41.5%・男性 52.0%）である。

■男女で差があるのは、「将来への不安」と「子どもや高齢者の世話」

「不況・解雇、将来性が感じられない」では、男性の方が女性より 10.5 ポイント高くなっている。

「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」では、女性の方が男性より 10 ポイント高くなっている。

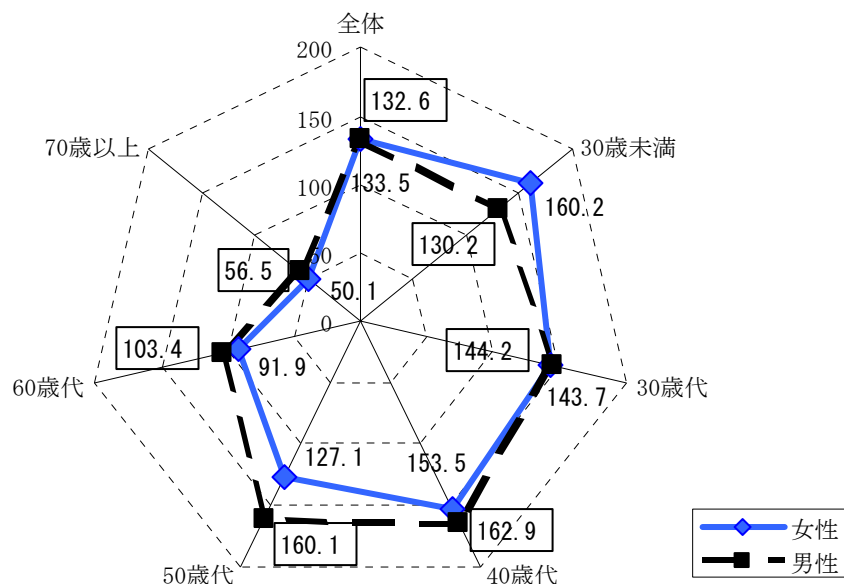
性別・年齢層別

仕事に関して、どのようなことにストレス（悩みや不安）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「働いている女性354人、男性342人」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観する。

ストレス強度係数

仕事に関するストレスについて本報告書では、ストレスの強さをどのように感じているかを、選択肢「ストレスを強く感じる」の数値（％）× 3、選択肢「ストレスを感じる」の数値（％）× 2、選択肢「ストレスはほとんど感じない」の数値（％）× 1 の合計値と定義し、「ストレス強度係数」と呼ぶ。

図1－8 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「上司や部下、同僚との人間関係」



※ 内の数値は男性

図1－9 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「労働時間が長い」

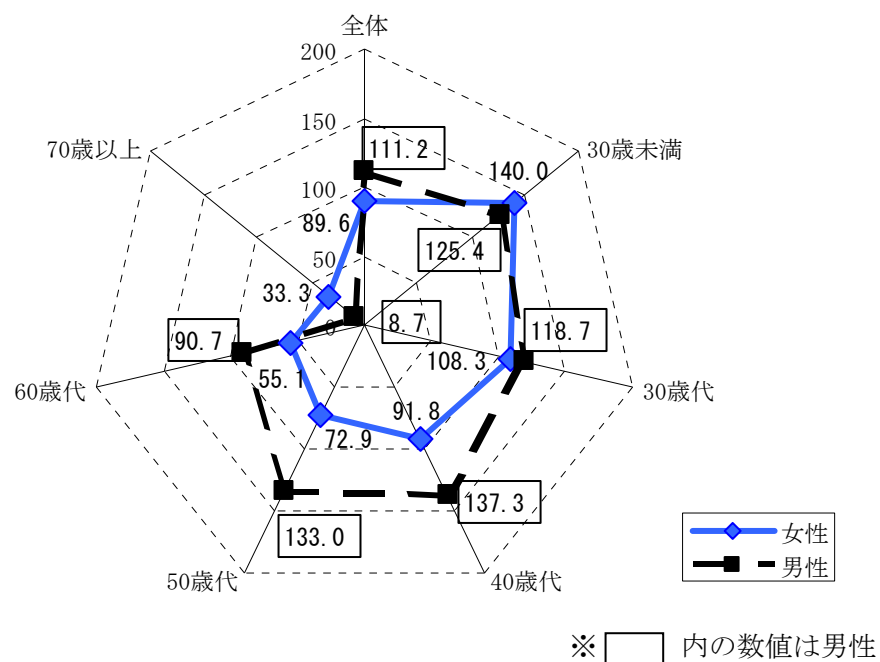


図1－10 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない」

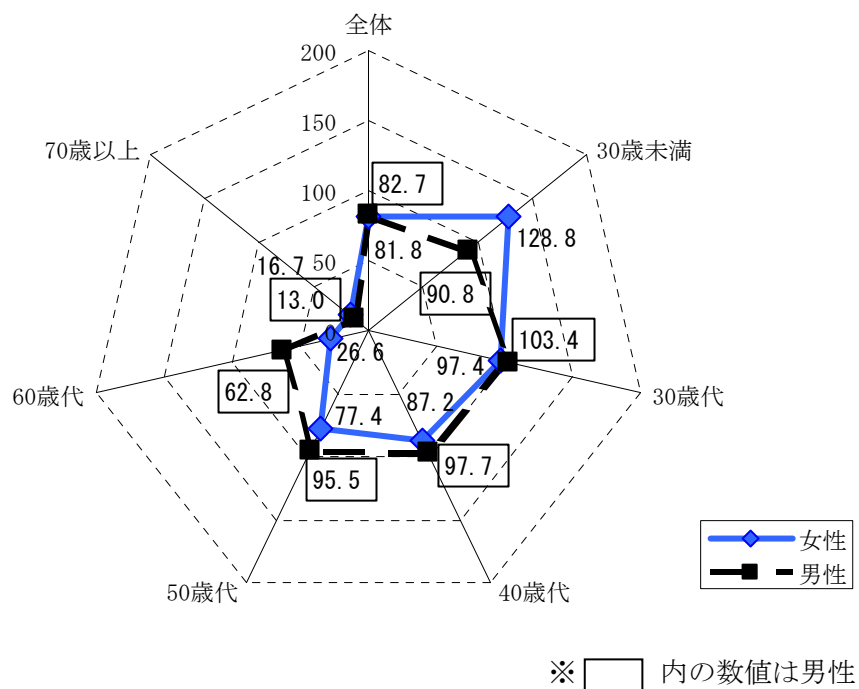


図1-11 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「収入が少ない」

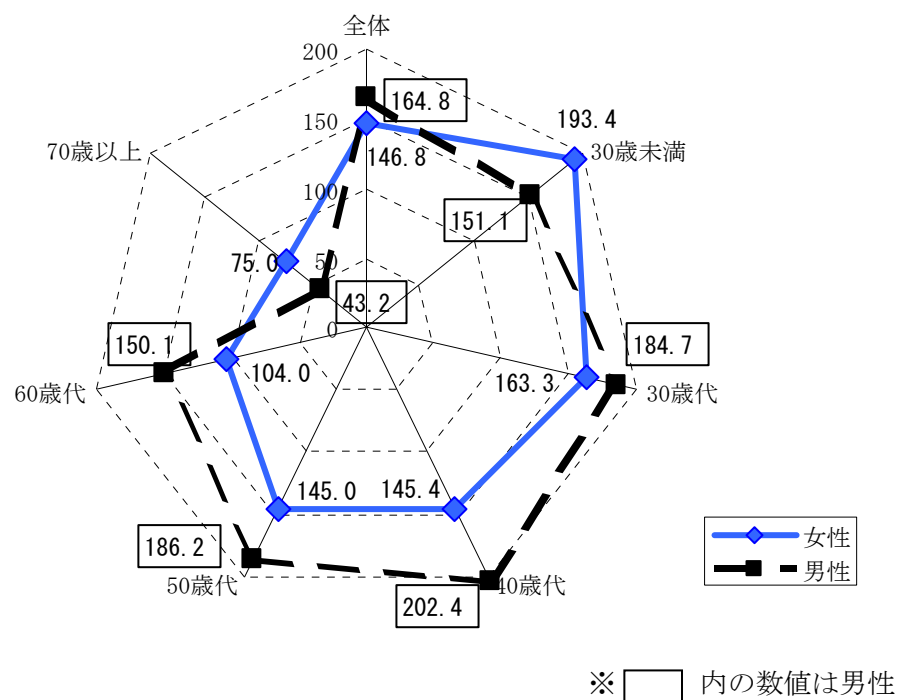


図1-12 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「不況・解雇、将来性が感じられない」

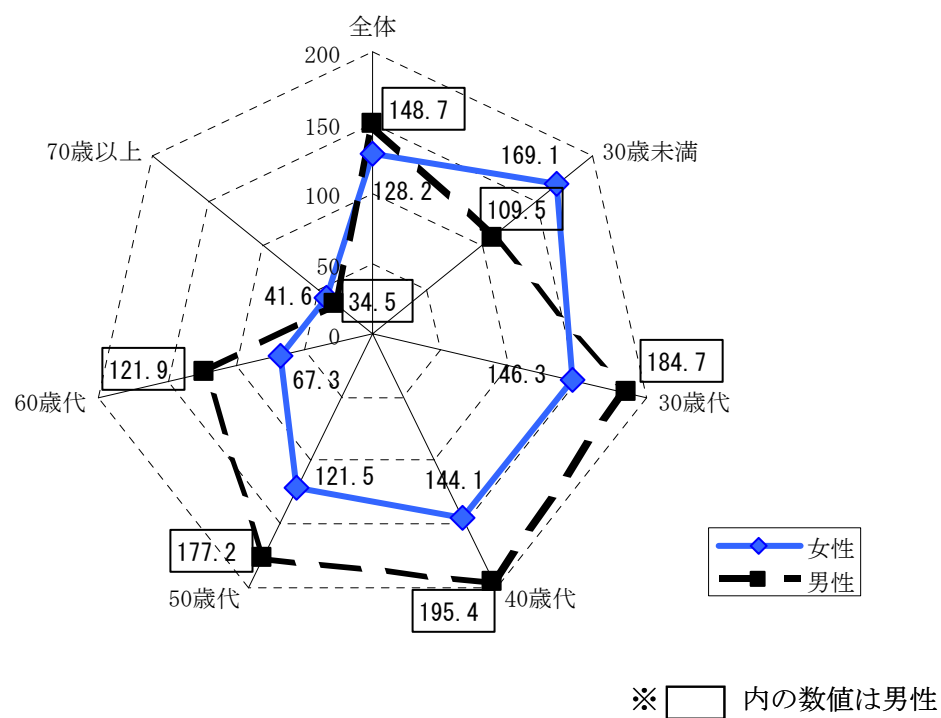


図1-13 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「仕事がおもしろくない」

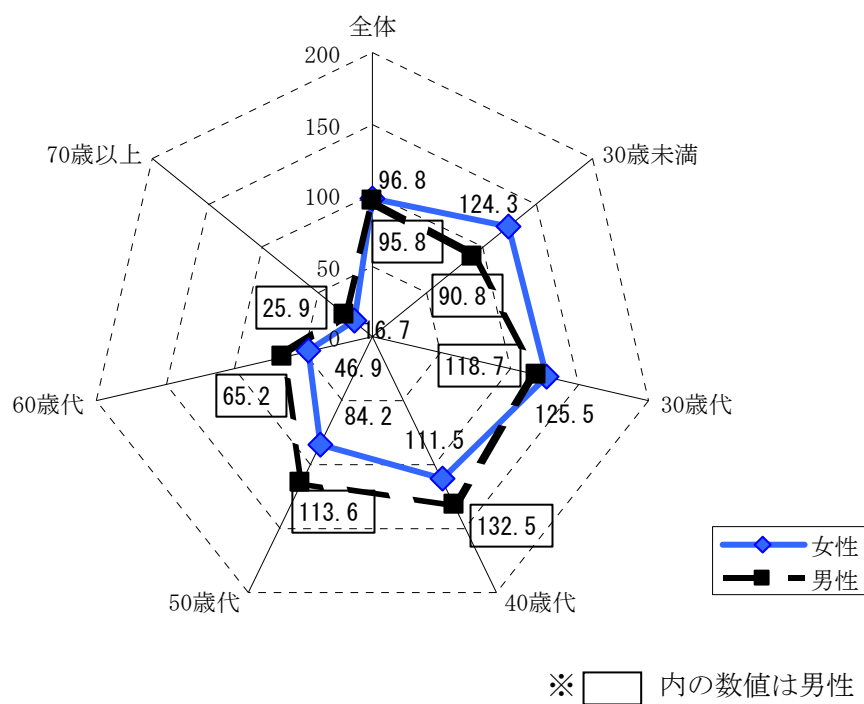


図1-14 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い
「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」

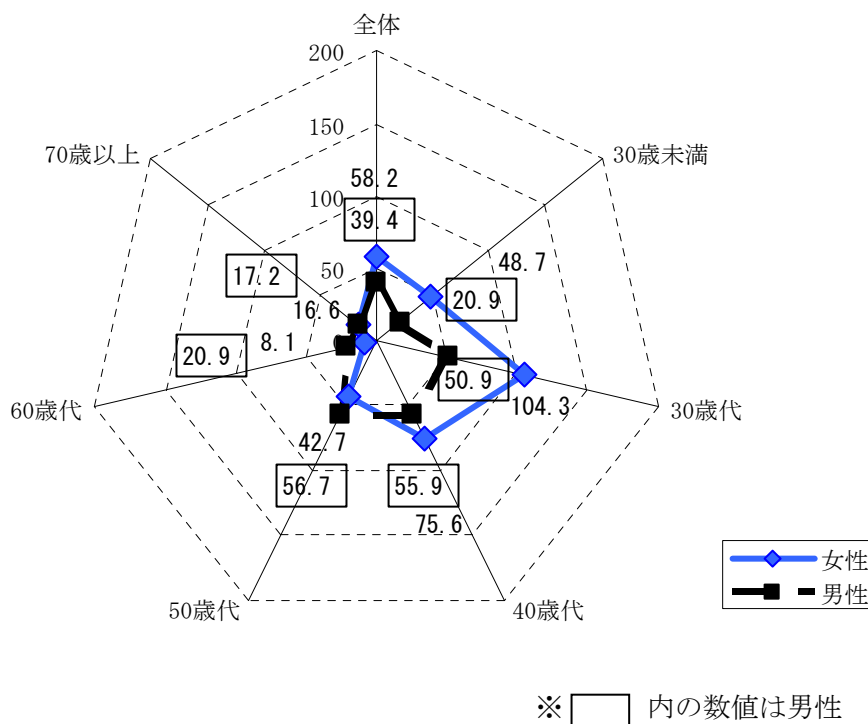
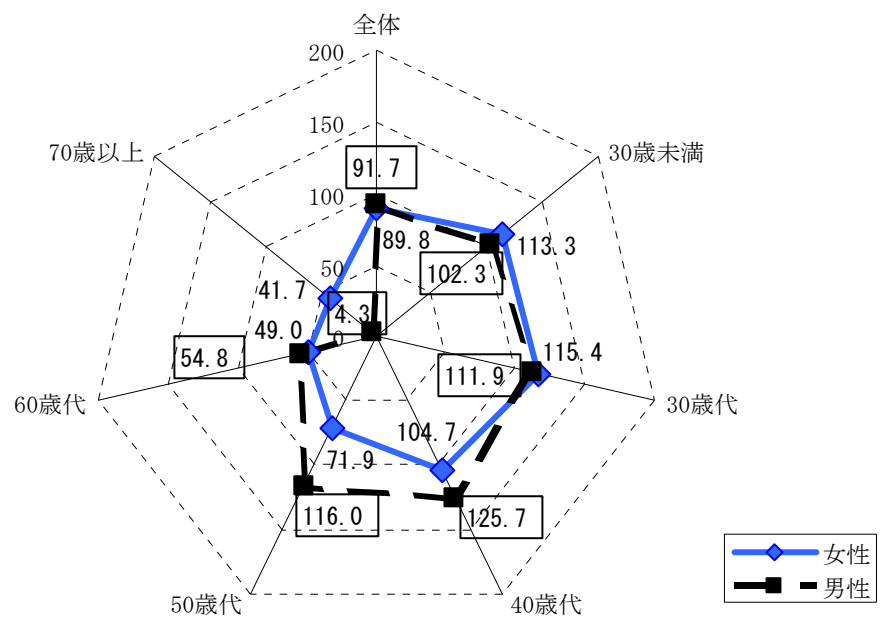


図1-15 性別・年齢層別 仕事上でのストレス(不安や悩み)の度合い「休みが十分とれない」



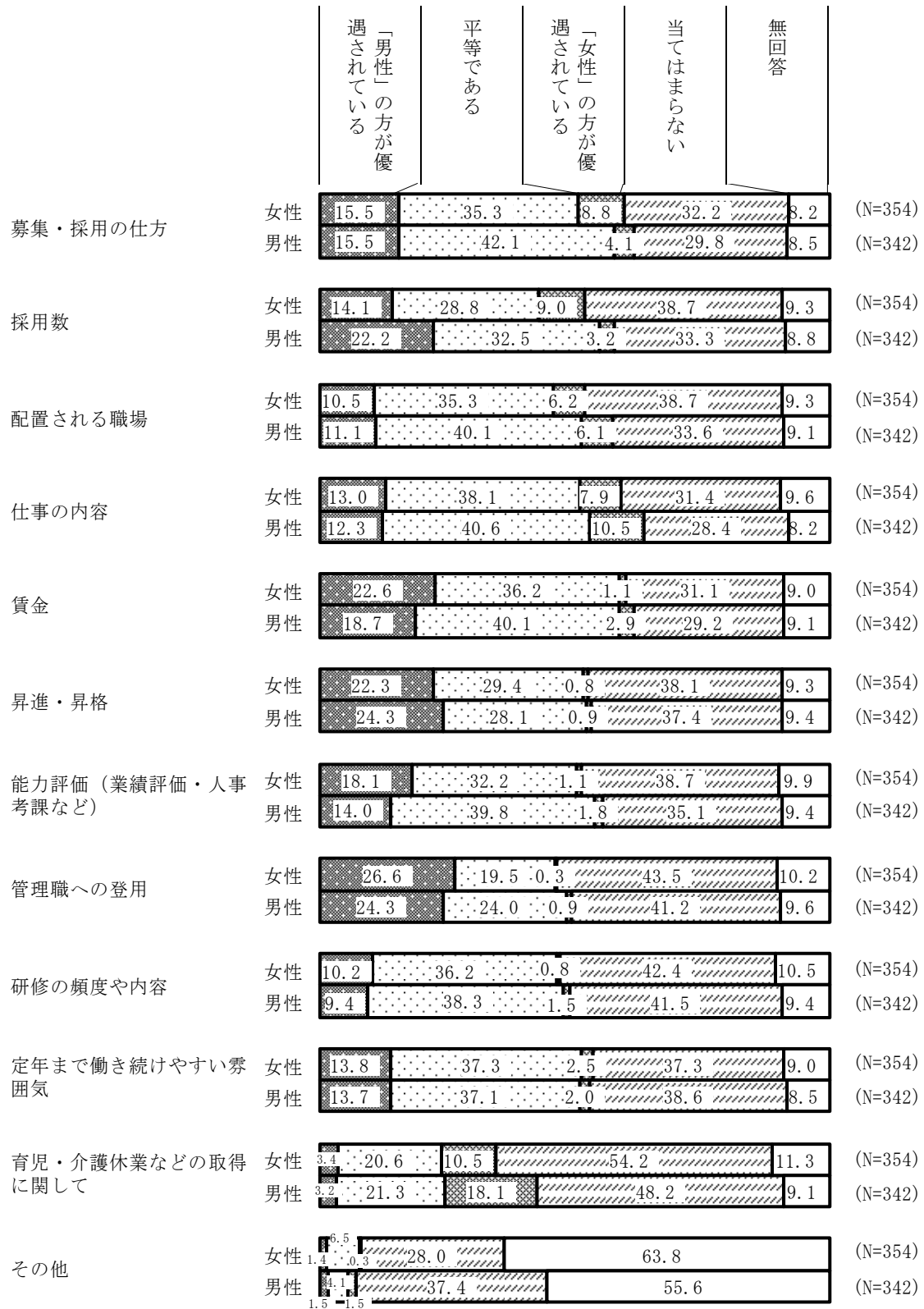
※ 内の数値は男性

表1-1 性別・年齢層別・就業形態別 仕事に関するストレス強度係数

			対象者数（人）	上司や部下、同僚との人間関係	労働時間が長い	短時間勤務などの制度がなく勤務時間に柔軟性がない	収入が少ない	不況・解雇、将来性が感じられない	仕事がおもしろくない	子どもや高齢者の世話などがあつて十分に働けない	休みが十分とれない
全 体			696	133.2	100.2	82.2	155.8	138.4	96.5	49.0	90.9
女 性			354	133.5	89.6	81.8	146.8	128.2	96.8	58.2	89.8
男 性			342	132.6	111.2	82.7	164.8	148.7	95.8	39.4	91.7
年 齢	女 性	30 歳未満	45	160.2	140.0	128.8	193.4	169.1	124.3	48.7	113.3
		30 歳代	71	143.7	108.3	97.4	163.3	146.3	125.5	104.3	115.4
		40 歳代	86	153.5	91.8	87.2	145.4	144.1	111.5	75.6	104.7
		50 歳代	89	127.1	72.9	77.4	145.0	121.5	84.2	42.7	71.9
		60 歳代	49	91.9	55.1	26.6	104.0	67.3	46.9	8.1	49.0
		70 歳以上	12	50.1	33.3	16.7	75.0	41.6	16.7	16.6	41.7
	男 性	30 歳未満	43	130.2	125.4	90.8	151.1	109.5	90.8	20.9	102.3
		30 歳代	59	144.2	118.7	103.4	184.7	184.7	118.7	50.9	111.9
		40 歳代	43	162.9	137.3	97.7	202.4	195.4	132.5	55.9	125.7
		50 歳代	88	160.1	133.0	95.5	186.2	177.2	113.6	56.7	116.0
		60 歳代	86	103.4	90.7	62.8	150.1	121.9	65.2	20.9	54.8
		70 歳以上	23	56.5	8.7	13.0	43.2	34.5	25.9	17.2	4.3
就 業 形 態	女 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	168.5	128.2	119.4	163.7	142.6	113.0	49.2	117.7
		パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	157.4	111.0	105.7	174.1	159.1	112.9	64.9	101.9
		パート、アルバイトの勤め人（短時間）	103	124.3	50.5	56.2	137.7	122.2	91.2	63.1	63.0
		自営業主・経営者（農林業を含む）	16	75.1	50.2	25.0	100.0	81.5	50.0	50.3	62.5
		自営業の手伝い、家族従業員	33	63.8	63.7	39.5	118.1	96.9	63.7	63.8	82.0
		内職など家庭でできる仕事	11	0.0	54.6	9.1	136.5	36.4	54.6	81.9	63.7
	男 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	162.1	135.1	104.6	183.7	170.7	118.1	47.3	111.1
		パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	23	126.1	82.4	60.6	121.5	138.9	65.1	30.3	65.0
		パート、アルバイトの勤め人（短時間）	32	100.0	59.4	65.6	122.1	90.6	90.7	28.2	50.1
		自営業主・経営者（農林業を含む）	64	76.6	89.1	47.0	157.9	137.4	59.5	34.5	83.0
		自営業の手伝い、家族従業員	10	80.0	70.0	50.0	110.0	80.0	60.0	20.0	60.0

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。
(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

図1-16 職場の中の性別による対応や評価に対する実感



(単位：%)

■女性は、「管理職への登用」「賃金」「昇進・昇格」で『男性』優遇感が高い

「平等である」の割合が最も高いのは、女性は「仕事の内容」で38.1%。男性は「募集・採用の仕方」で42.1%である。

女性の場合は、『男性』の方が優遇されている」割合の高いものからみていくと、「管理職への登用」(26.6%)、「賃金」(22.6%)、「昇進・昇格」(22.3%)の順である。

その一方で、「育児・介護休業などの取得に関して」(10.5%)、「採用数」(9.0%)、「募集・採用の仕方」(8.8%)、「仕事の内容」(7.9%)、「配置される職場」(6.2%)では、『女性』の方が優遇されている」が約6～10%である。

■男性は、「昇進・昇格」「管理職への登用」「採用数」で『男性』優遇感が高い

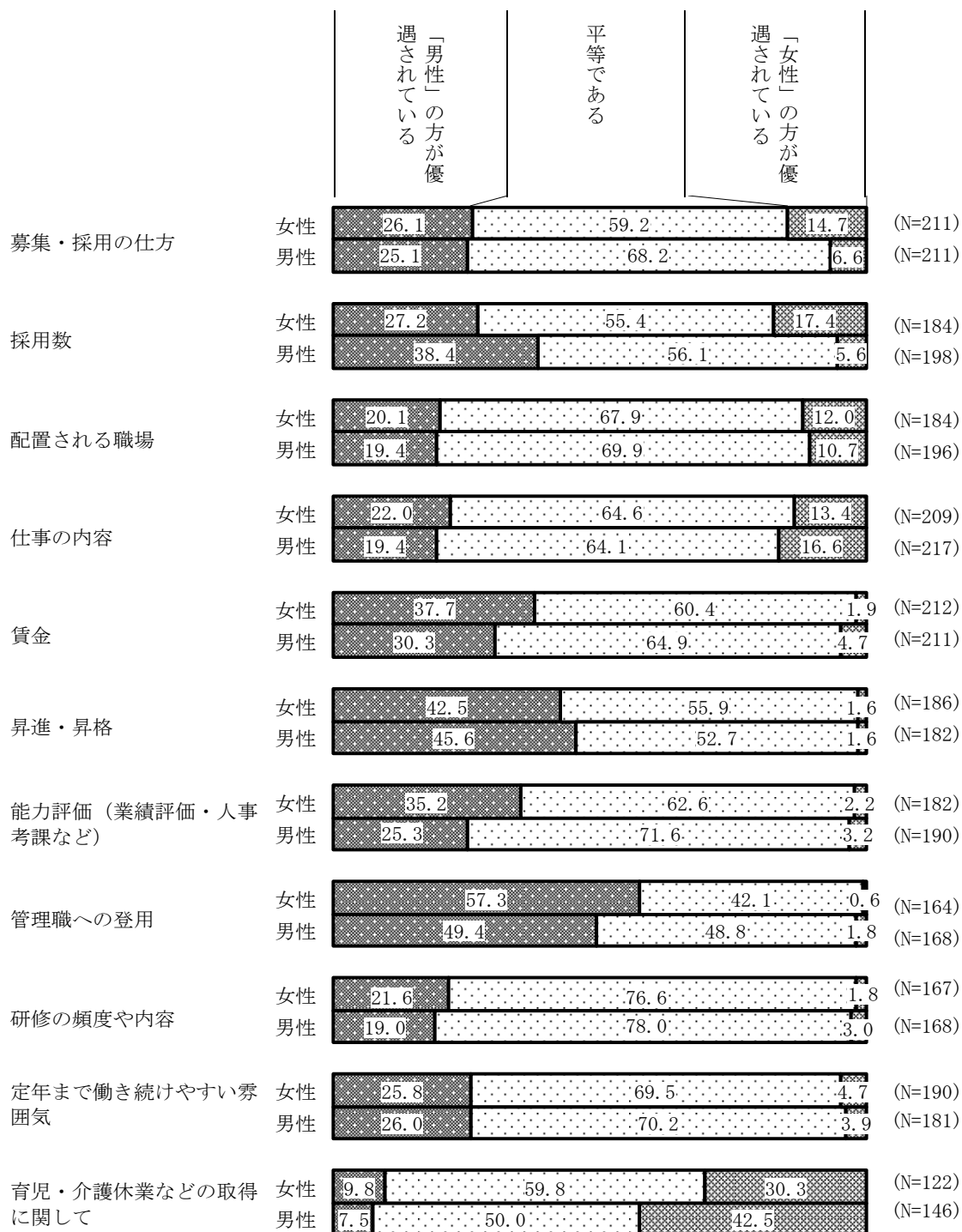
男性の場合は、『男性』の方が優遇されている」割合の高いものからみていくと、「昇進・昇格」、「管理職への登用」(各24.3%)、「採用数」(22.2%)の順である。

その一方で、「育児・介護休業などの取得に関して」と「仕事の内容」で『女性』の方が優遇されている」の割合がそれぞれ18.1%、10.5%となっている。

[参照]

図1-17 職場の中の性別による対応や評価に対する実感

＜『男性』の方が優遇されている』+『平等である』+『女性』の方が優遇されている』を 100%とした場合＞



(単位：%)

性別・年齢層別

「『男性』の方が優遇されている」+「平等である」+「『女性』の方が優遇されている」を 100%とした場合の、「『男性』の方が優遇されている」の割合でグラフを作成した。

図1-18 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「募集・採用の仕方」

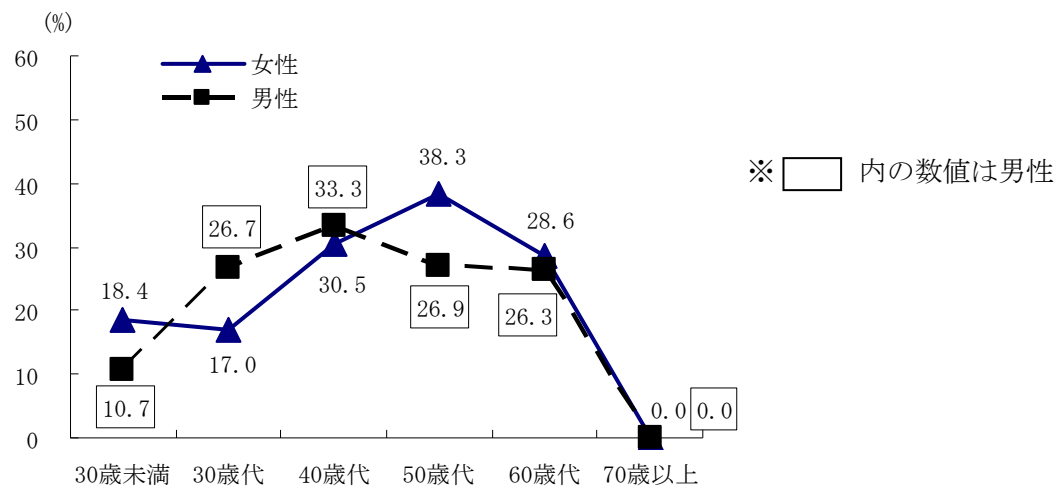


図1-19 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「採用数」

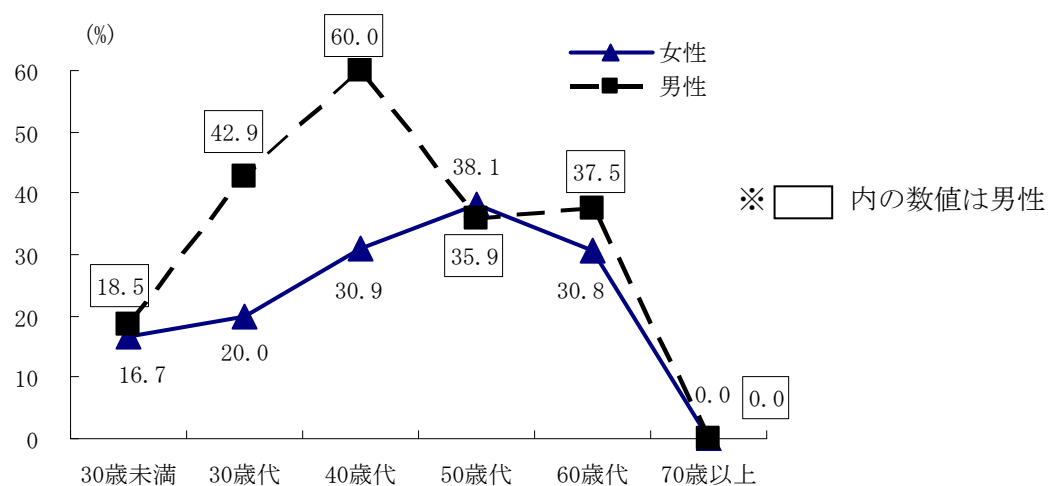


図1-20 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「配置される職場」

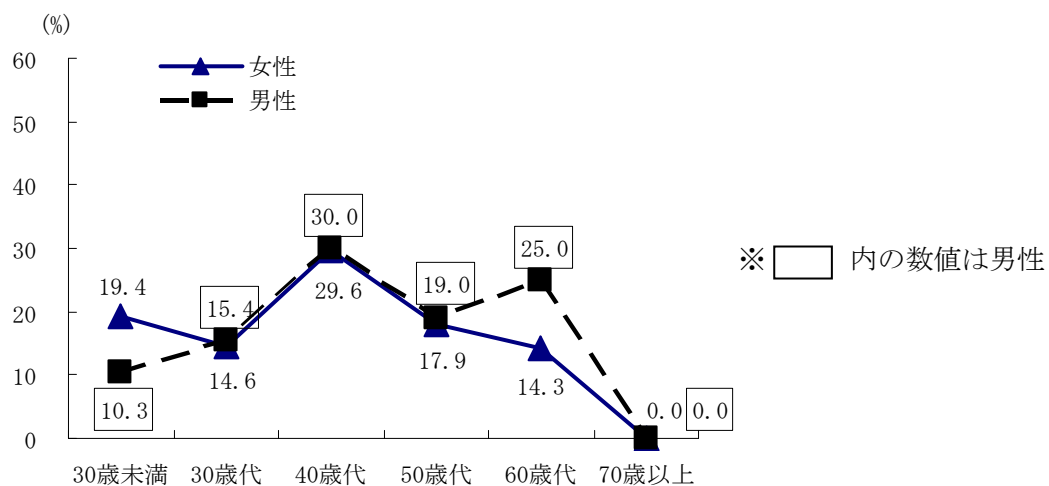


図1-21 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「仕事の内容」

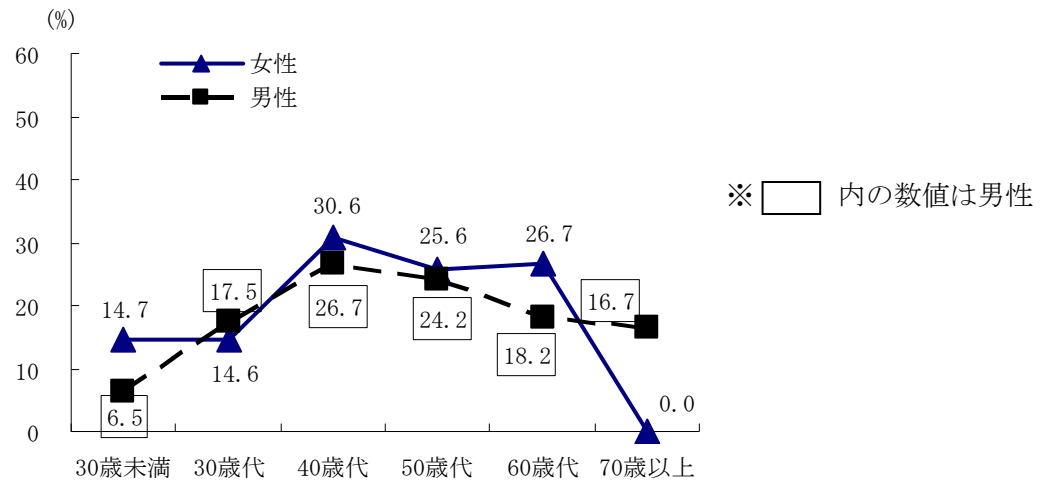


図1-22 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「賃金」

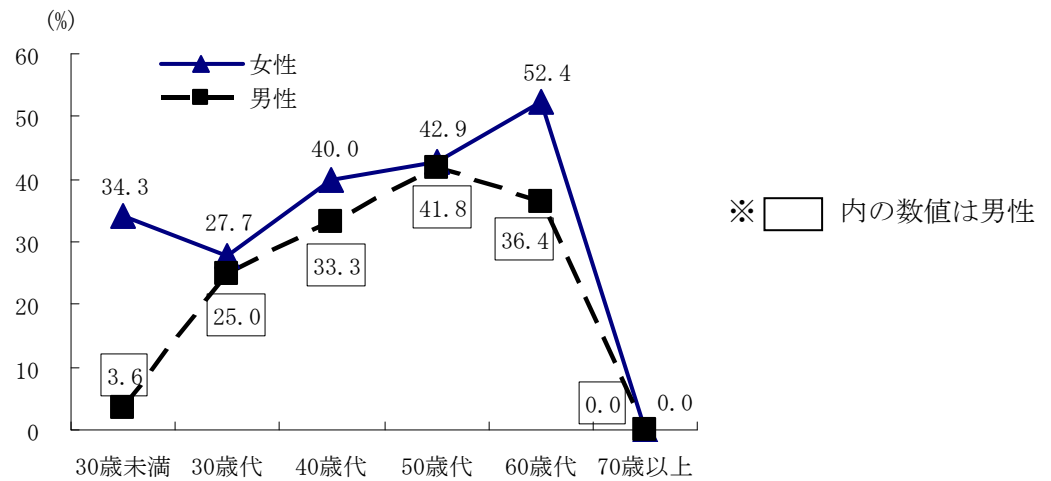


図1-23 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「昇進・昇格」

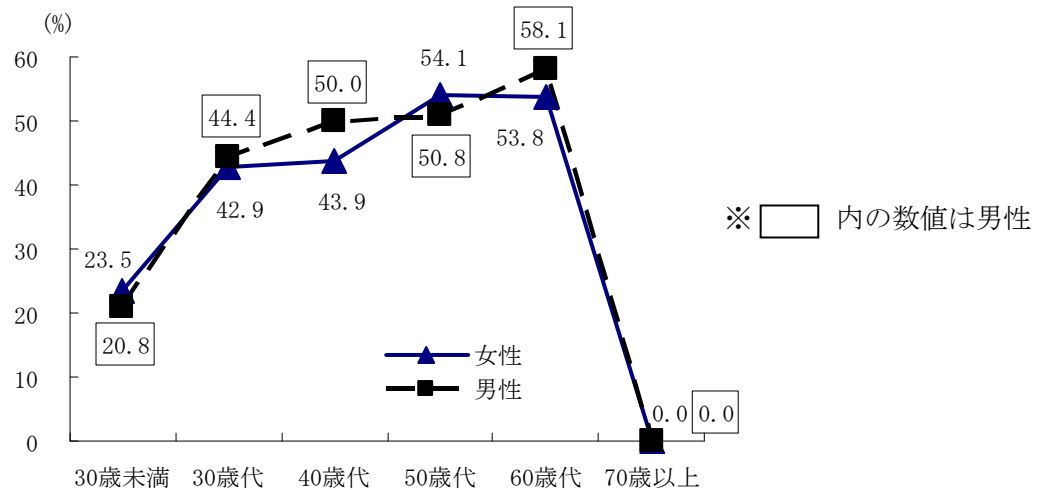


図1-24 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「能力評価(業績評価・人事考課など)」

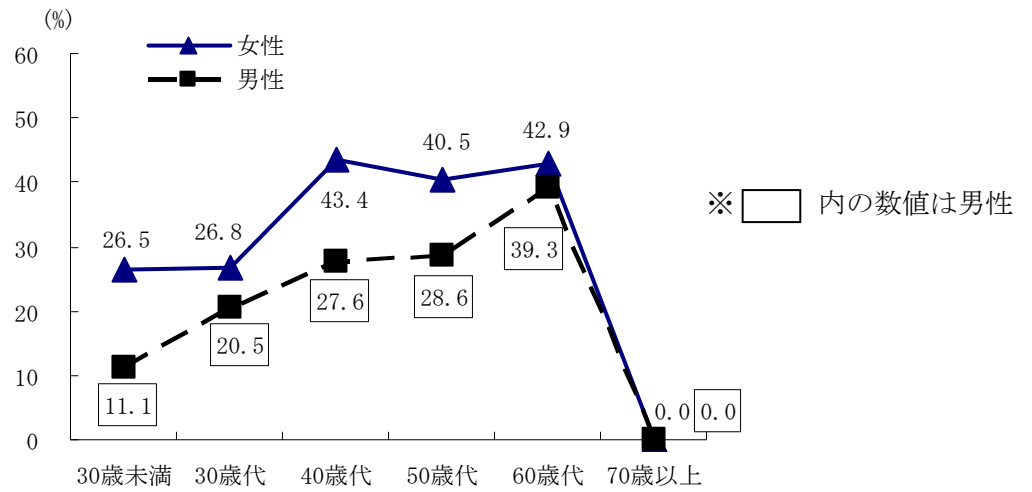


図1-25 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「管理職への登用」

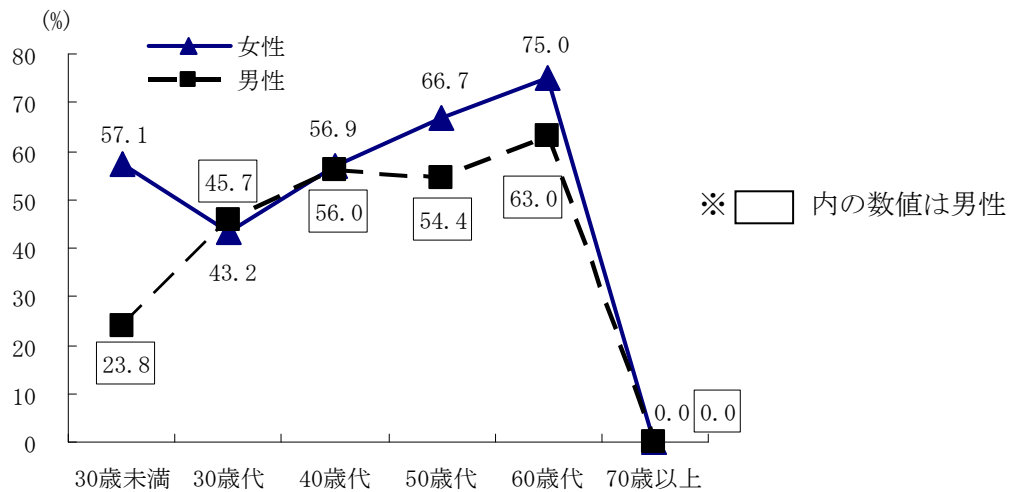


図1-26 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合「研修の頻度や内容」

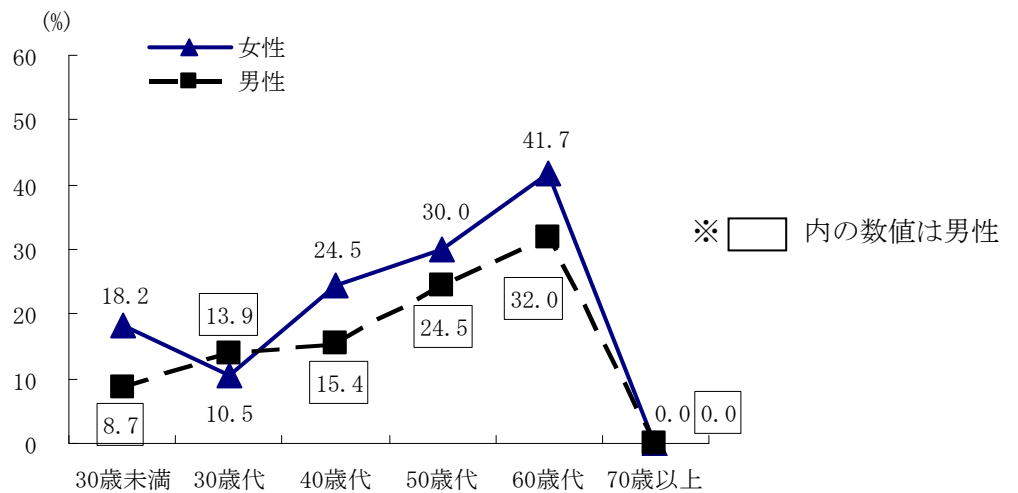


図1-27 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「定年まで働き続けやすい雰囲気」

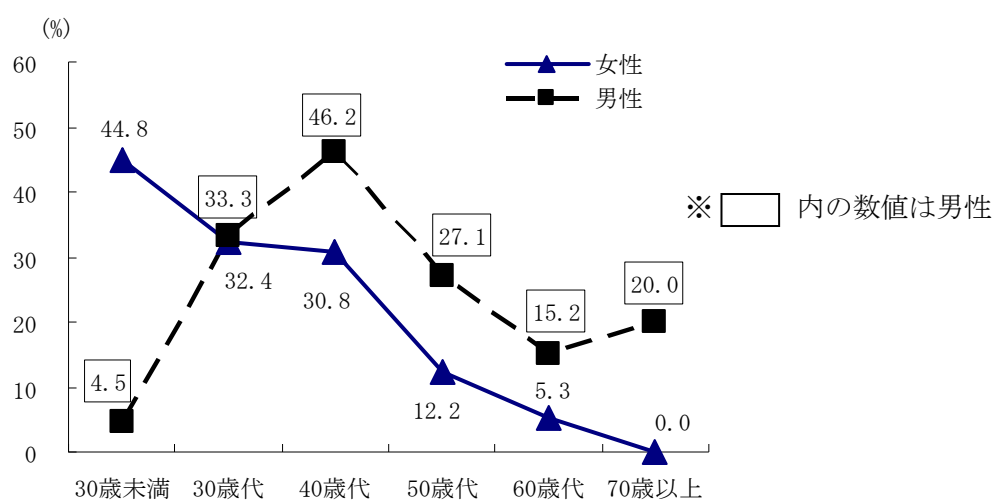


図1-28 性別・年齢層別「男性の方が優遇されている」割合 「育児・介護休業などの取得に関して」

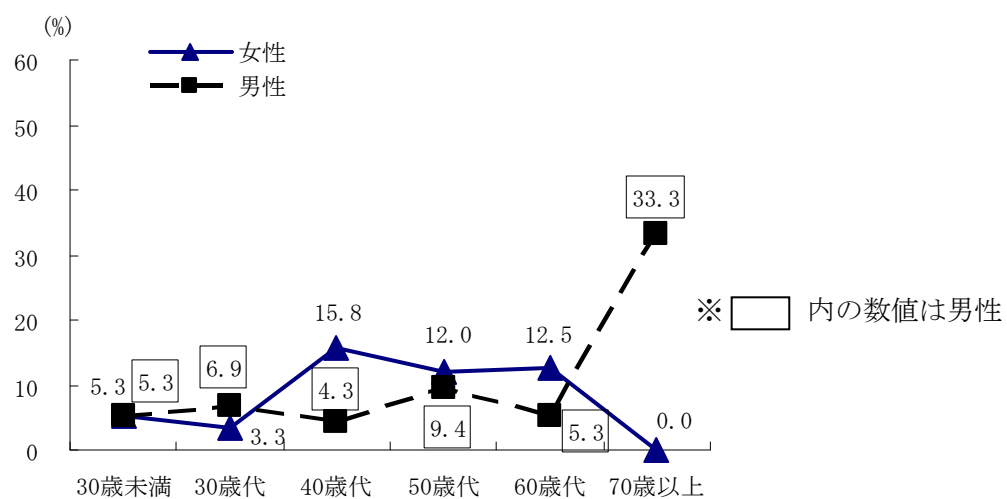


表1-2 性別・年齢層別・就業形態別 職場の中の性別による対応や評価に対する実感
すべての選択肢から「男性の方が優遇されている」と回答した割合

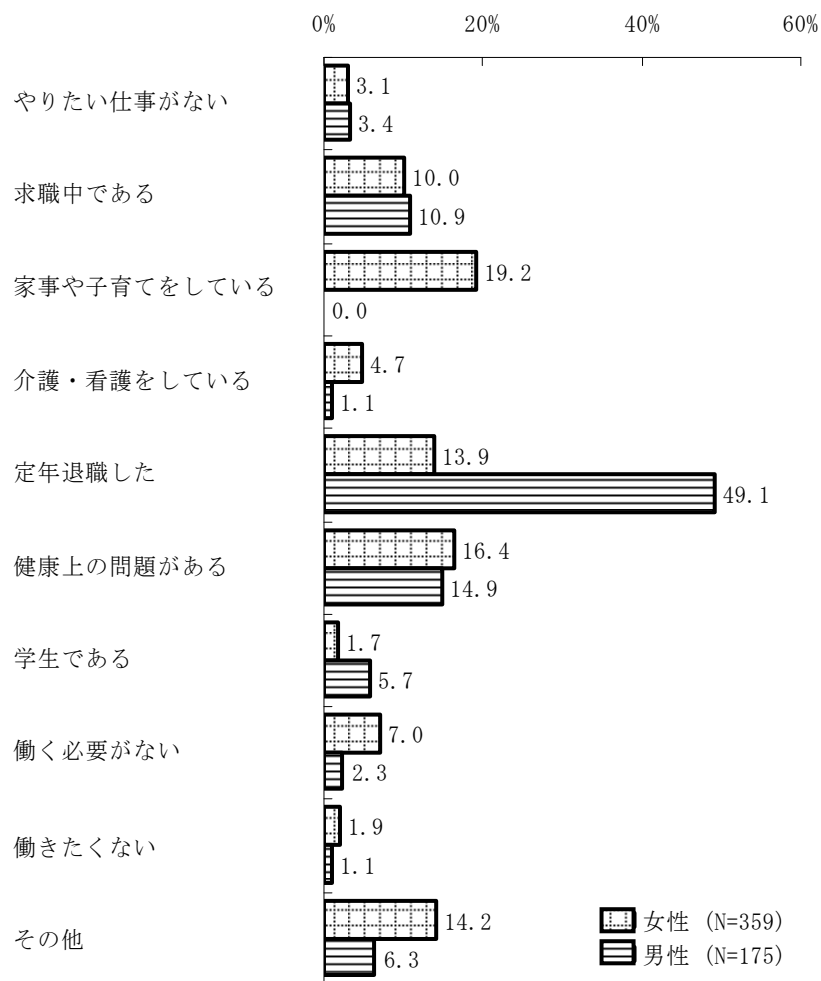
			対象者数(人)	募集・採用の仕方	採用数	配置される職場	仕事の内容	賃金	昇進・昇格	能力評価(業績評価・人事考課など)	管理職への登用	研修の頻度や内容	定年まで働き続けやすい雰囲気	育児・介護休業などの取得に関して
全 体			696	15.5	18.1	10.8	12.6	20.7	23.3	16.1	25.4	9.8	13.8	3.3
女 性			354	15.5	14.1	10.5	13.0	22.6	22.3	18.1	26.6	10.2	13.8	3.4
男 性			342	15.5	22.2	11.1	12.3	18.7	24.3	14.0	24.3	9.4	13.7	3.2
年 齢	女性	30 歳未満	45	15.6	11.1	13.3	11.1	26.7	17.8	20.0	35.6	13.3	28.9	2.2
		30 歳代	71	11.3	11.3	8.5	9.9	18.3	25.4	15.5	22.5	5.6	16.9	1.4
		40 歳代	86	20.9	19.8	18.6	22.1	25.6	29.1	26.7	33.7	14.0	18.6	7.0
		50 歳代	89	20.2	18.0	7.9	12.4	23.6	22.5	16.9	24.7	10.1	6.7	3.4
		60 歳代	49	8.2	8.2	4.1	8.2	22.4	14.3	12.2	18.4	10.2	2.0	2.0
		70 歳以上	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	30 歳未満	43	7.0	11.6	7.0	4.7	2.3	11.6	7.0	11.6	4.7	2.3	2.3
		30 歳代	59	20.3	30.5	10.2	11.9	16.9	27.1	13.6	27.1	8.5	20.3	3.4
		40 歳代	43	23.3	41.9	20.9	18.6	20.9	30.2	18.6	32.6	9.3	27.9	2.3
		50 歳代	88	20.5	26.1	13.6	18.2	31.8	35.2	20.5	35.2	14.8	18.2	5.7
		60 歳代	86	11.6	14.0	9.3	9.3	18.6	20.9	12.8	19.8	9.3	5.8	1.2
		70 歳以上	23	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3
就 業 形 態	女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	24.2	21.8	16.9	19.4	36.3	38.7	27.4	45.2	14.5	23.4	4.0
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	18.5	20.4	9.3	14.8	31.5	29.6	25.9	31.5	16.7	13.0	3.7
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	9.7	7.8	9.7	10.7	13.6	12.6	12.6	17.5	6.8	9.7	2.9
		自営業主・経営者(農林業を含む)	16	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
		自営業の手伝い、家族従業員	33	12.1	9.1	3.0	3.0	9.1	3.0	6.1	3.0	3.0	3.0	3.0
		内職など家庭のできる仕事	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	20.9	30.3	13.9	14.9	22.9	32.8	17.9	31.3	10.4	18.4	3.5
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	17.4	26.1	17.4	17.4	17.4	26.1	13.0	26.1	17.4	17.4	8.7
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	0.0	0.0	3.1	0.0	3.1	9.4	3.1	6.3	6.3	0.0	0.0
		自営業主・経営者(農林業を含む)	64	7.8	10.9	6.3	10.9	14.1	10.9	10.9	17.2	6.3	9.4	3.1
		自営業の手伝い、家族従業員	10	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問6で、「仕事はしていない」と答えられた方におたずねします。

問12 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(〇は1つ)

図1-29 仕事をしていない理由



■「家事や子育てをしている」を理由にあげたのは女性のみ

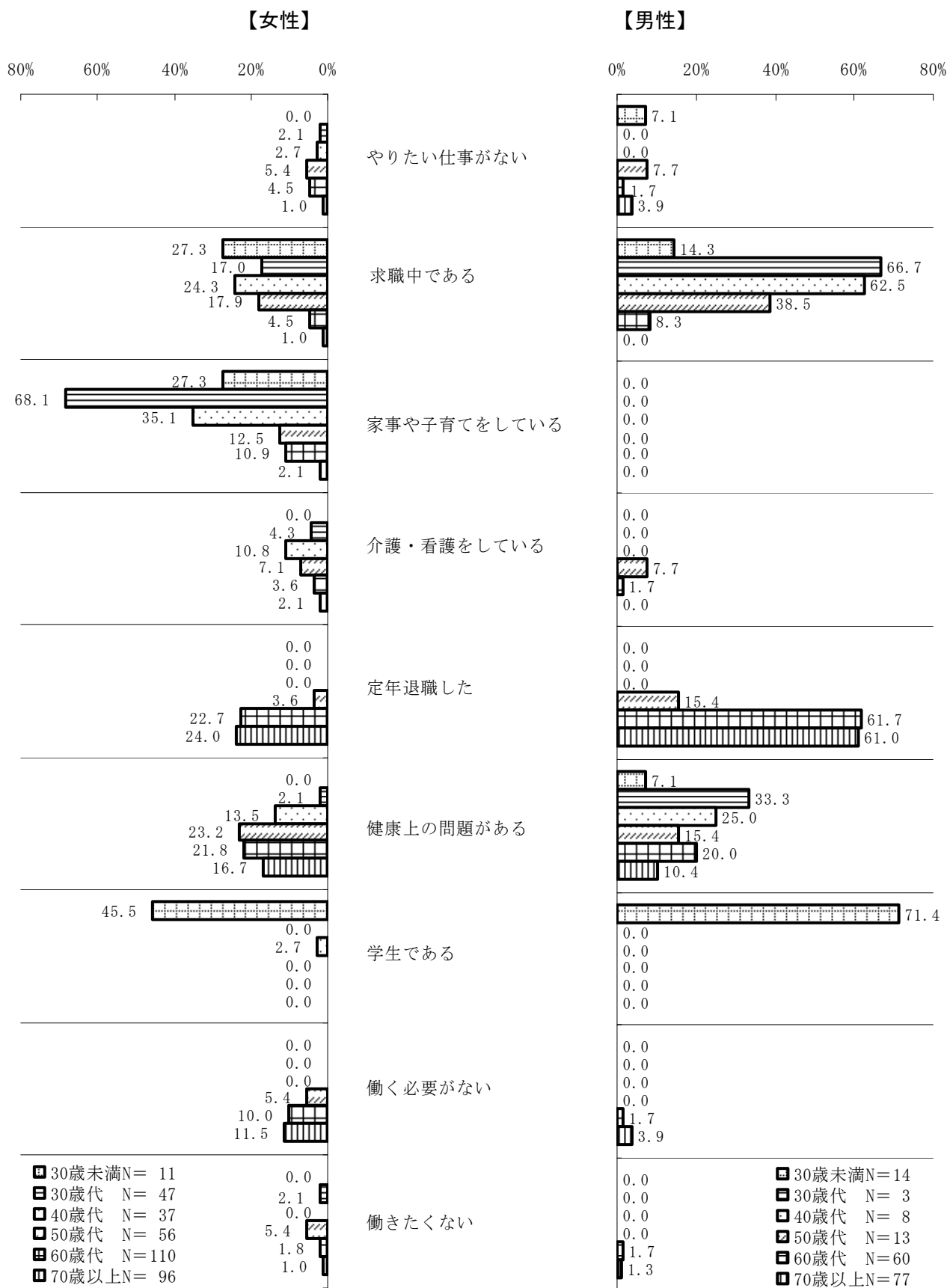
女性の場合の理由で最も高い割合のものは、「家事や子育てをしている」で、19.2%。この理由をあげた男性はいない。ついで、「健康上の問題がある」(16.4%)、「定年退職した」(13.9%)と続くが、どれも10%台である。

■男性の場合は、「定年退職した」が約半数

男性の場合は、「定年退職した」が49.1%で突出して高くなっている以外は、「健康上の問題がある」(14.9%)、「求職中である」(10.9%)が10%台、他は1ケタ台となっている。

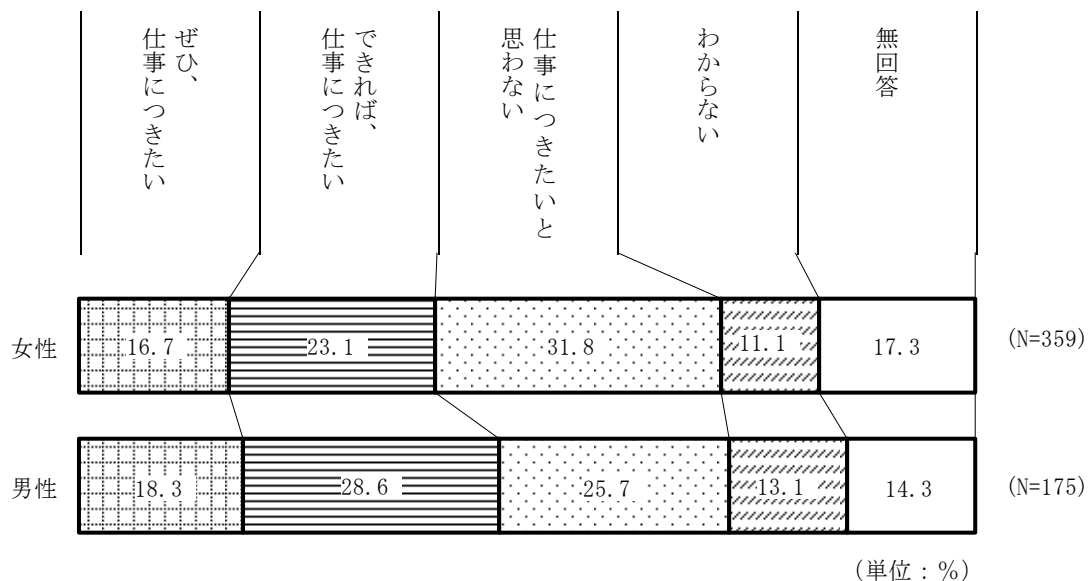
性別・年齢層別

図1-30 性別・年齢層別 働いていない理由



問 13 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

図1-31 今後の就労意向



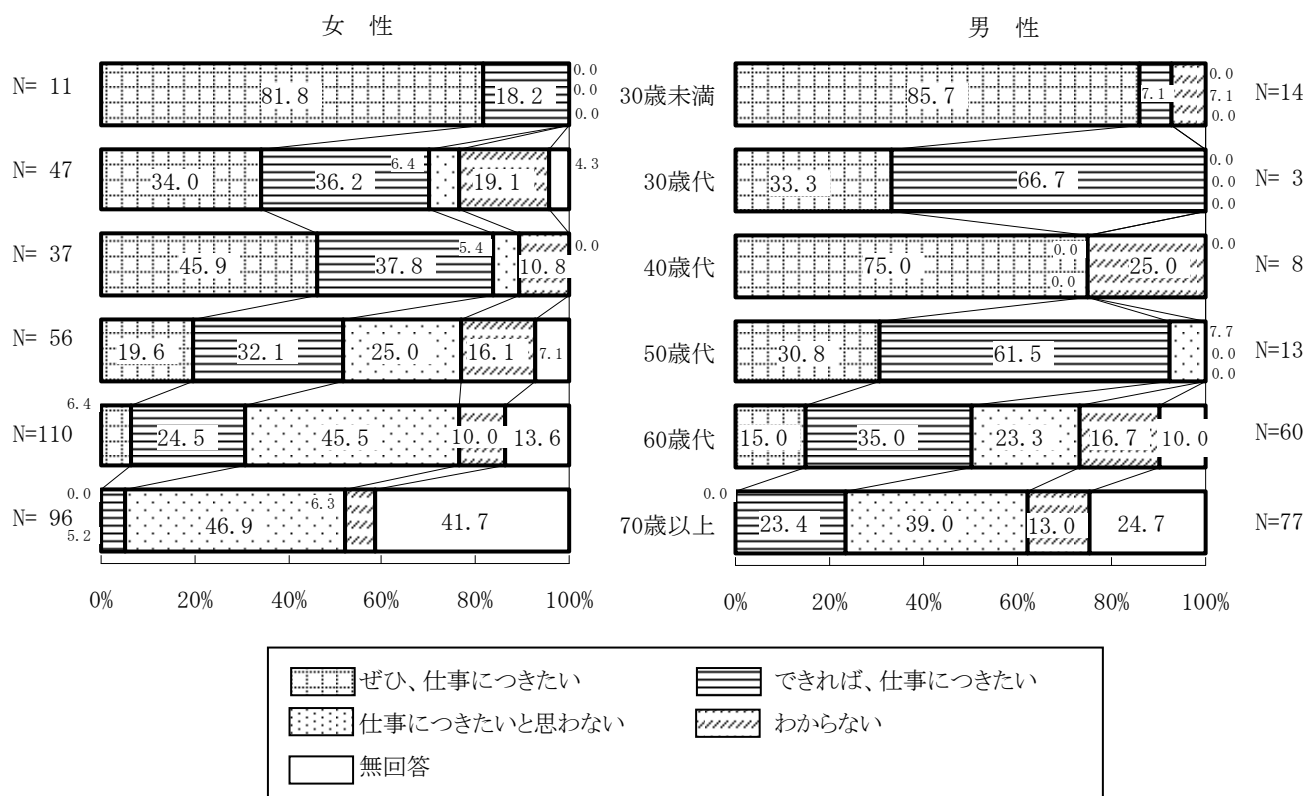
■男女ともに「仕事につきたい」が「仕事につきたいと思わない」を上回る

女性の場合、＜仕事につきたい＞（「ぜひ、仕事につきたい」＋「できれば、仕事につきたい」）が 39.8% である。

男性の場合、＜仕事につきたい＞（「ぜひ、仕事につきたい」＋「できれば、仕事につきたい」）が 46.9% である。

性別・年齢層別

図1-32 性別・年齢層別 今後の就労希望



参考表 性別・年齢層別 今後の就労希望

		対象者数(人)	ぜひ、仕事につきたい	できれば、仕事につきたい	仕事につきたいと思わない	わからない	無回答
女性	30歳未満	11	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0
	30歳代	47	34.0	36.2	6.4	19.1	4.3
	40歳代	37	45.9	37.8	5.4	10.8	0.0
	50歳代	56	19.6	32.1	25.0	16.1	7.1
	60歳代	110	6.4	24.5	45.5	10.0	13.6
	70歳以上	96	0.0	5.2	46.9	6.3	41.7
男性	30歳未満	14	85.7	7.1	0.0	7.1	0.0
	30歳代	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
	40歳代	8	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	50歳代	13	30.8	61.5	7.7	0.0	0.0
	60歳代	60	15.0	35.0	23.3	16.7	10.0
	70歳以上	77	0.0	23.4	39.0	13.0	24.7

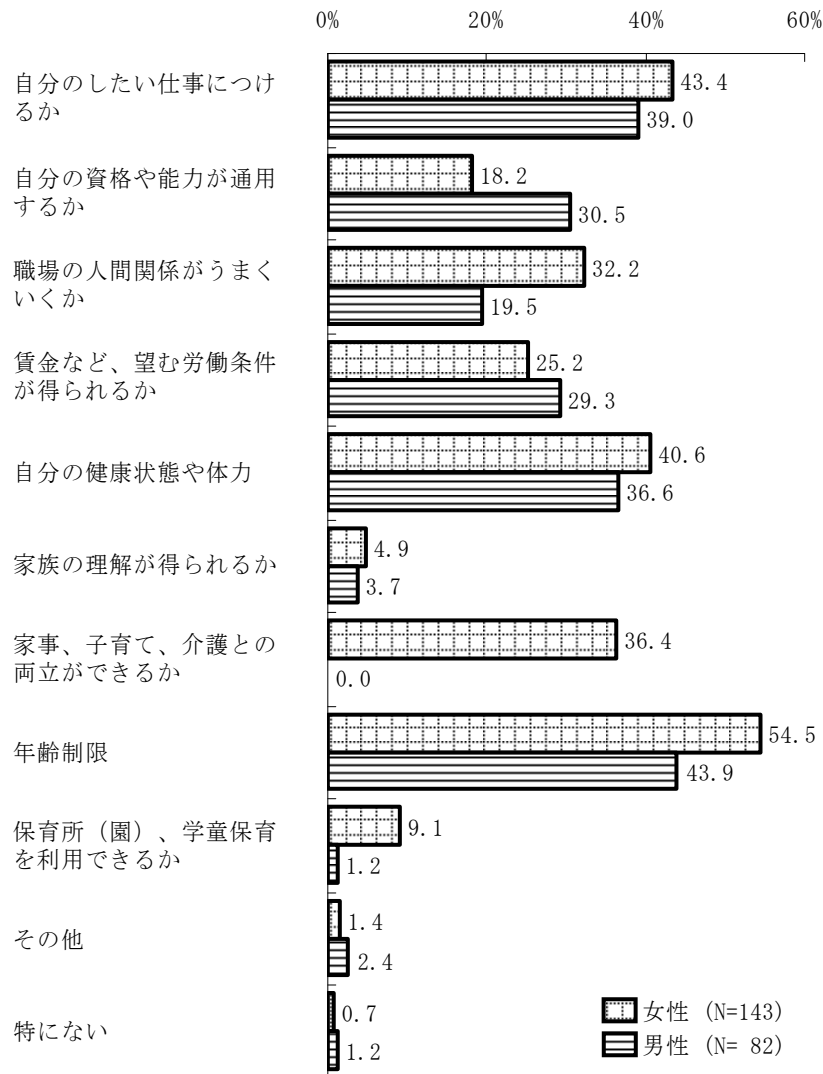
(%)

◆＜仕事につきたい＞の割合が70%を超えているのは、女性の場合は、30歳未満で100%、40歳代で83.7%、30歳代で70.2%である。

◆男性の場合は、30歳代で100%、30歳未満で92.8%、50歳代で92.3%、40歳代で75.0%である。

問 13-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。
(○はいくつでも)

図1-33 仕事につく上での困ったことや不安



■今後仕事につく上で「年齢制限」「したい仕事につけるか」「自分の健康状態や体力」に不安を感じる
前問で「ぜひ、仕事につきたい」「できれば、仕事につきたい」と回答した人に、今後仕事につく上での困ったことや不安をたずねたところ、男女ともに上位3位は、「年齢制限」(女性 54.5%・男性 43.9%)、「自分のしたい仕事につけるか」(女性 43.4%・男性 39.0%)、「自分の健康状態や体力」(女性 40.6%・男性 36.6%)である。特に、女性の場合は、「年齢制限」を2人に1人が選んでいる。

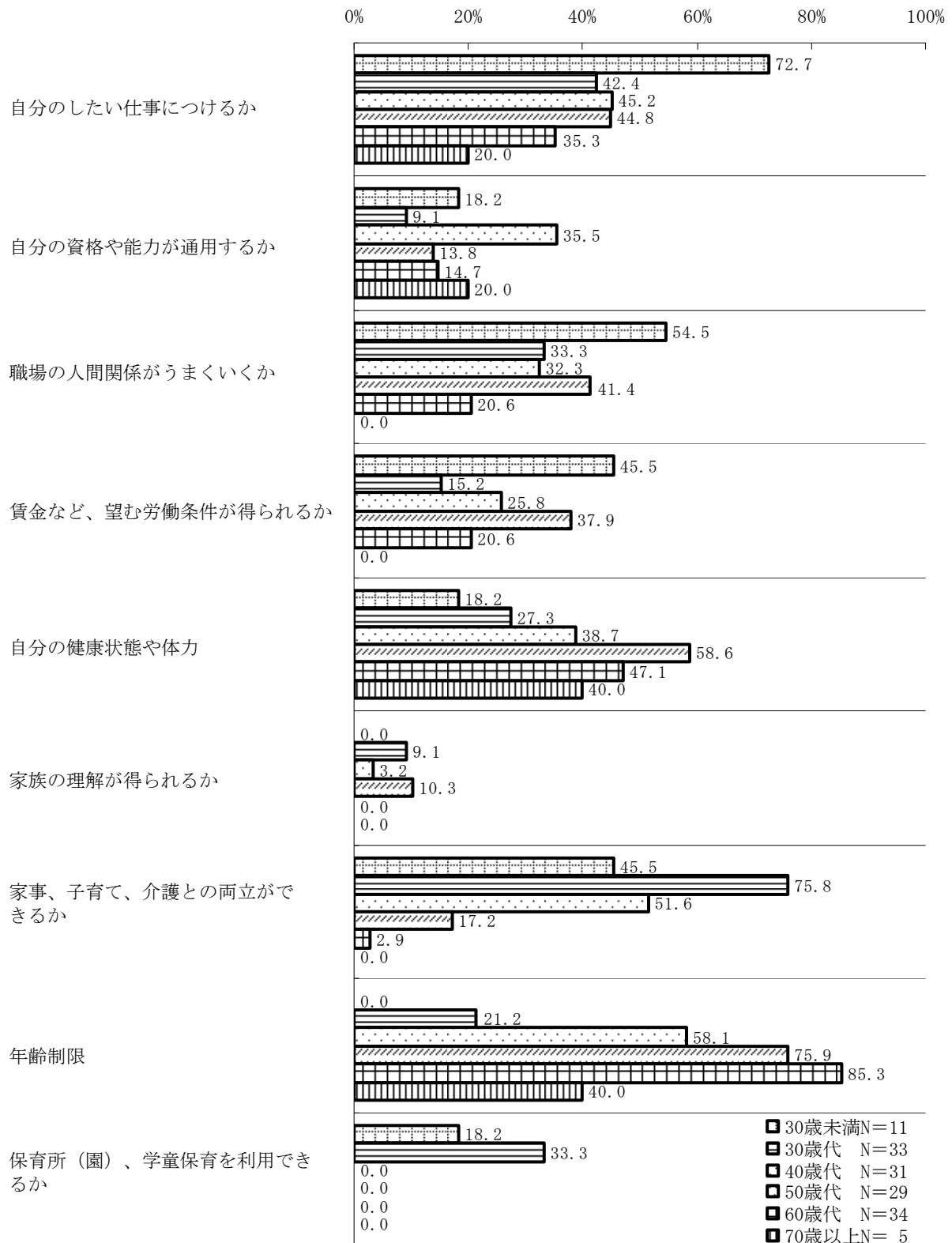
「自分の資格や能力が通用するか」では男性が女性よりも12.3ポイント、「職場の人間関係がうまくいくか」では女性が男性よりも12.7ポイント高くなっている。

■「家事、子育て、介護との両立ができるか」を選択しているのは女性のみ

女性は「家事、子育て、介護との両立ができるか」を36.4%が選んでいるものの、男性においては0%である。

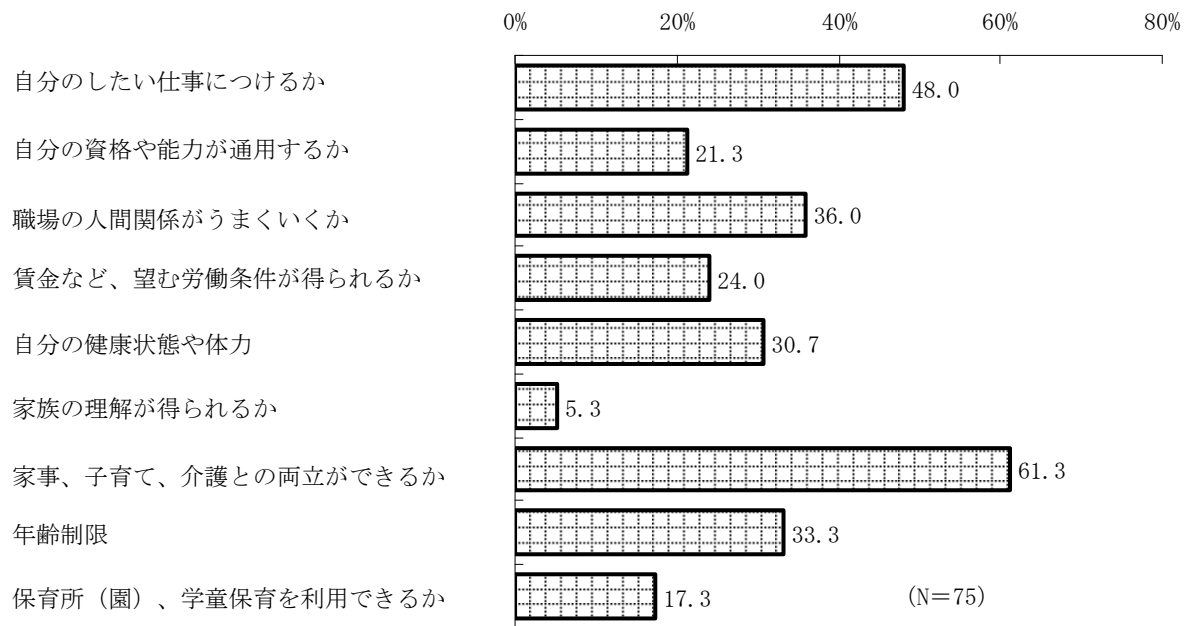
年齢層別

図1-34 年齢層別 仕事につく上での困ったことや不安 <女性>



- ◆「自分のしたい仕事につけるか」「職場の人間関係がうまくいくか」の割合は、30 歳未満が他の年齢層より 10 ポイント以上高く、72.7%、54.5%である。
- ◆「家事、子育て、介護との両立ができるか」「保育所（園）、学童保育を利用できるか」の割合は、30 歳代が他の年齢層より高く、75.8%、33.3%である。
- ◆「年齢制限」の割合は、50、60 歳代で高く、70%を超えている。

図1－35 仕事につく上での困ったことや不安 <女性・50歳未満>

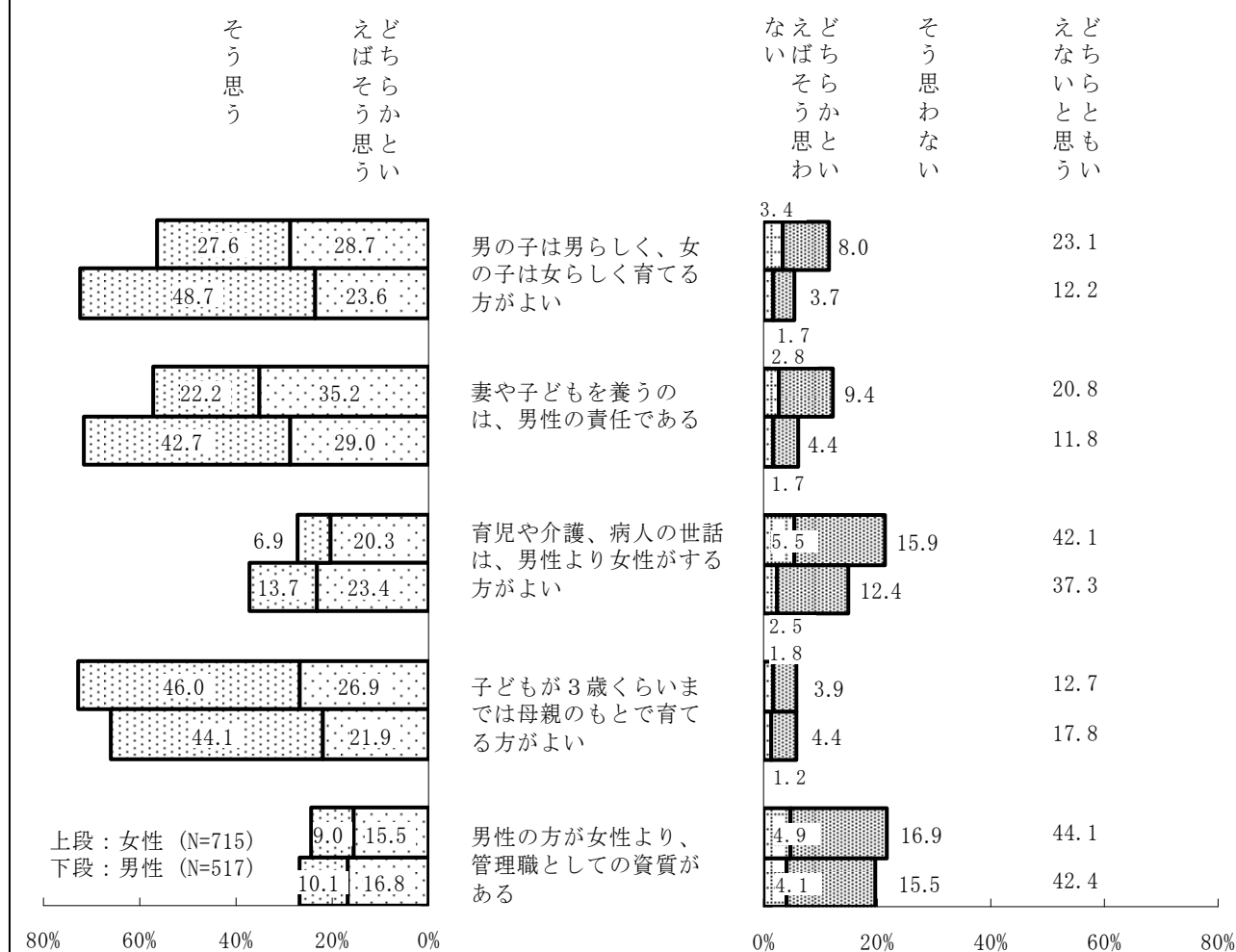


- ◆女性の30歳未満から50歳未満までの年齢層では、70%以上が<仕事につきたい>と回答している。その年齢層の仕事につく上での困ったことや不安をグラフ化したのが上記である。
- それによると、「家事、子育て、介護との両立ができるか」が最も高い割合で61.3%、ついで、「自分のしたい仕事につけるか」が48.0%、「職場の人間関係がうまくいくか」が36.0%、「年齢制限」が33.3%、「自分の健康状態や体力」が30.7%である。

2. 日常生活や子育てについて

問 14 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。感じたままをお答えください。
(①～⑤の項目ごとに○は1つつつ)

図2-1 日常生活における考え方



■ 日常のさまざまな場面で固定的な性別役割分担意識は強い

日常生活や職場での男女の役割についての考えをたずねた。

「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」という子育てに関する設問や「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」では、＜そう思う＞（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）割合が50%を超えて高くなっている。

また、男女で比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」では、＜そう思う＞は男性の割合の方が女性よりも10ポイント以上高くなっている。

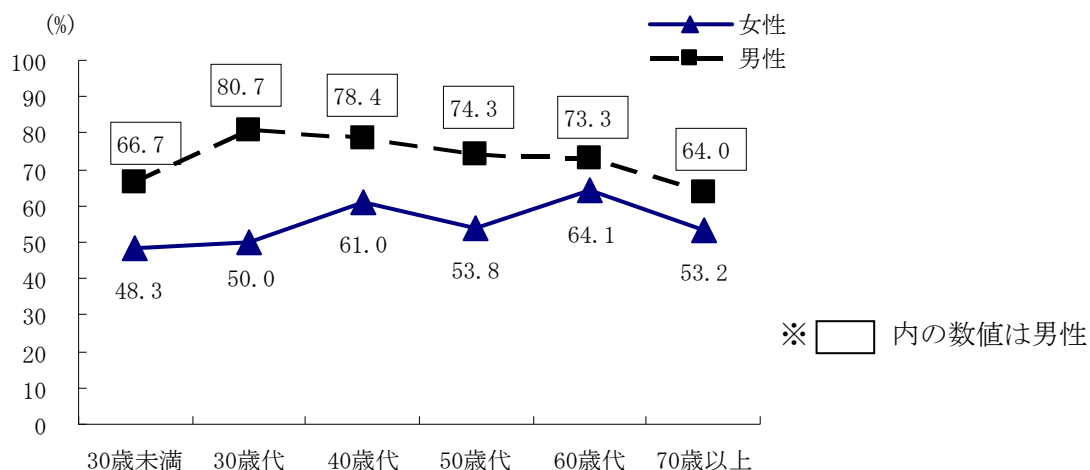
■ 「管理職」「育児や介護、病人の世話」では「どちらともいえない」の割合が高い

「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」と「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」では、「どちらともいえない」の割合がそれぞれ女性44.1%・男性42.4%、女性42.1%・男性37.3%と高い。しかし、「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」においては、女性27.2%・男性37.1%が＜そう思う＞を選んでいいる。「男性の方が女性より、管理職としての資質が

ある」においては、女性の＜そう思う＞と＜そう思わない＞（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）割合は同程度となっている。

性別・年齢層別

図2-2 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」



◆男性の場合は、子育て世代である30歳代で、年齢層の中で最も高く、女性の割合とは30.7ポイントの開きがあり、男女のギャップは大きい。

図2-3 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「妻や子どもを養うのは、男性の責任である」

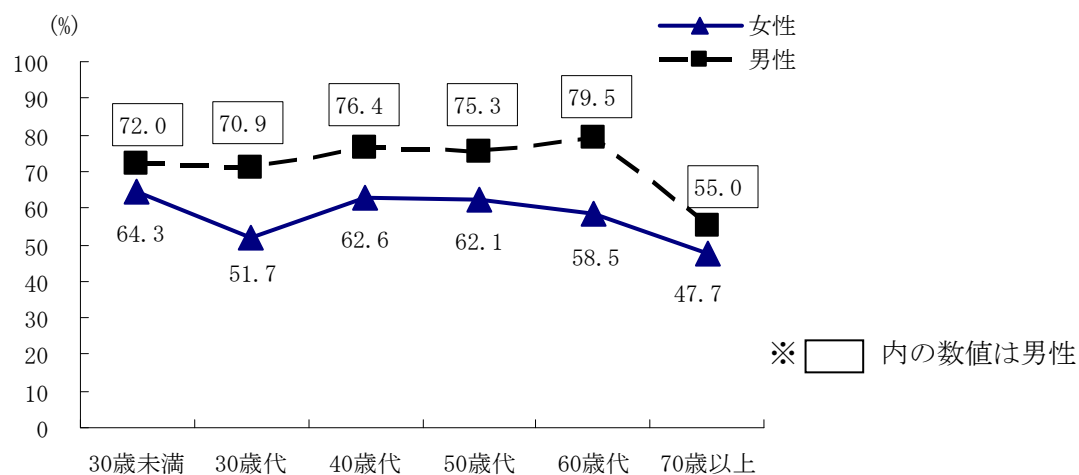


図2-4 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい」

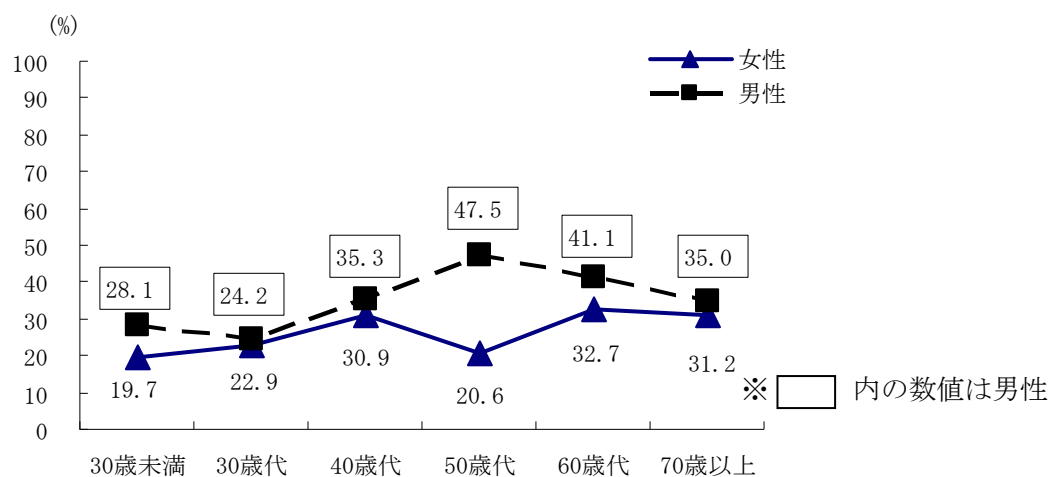


図2-5 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」

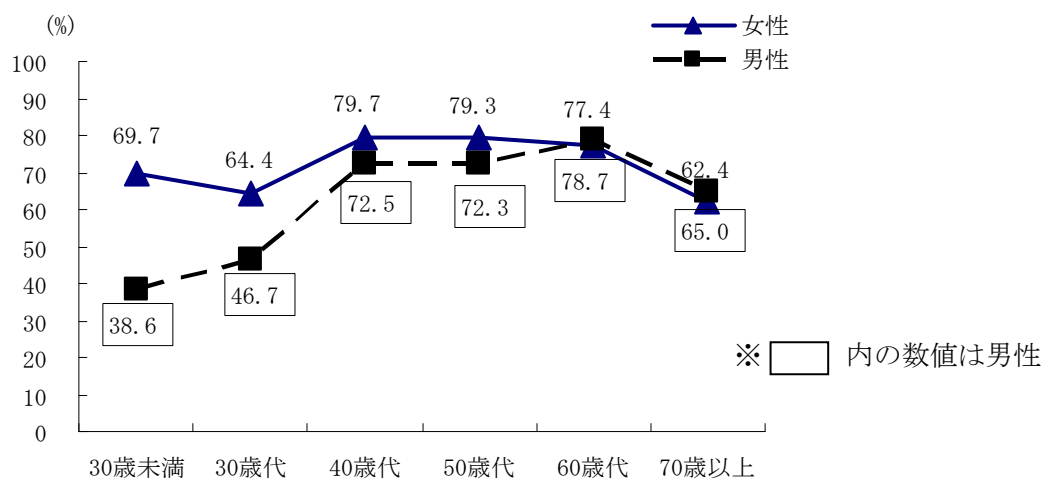
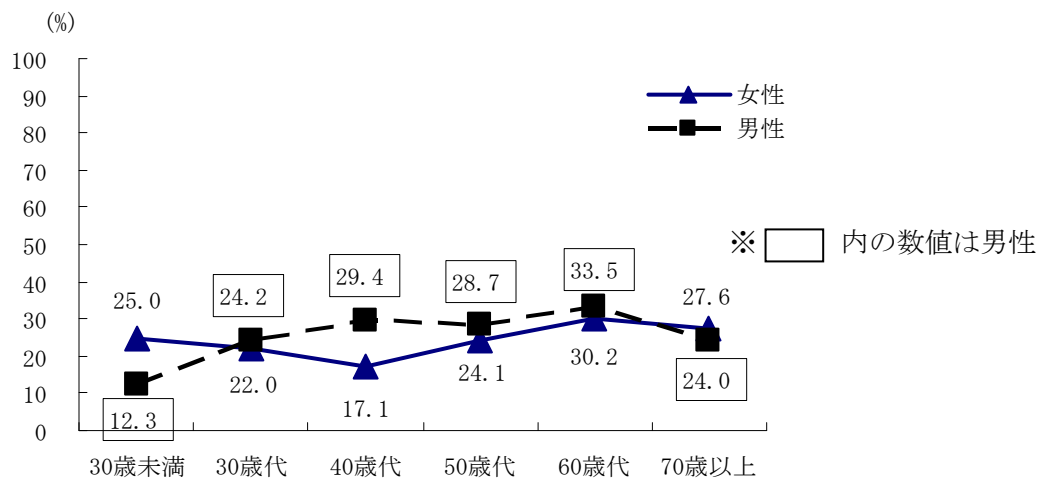


図2-6 性別・年齢層別「そう思う」の割合 「男性の方が女性より、管理職としての資質がある」



問 15 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

表2－1 平日の生活時間

	女 性	男 性
① 睡眠	6時間30分	6時間48分
② 食事、入浴など	2時間12分	1時間54分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	7時間54分	9時間30分
④ 家事・育児・介護など	5時間24分	2時間12分
⑤ 余暇、自由時間	4時間48分	6時間00分
⑥ その他	3時間36分	4時間30分

※この項目の数字は、項目ごとに回答者 1 人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると 24 時間を超えていることを考慮する必要がある。

■「仕事・通勤あるいは学業・通学」「家事・育児・介護など」では男女で時間の開きがある

この項目の数字は、項目ごとに回答者 1 人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると 24 時間を超えていることを考慮する必要がある。

「睡眠」「仕事・通勤あるいは学業・通学」、「余暇、自由時間」「その他」は男性が長く、「家事・育児・介護など」「食事、入浴など」は女性が長い。

性別で比較すると、時間に開きがあるのは、「仕事・通勤あるいは学業・通学」（女性 7 時間 54 分・男性 9 時間 30 分）、「家事・育児・介護など」（女性 5 時間 24 分・男性 2 時間 12 分）である。

性別・年齢層別

◆「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の最も長いのは、男女ともに 30 歳代で女性 9 時間 30 分、男性 10 時間 54 分である。男性は 50 歳代でも 10 時間 18 分と長時間である。

◆「家事・育児・介護など」時間の最も長いのは、女性では 30 歳代で 7 時間 18 分。ついで、40 歳代は 5 時間 48 分である。男性では 50 歳代の 2 時間 42 分が最も長い。

◆「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の長い 30 歳代の男性は、「家事・育児・介護など」時間は 1 時間 54 分である。

◆2 番目に「仕事・通勤あるいは学業・通学」時間の長い 50 歳代の男性は、「家事・育児・介護など」時間も 2 時間 42 分と男性の中では一番長くなっている。

表2-2 性別・年齢層別 平日の生活時間

		対象者数 (人)	睡眠	食事、 入浴な ど	通学 する いは 学業・ 通勤あ	家事・ 育児・ 介護な ど	余暇、 自由時 間	その他
女性	30歳未満	56	6:36	2:06	9:06	4:48	3:42	2:54
	30歳代	118	6:36	2:12	9:30	7:18	3:36	4:00
	40歳代	123	6:06	2:00	7:06	5:48	3:42	3:30
	50歳代	145	6:24	1:54	7:24	4:48	4:48	3:00
	60歳代	159	6:36	2:12	7:12	4:54	5:42	4:06
	70歳以上	109	7:00	2:54	5:12	4:18	7:24	3:42
男性	20歳代	57	6:30	1:36	9:30	1:42	4:54	3:48
	30歳代	62	6:24	1:42	10:54	1:54	3:54	6:00
	40歳代	51	6:24	1:42	9:00	2:06	5:00	6:42
	50歳代	101	6:30	2:18	10:18	2:42	4:24	4:48
	60歳代	146	7:06	1:48	8:24	2:24	7:12	5:00
	70歳以上	100	7:18	1:54	5:42	2:12	9:00	3:12

※生活時間は無回答を除いた平均値

(時：分)

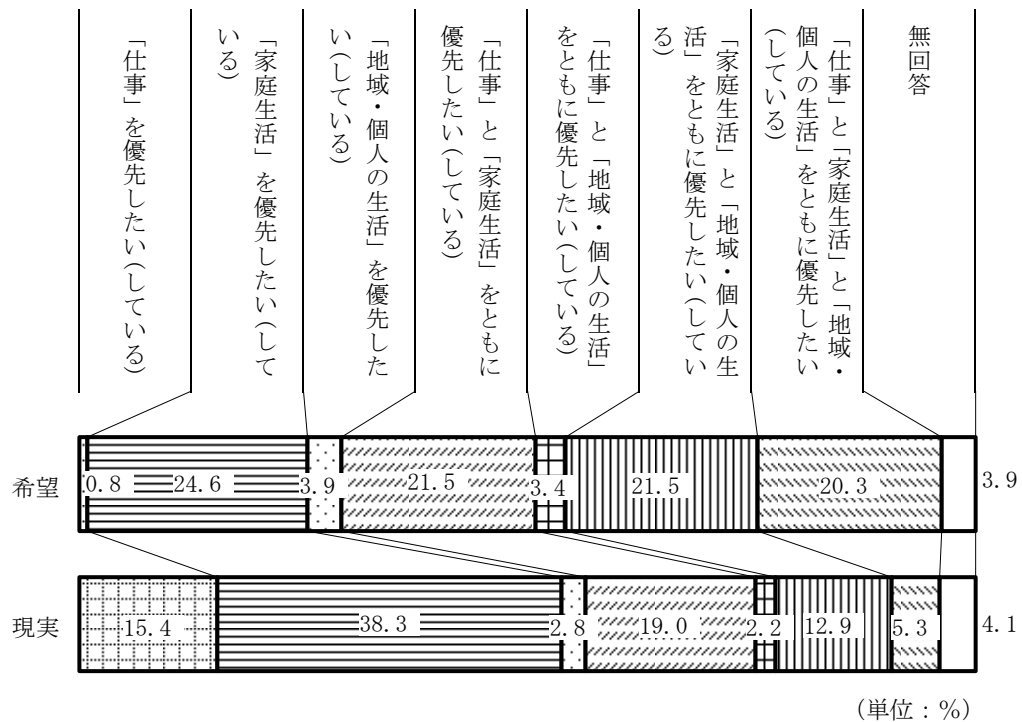
表2-3 性別・職業別 平日の生活時間

		睡眠	食事、 入浴な ど	通学 する いは 学業・ 通勤あ	家事・ 育児・ 介護な ど	余暇、 自由時 間	その他
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	6:12	1:54	10:42	3:12	3:00	2:18
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	6:18	1:54	7:36	3:12	3:30	4:24
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	6:18	2:00	5:54	5:18	3:36	2:42
	自営業主・経営者（農林業を含む）	6:48	2:18	7:18	4:24	3:54	1:30
	自営業の手伝い、家族従業員	6:48	3:18	7:36	4:12	3:30	2:12
	内職など家庭でできる仕事	7:00	2:54	4:42	8:36	3:24	1:00
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	6:18	2:00	10:06	1:36	3:36	4:42
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	6:48	1:24	10:48	3:48	4:18	3:18
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	6:54	2:00	7:06	2:00	6:06	4:24
	自営業主・経営者（農林業を含む）	7:00	1:36	8:42	1:24	4:42	3:42
	自営業の手伝い、家族従業員	6:54	1:30	8:42	2:00	5:42	20.0

(時：分)

- 問16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）
- 問17 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

図2-7 暮らし方の希望と現実 <女性の場合> (N=715)



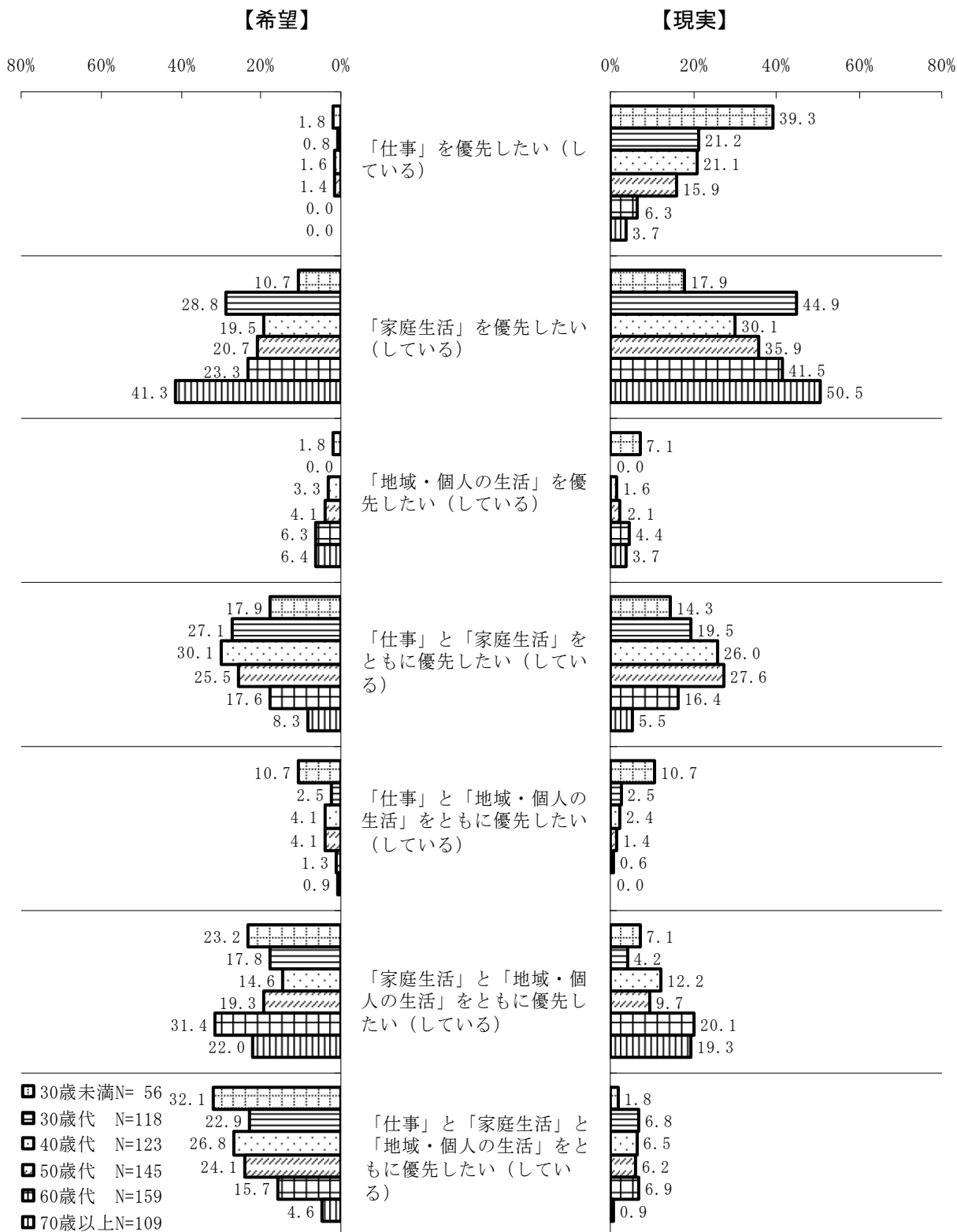
■女性では、希望は多様だが、現実には「『家庭生活』を優先している」が最も高い

希望の暮らし方をみると、「『家庭生活』を優先したい」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」が20%台で同じ程度に希望している。

一方、現実の暮らし方は、「『家庭生活』を優先している」が最も高く38.3%。ついで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が19.0%、「『仕事』を優先している」が15.4%、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」が12.9%と続く。

年齢層別

図2-8 年齢層別 暮らし方の希望と現実 <女性の場合>

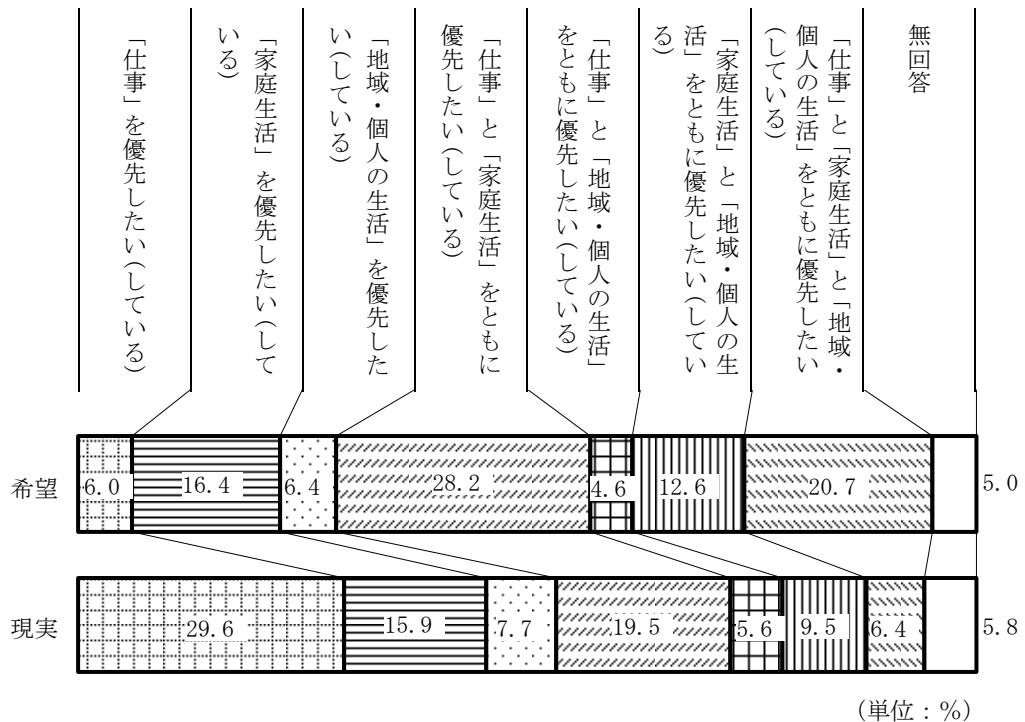


◆ 「『仕事』を優先したい」割合は年齢層による違いはほとんどないものの、「『仕事』を優先している」割合は30歳未満で39.3%と最も高く、年齢層が高いほどその割合は低くなっている。

問 16 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

問 17 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。（○は1つ）

図2-9 暮らし方の希望と現実 <男性の場合> (N=517)



■男性の場合、『仕事』と『家庭生活』の両立を希望する割合が最も高いが、現実には『仕事』を優先しているが最も高い

希望の暮らし方を割合の高い順でみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」（28.2%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」（20.7%）、「『家庭生活』を優先したい」（16.4%）である。

一方、現実の暮らし方は、「『仕事』を優先している」が最も高く 29.6%。ついで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 19.5%、「『家庭生活』を優先している」が 15.9%と続く。

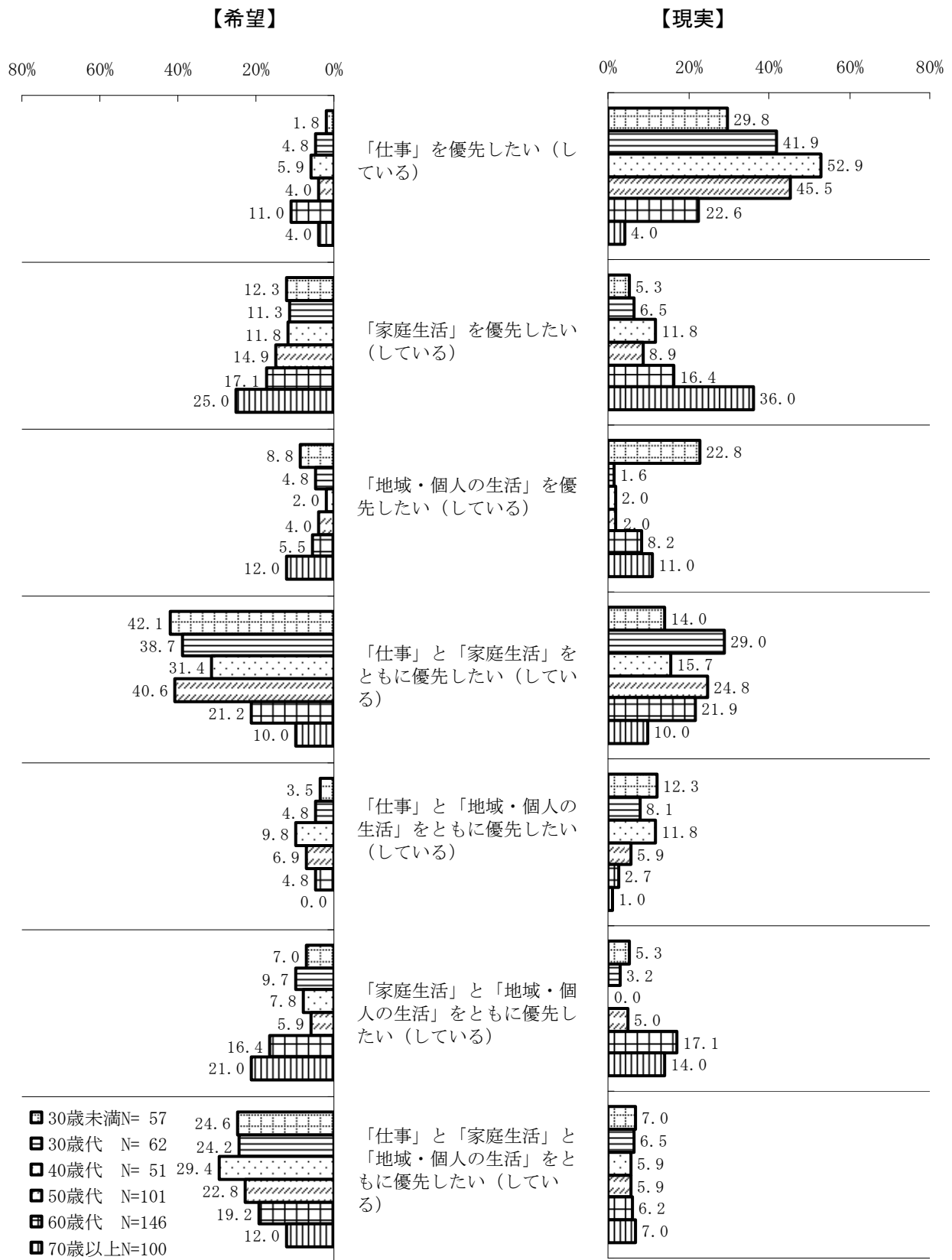
<現実>は、<希望>よりは、「『仕事』を優先している」の割合が高く、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先している」の割合が低くなっている。

年齢層別

◆「『仕事』を優先したい」の割合は 60 歳代が 11.0%である他は、どの年齢層も 1 ケタ台であるが、「『仕事』を優先している」の割合は、30～50 歳代で高く、特に、40 歳代では 52.9%である。

◆「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」では、40 歳代で最も高く 29.4%で、30 歳未満～50 歳代では 20%を超えているが、<現実>にはどの年齢層においても 5～7%にとどまっている。

図2-10 年齢層別 暮らし方の希望と現実 <男性の場合>

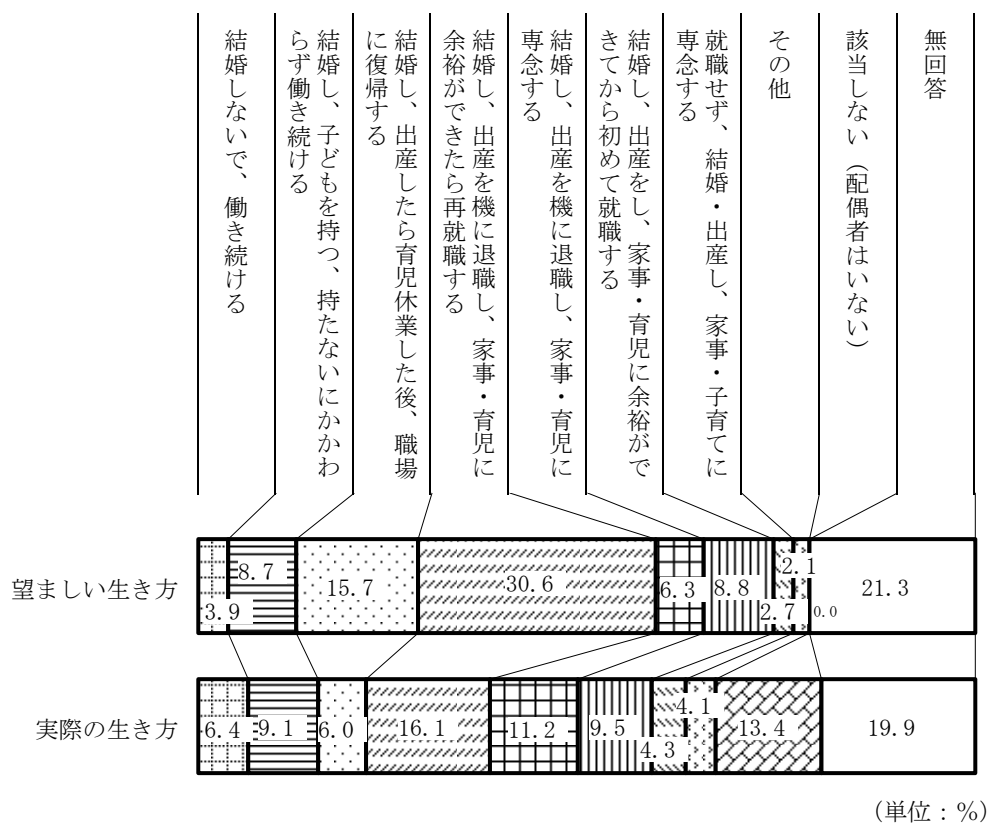


問 18 あなたは、女性の生き方について、(1) どのような生き方が望ましいと思われますか。
(男性もお答えください。)

また、(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)

((1)(2) それぞれに○は1つずつ)

図2-11 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方<女性の意見> (N=715)



■女性が望む生き方は、「就労継続型」と「再就職型」がそれぞれ約30%

望ましい生き方として最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で30.6%。その一方で、「就労継続型」(「結婚しないで、働き続ける」+「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」+「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」)も28.3%である。

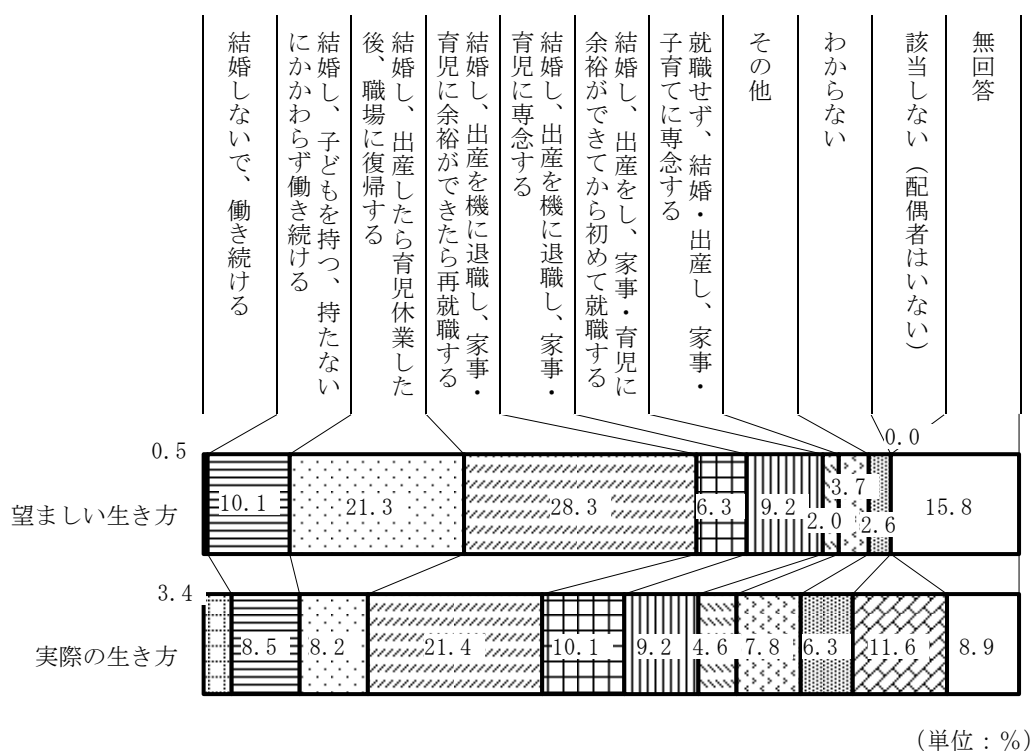
■実際の生き方は、「再就職型」の割合が最も高く16.1%

実際の生き方をみると、最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で16.1%。

「該当しない(配偶者はいない)」の割合が13.4%と高くなっているため、望ましい生き方と単純に比較できないものの、「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」と「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」の割合がともに少なくなり、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」の割合が多くなっている。

【前回調査】

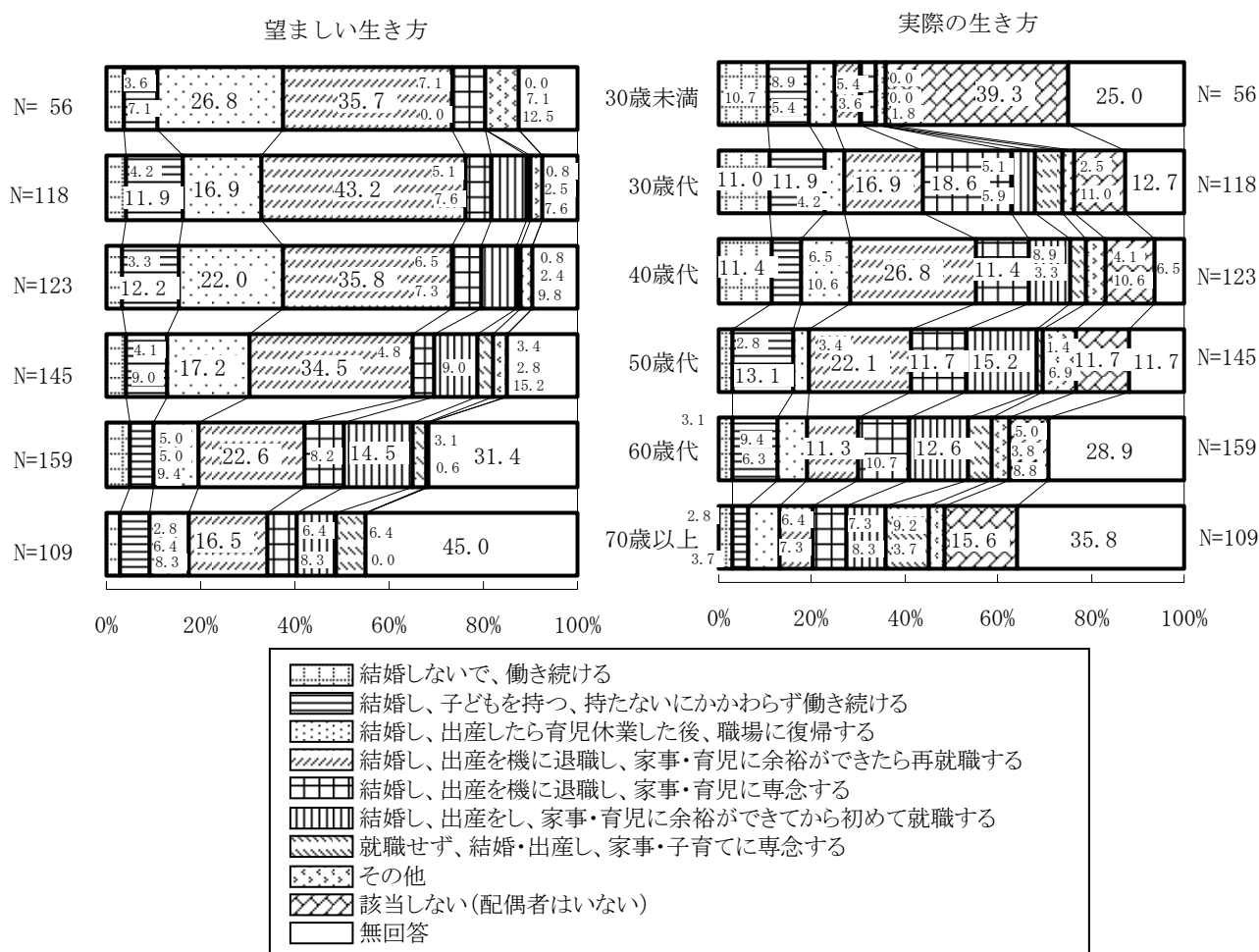
図2-12 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞（N=732）



- ◆「望ましい生き方」と「実際の生き方」を比べた場合、「実際の生き方」の方が「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」と「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」の割合は減少し、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する」の割合はやや高くなるなど、前回調査と同様の傾向となっている。

年齢層別

図2-13 年齢層別 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞

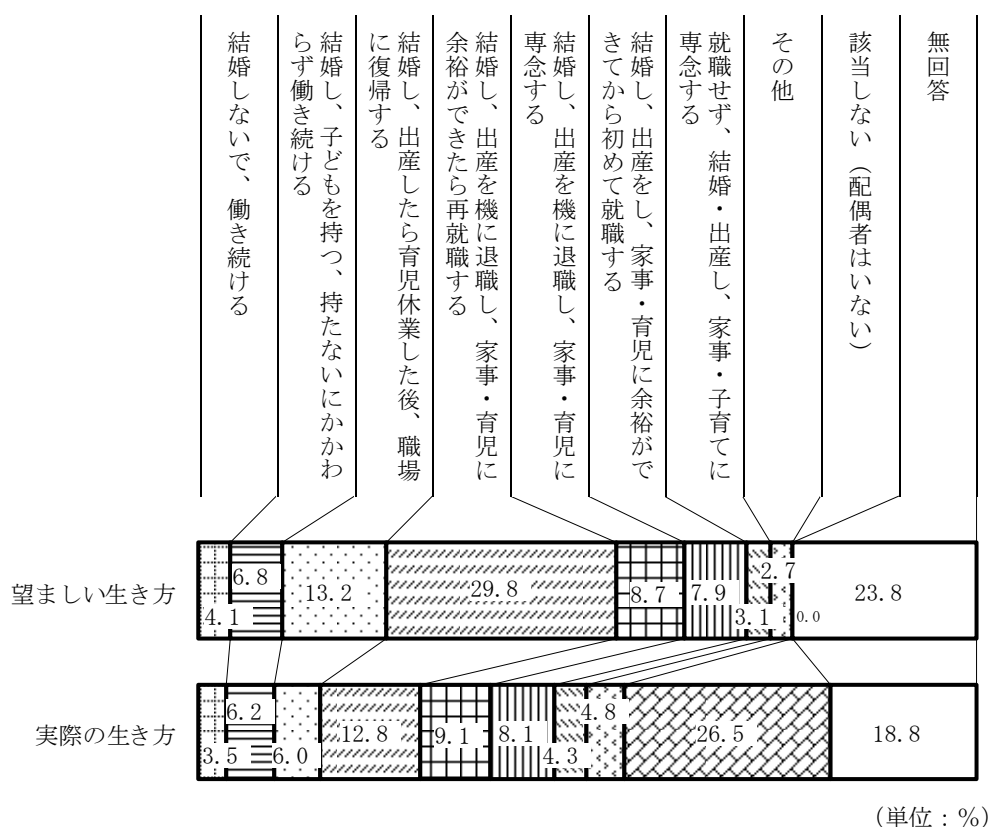


参考表 年齢層別 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜女性の意見＞

		対象者数(人)	結婚しないで、働き続ける	結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する	就職せず、結婚・出産し、家事・子育てに専念する	その他	該当しない(配偶者はいない)	無回答
望ましい 生き方	30歳未満	56	3.6	7.1	26.8	35.7	7.1	0.0	0.0	7.1		12.5
	30歳代	118	4.2	11.9	16.9	43.2	5.1	7.6	0.8	2.5		7.6
	40歳代	123	3.3	12.2	22.0	35.8	6.5	7.3	0.8	2.4		9.8
	50歳代	145	4.1	9.0	17.2	34.5	4.8	9.0	3.4	2.8		15.2
	60歳代	159	5.0	5.0	9.4	22.6	8.2	14.5	3.1	0.6		31.4
	70歳以上	109	2.8	6.4	8.3	16.5	6.4	8.3	6.4	0.0		45.0
実際の 生き方	30歳未満	56	10.7	8.9	5.4	5.4	3.6	0.0	0.0	1.8	39.3	25.0
	30歳代	118	11.0	11.9	4.2	16.9	18.6	5.1	5.9	2.5	11.0	12.7
	40歳代	123	11.4	6.5	10.6	26.8	11.4	8.9	3.3	4.1	10.6	6.5
	50歳代	145	2.8	13.1	3.4	22.1	11.7	15.2	1.4	6.9	11.7	11.7
	60歳代	159	3.1	9.4	6.3	11.3	10.7	12.6	5.0	3.8	8.8	28.9
	70歳以上	109	2.8	3.7	6.4	7.3	7.3	8.3	9.2	3.7	15.6	35.8

(%)

図2-14 望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方＜男性の意見＞（N=517）



■男性が配偶者に望む生き方は、「再就職型」が29.8%

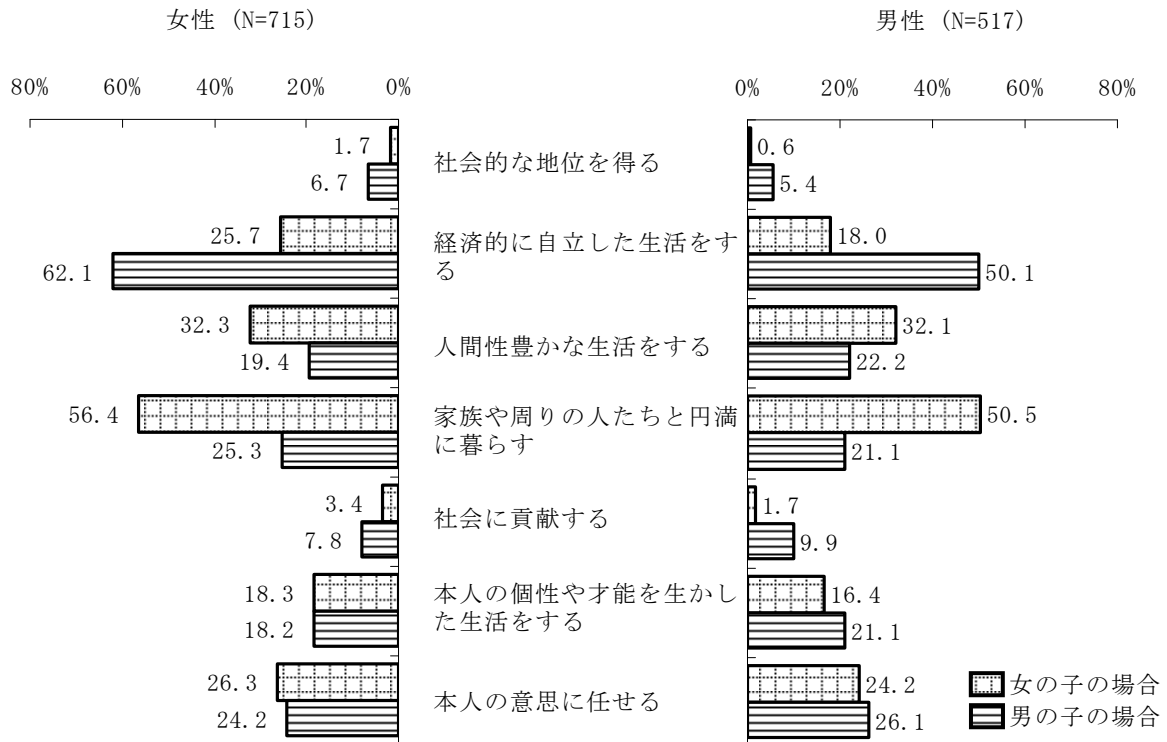
男性が配偶者に望む生き方として最も高い割合なのは、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」で29.8%。「就労継続型」（「結婚しない、働き続ける」＋「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」＋「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」）は24.1%である。

■配偶者の実際の生き方は、「就労継続型」15.7%、「再就職型」12.8%

実際の生き方をみると、「該当しない（配偶者はいない）」と無回答の割合が45.3%と半数近くを占めている。その中で、「就労継続型」は15.7%、「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」は12.8%である。

問 19 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。
 女の子、男の子それぞれの場合について、()内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

図2-15 子どもの将来像として望む生き方



■女の子には「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が最も望まれている

「女の子」の将来については、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が突出して高く、女性 56.4%・男性 50.5%である。ついで、「人間性豊かな生活をする」が女性 32.3%・男性 32.1%、「本人の意思に任せる」が女性 26.3%・男性 24.2%である。

■男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている

「男の子」の将来については、「経済的に自立した生活をする」が突出して高く、女性 62.1%・男性 50.1%である。ついで、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が女性 25.3%・男性 21.1%、「本人の意思に任せる」が女性 24.2%・男性 26.1%である。

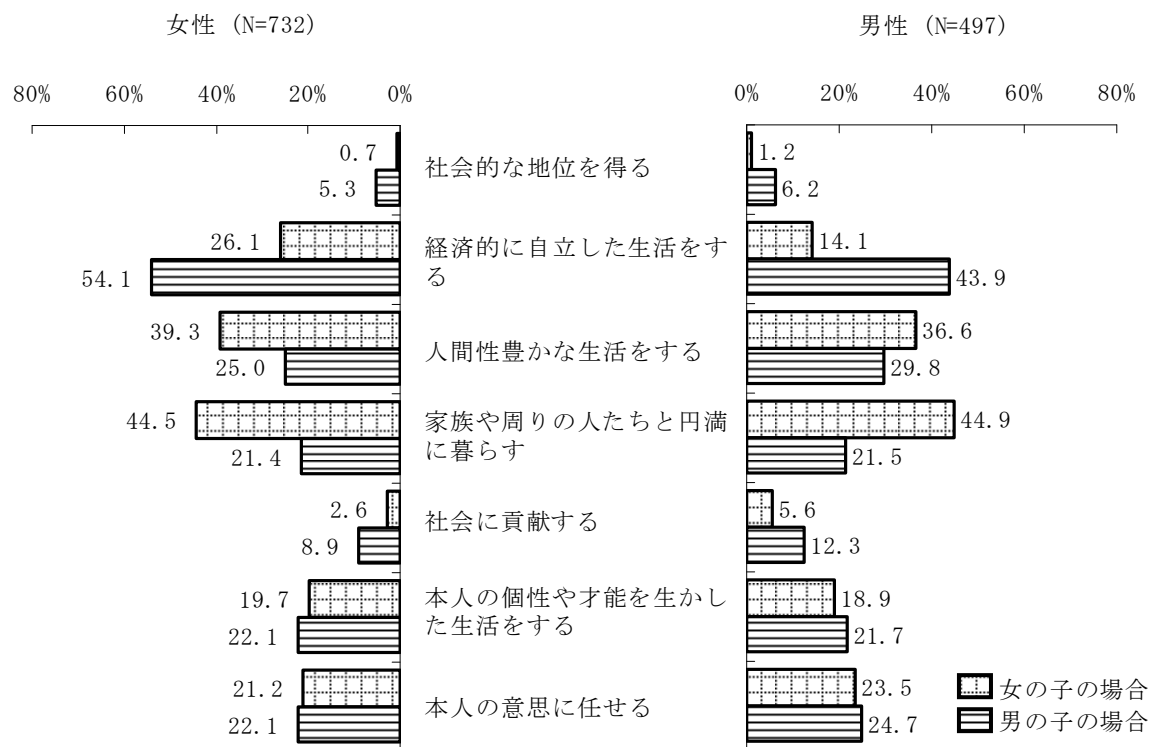
以上、「男の子」と「女の子」では望まれる生き方に違いがあり、その傾向は男女回答者でほぼ同じ傾向である。

■前回調査とほぼ同様の結果

これを前回調査（次ページ参照）と比較すると、多少の割合の違いはあるものの、ほぼ同様の結果である。

【前回調査】

図2-16 子どもの将来像として望む生き方



性別・年齢層別

表2-4 性別・年齢層別子どもの将来像として望む生き方

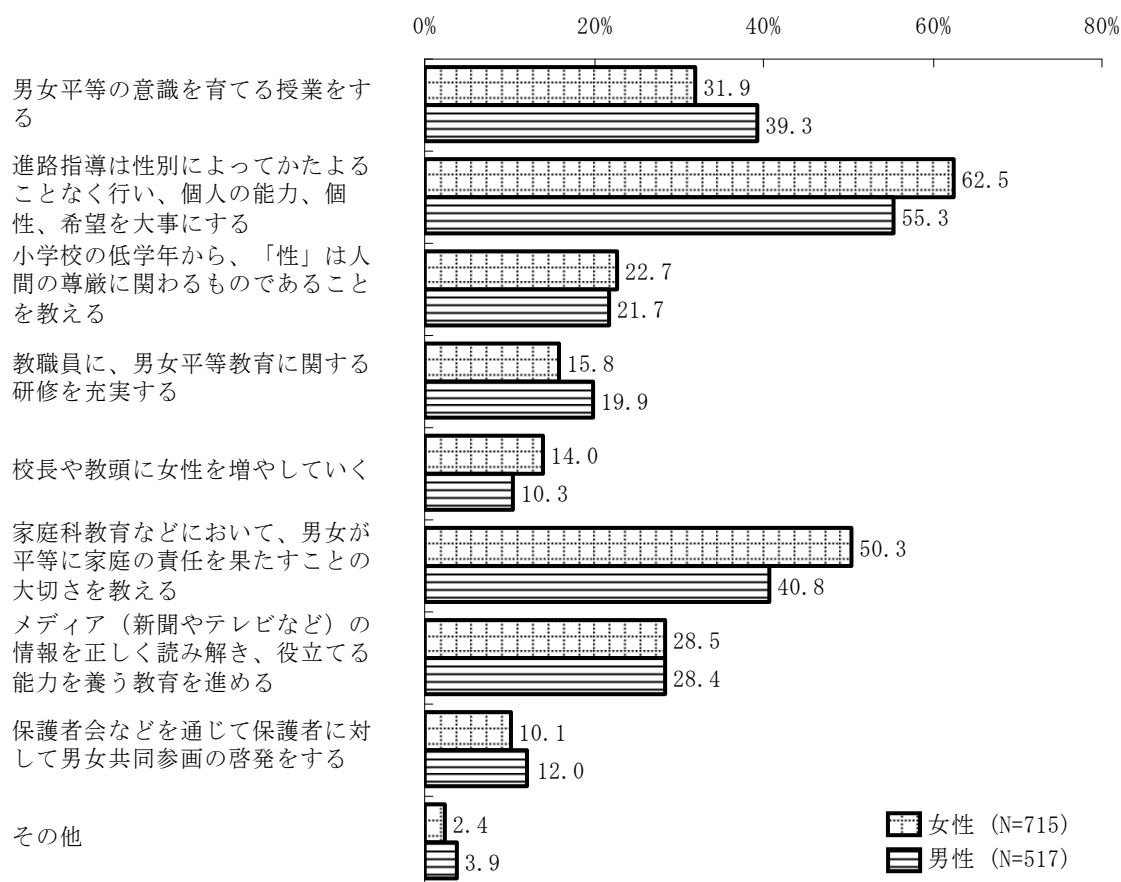
		対象者数(人)		社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人たちと円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる
女性	30 歳未満	56	「女の子」の場合	1.8	30.4	48.2	64.3	5.4	12.5	32.1
			「男の子」の場合	0.0	69.6	25.0	33.9	10.7	21.4	32.1
	30 歳代	118	「女の子」の場合	1.7	33.1	33.1	66.9	1.7	19.5	31.4
			「男の子」の場合	8.5	65.3	22.9	34.7	4.2	19.5	26.3
	40 歳代	123	「女の子」の場合	3.3	28.5	28.5	65.0	5.7	25.2	26.8
			「男の子」の場合	9.8	66.7	18.7	34.1	6.5	27.6	18.7
	50 歳代	145	「女の子」の場合	0.0	32.4	37.2	53.1	4.1	22.8	24.8
			「男の子」の場合	7.6	66.2	23.4	24.1	11.0	17.2	24.8
	60 歳代	159	「女の子」の場合	1.3	20.8	29.6	54.1	1.3	17.6	25.2
			「男の子」の場合	5.7	62.9	17.0	15.1	7.5	18.2	28.9
	70 歳以上	109	「女の子」の場合	2.8	11.0	25.7	40.4	2.8	7.3	21.1
			「男の子」の場合	4.6	45.0	11.9	17.4	7.3	6.4	16.5
男性	30 歳未満	57	「女の子」の場合	3.5	14.0	36.8	47.4	0.0	17.5	40.4
			「男の子」の場合	8.8	43.9	24.6	26.3	1.8	21.1	38.6
	30 歳代	62	「女の子」の場合	0.0	22.6	41.9	59.7	3.2	27.4	11.3
			「男の子」の場合	4.8	50.0	30.6	25.8	4.8	29.0	22.6
	40 歳代	51	「女の子」の場合	0.0	19.6	33.3	54.9	5.9	27.5	23.5
			「男の子」の場合	9.8	51.0	21.6	31.4	13.7	29.4	19.6
	50 歳代	101	「女の子」の場合	0.0	18.8	33.7	52.5	1.0	15.8	27.7
			「男の子」の場合	6.9	58.4	20.8	20.8	7.9	23.8	27.7
	60 歳代	146	「女の子」の場合	0.7	19.9	33.6	51.4	0.7	9.6	29.5
			「男の子」の場合	2.7	54.1	21.9	17.1	11.0	21.2	28.1
	70 歳以上	100	「女の子」の場合	0.0	13.0	19.0	41.0	2.0	14.0	12.0
			「男の子」の場合	4.0	39.0	18.0	16.0	16.0	9.0	20.0

(%)

◆女の子に「家族や周りの人たちと円満に暮らす」を望む割合は、女性の30歳未満から40歳代の年齢層で高く、60%を超えている。一方、男の子に「経済的に自立した生活をする」を望む割合は、女性では30歳未満～60歳代で60%を超えている。男性では50歳代でやや高くなっている。

問 20 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

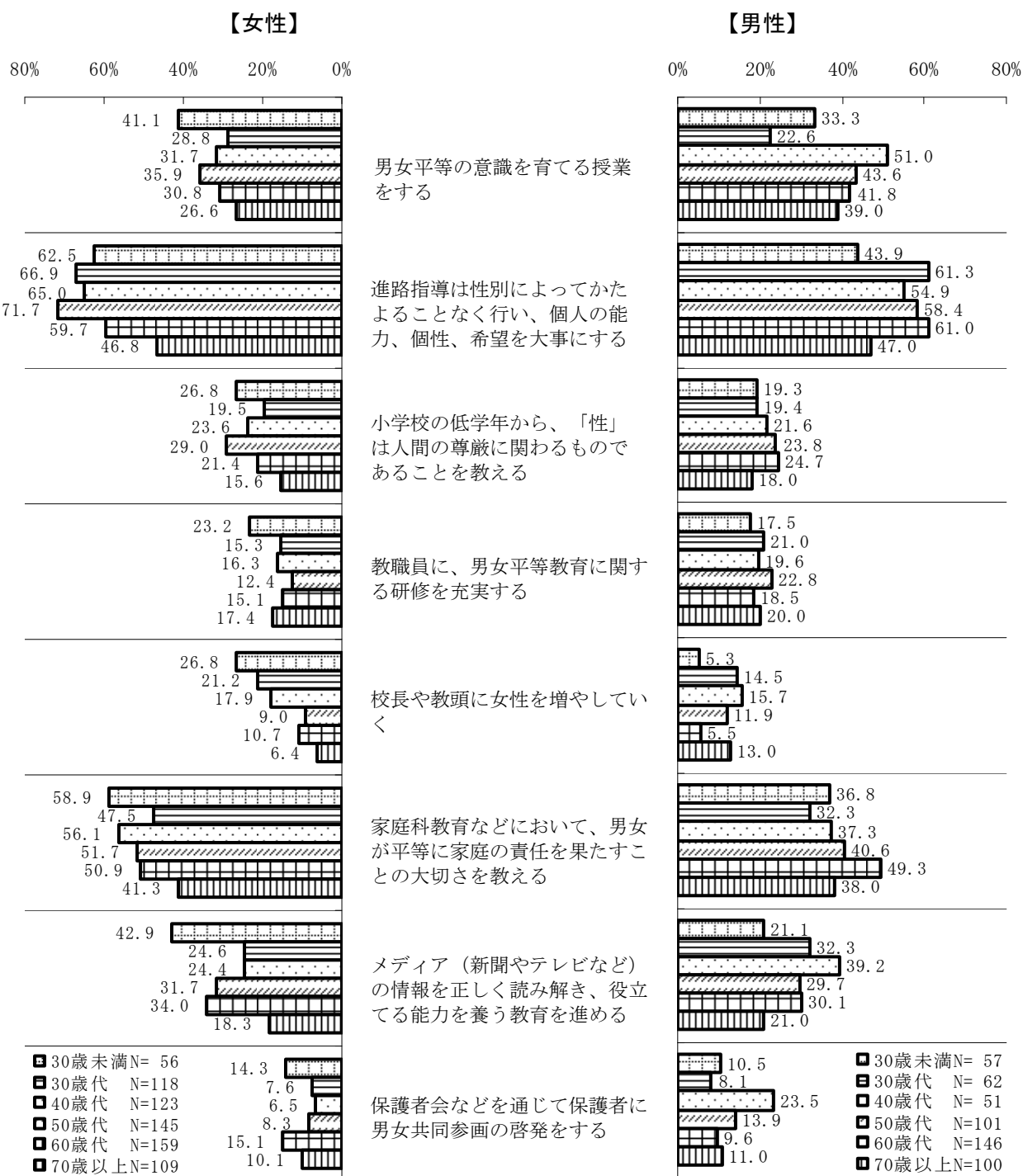
図2-17 男女平等を進めるために小学校・中学校で取組むこと



■男女平等を進める小・中学校での取り組みは、「進路指導」を重視

選択率の高い順番でみると、「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」（女性 62.5%・男性 55.3%）が最も高く、ついで、「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」（女性 50.3%・男性 40.8%）、「男女平等の意識を育てる授業をする」（女性 31.9%・男性 39.3%）と続く。

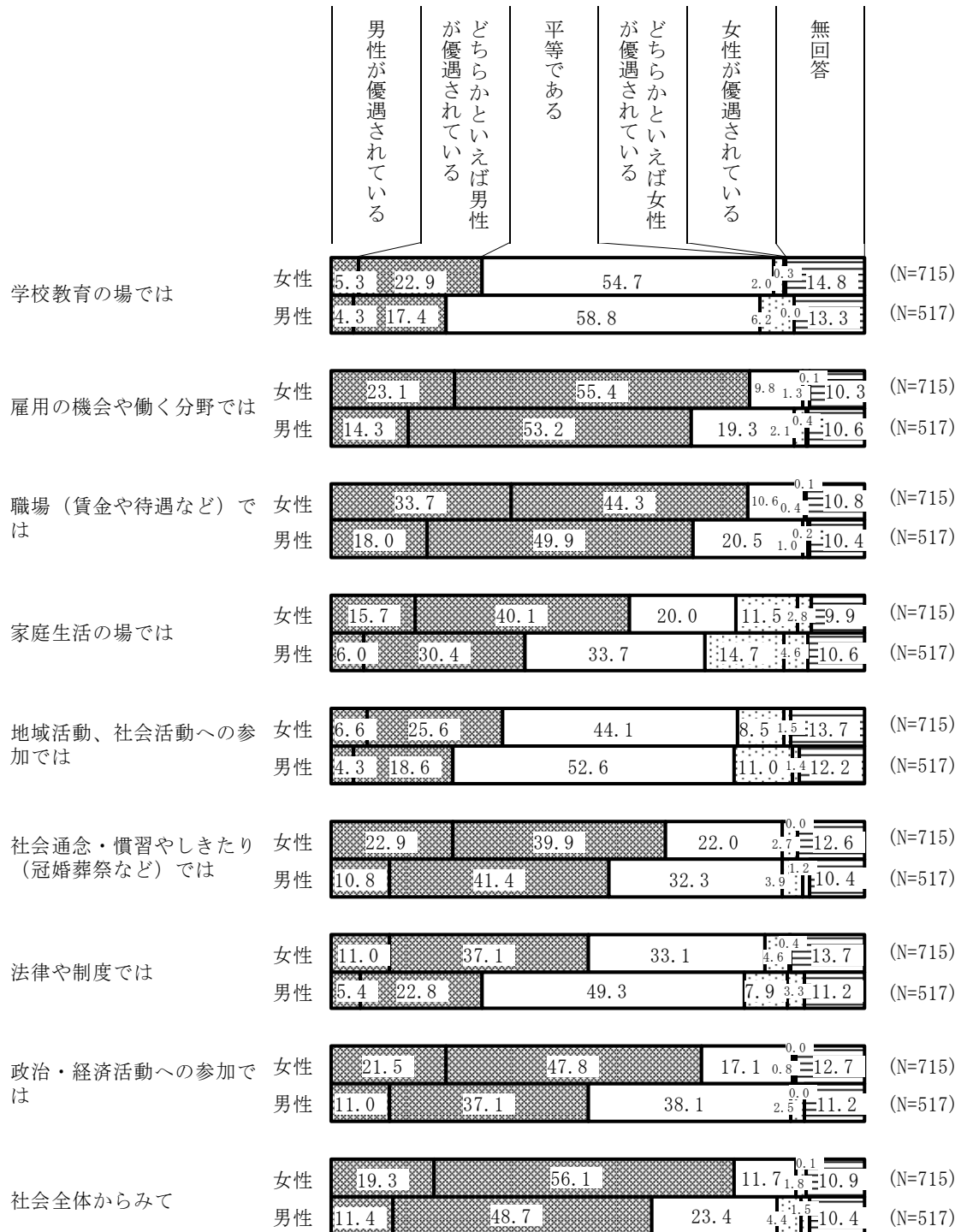
図2-18 性別・年齢層別 男女平等を進めるために小学校・中学校で取組むこと



3. 男女の地位に関する意識について

問 21 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑨の項目ごとに〇は1つずつ)

図3-1 男女の地位の平等感



(単位：%)

■男女で「平等である」の割合が50%を超えるのは「学校教育の場」のみ

社会の中のさまざまな分野における男女平等についてたずねたところ、「平等である」の割合が最も高いのは、「学校教育の場」で、女性 54.7%・男性 58.8%である。ついで、「地域活動、社会活動への参

加」は女性 44.1%・男性 52.6%、「法律や制度」では女性 33.1%・男性 49.3%となっている。

■＜男性が優遇＞の割合が最も高いのは「雇用の機会や働く分野」

逆に、＜男性が優遇＞（「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）の割合が最も高いのは、「雇用の機会や働く分野」で女性 78.5%・男性 67.5%。ついで、「職場（賃金や待遇など）」が女性 78.0%・男性 67.9%で、就労においての男性の優遇感が高くなっている。

■すべての分野で女性の方が男性の優遇感が高い

すべての分野で＜男性が優遇＞の割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。特に、「政治・経済活動への参加」、「法律や制度」、「家庭生活の場」では 20 ポイント前後の開きがある。

■「社会全体から」においても＜男性が優遇＞の割合は高い

「社会全体から」みた場合については、＜男性が優遇＞の割合は、女性 75.4%・男性 60.1%であり、女性の 4 人に 3 人は男性が優遇されていると感じていることがわかる。

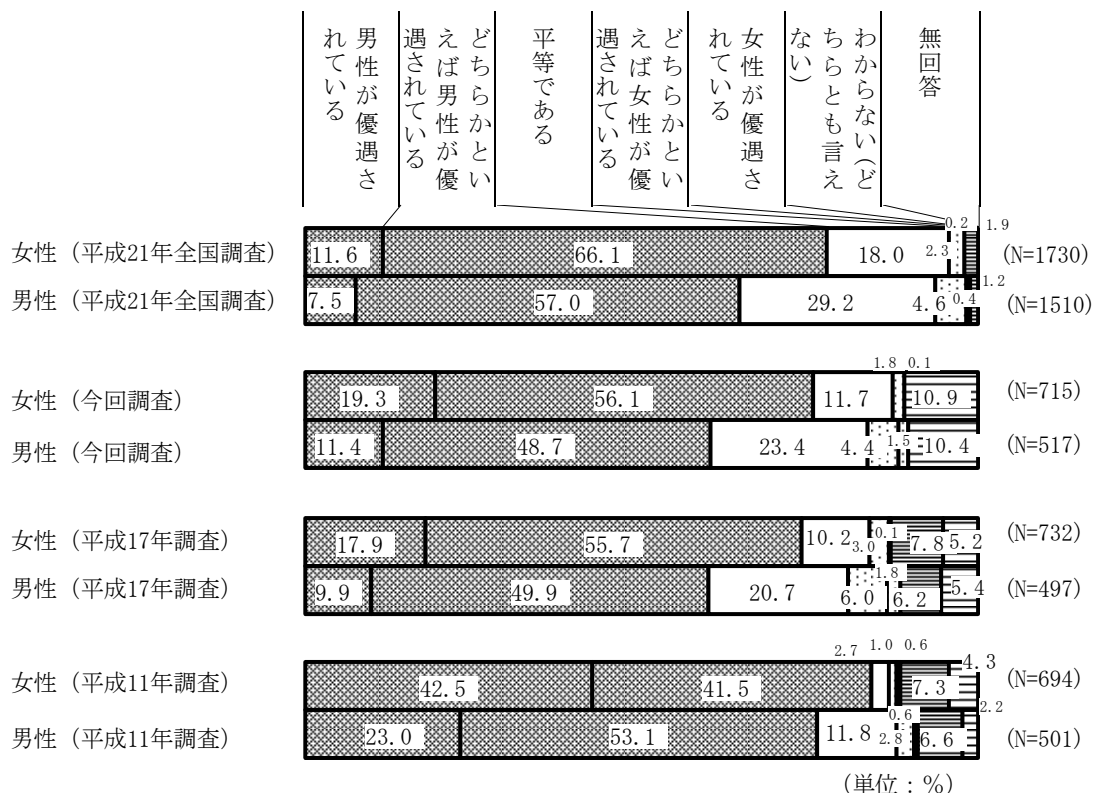
■前回調査とほぼ同様の結果

前回調査と比較するとおおむね前回の結果と同様の傾向である。しかし、女性の場合は「社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）」をのぞく他の分野では、今回の＜男性が優遇＞の割合の方が高くなっている。

また、男性の場合は、「職場（賃金や待遇など）」、「社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）」、「法律や制度」をのぞく他の分野では、今回の＜男性が優遇＞の割合の方が高くなっている。

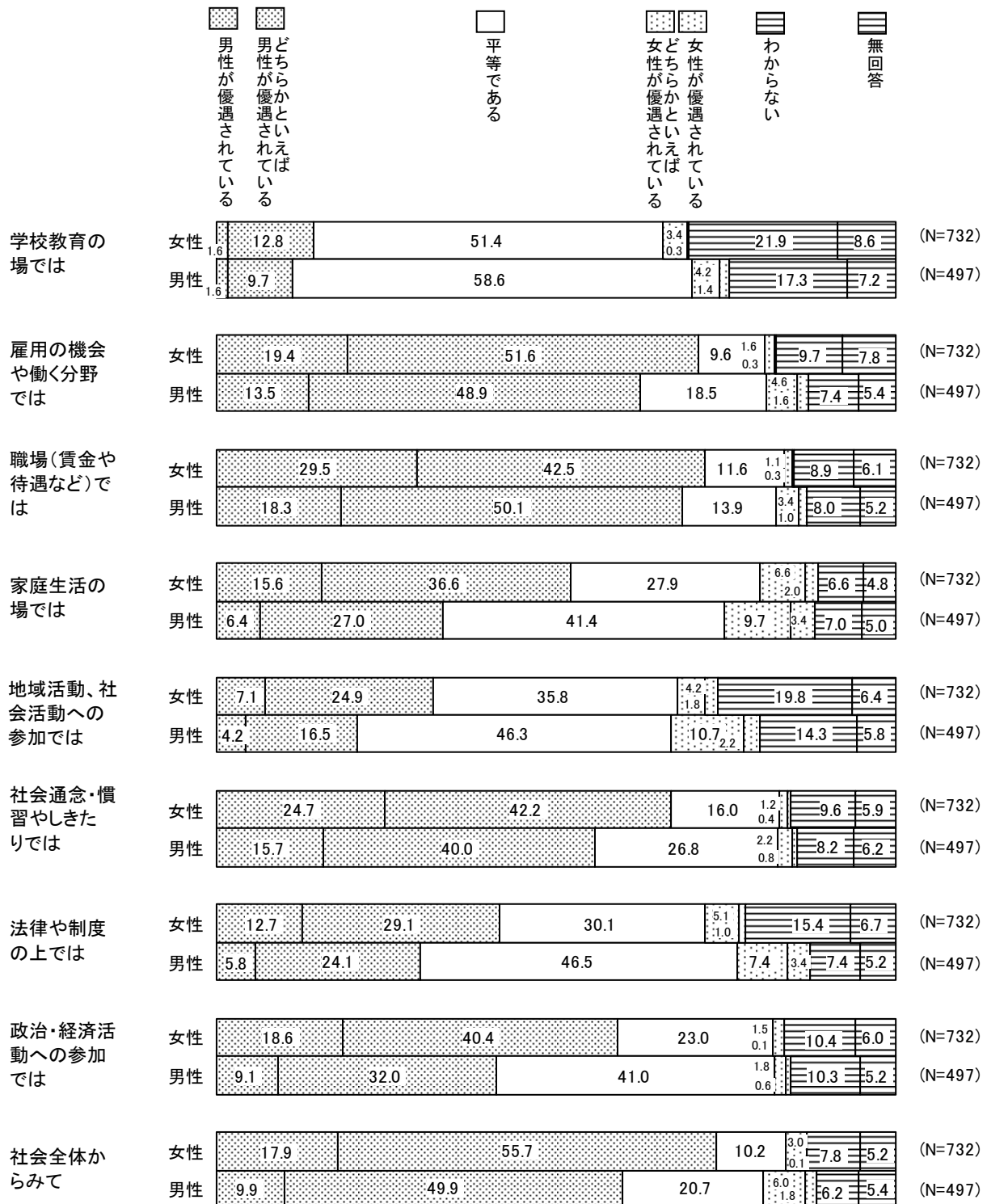
【全国調査、東大阪市前々回・前回調査との比較】

図3-2 男女の地位の平等感<社会全体からみて>



【前回調査】

図3-3 男女の地位の平等感



(単位: %)

資料: 東大阪市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成17年

性別・年齢層別

<男性が優遇>の割合によって年齢層別の折れ線グラフを作成した。

図3-4 性別・年齢層別 男女の地位の平等 <男性が優遇>の割合 《学校教育の場では》

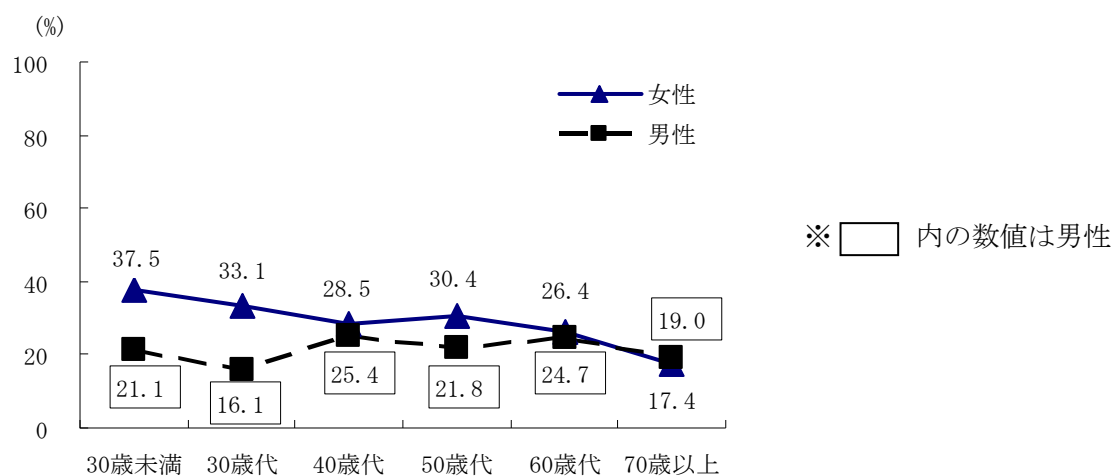


図3-5 性別・年齢層別 男女の地位の平等<男性が優遇>の割合 《雇用の機会や働く分野では》

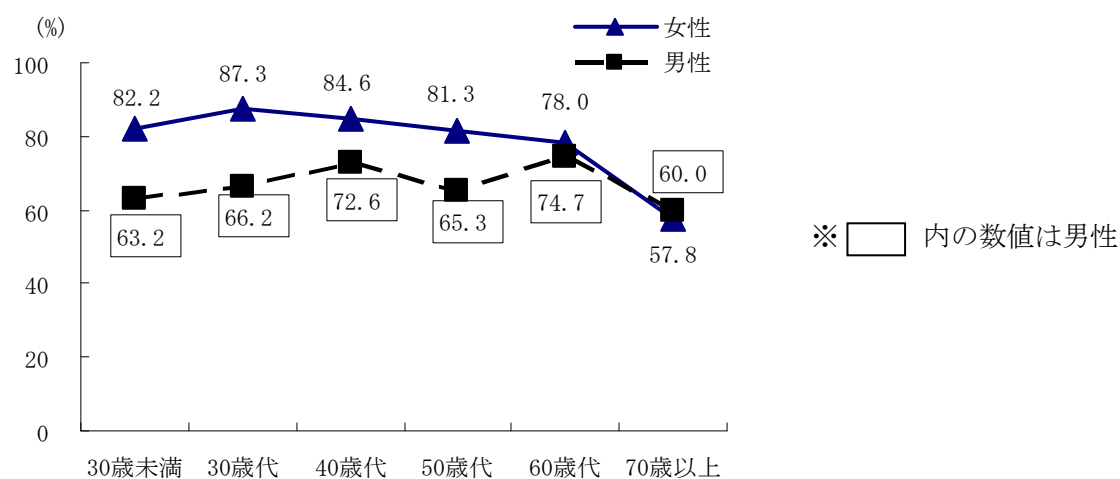


図3-6 性別・年齢層別 男女の地位の平等<男性が優遇>の割合 《職場（賃金や待遇など）では》

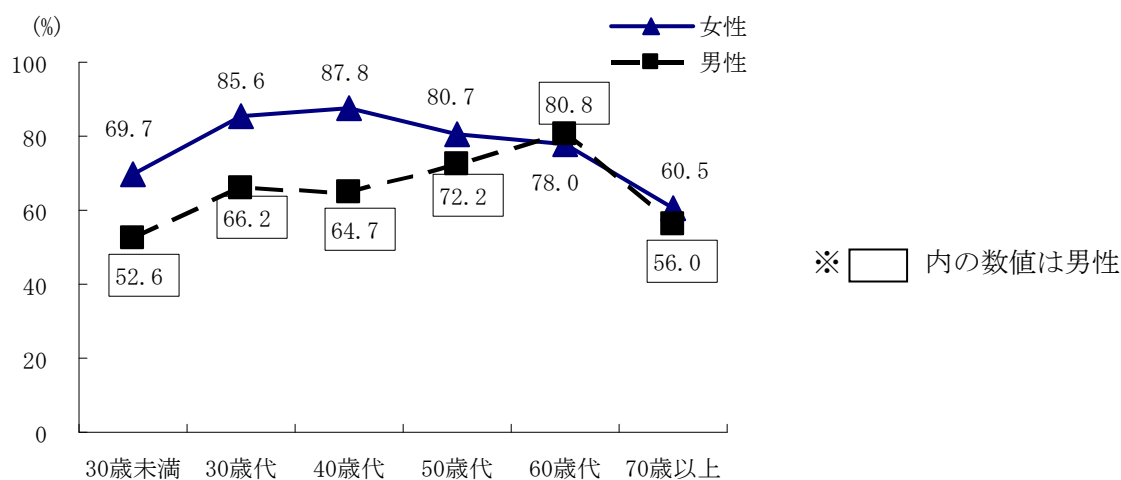


図3-7 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《家庭生活の場では》

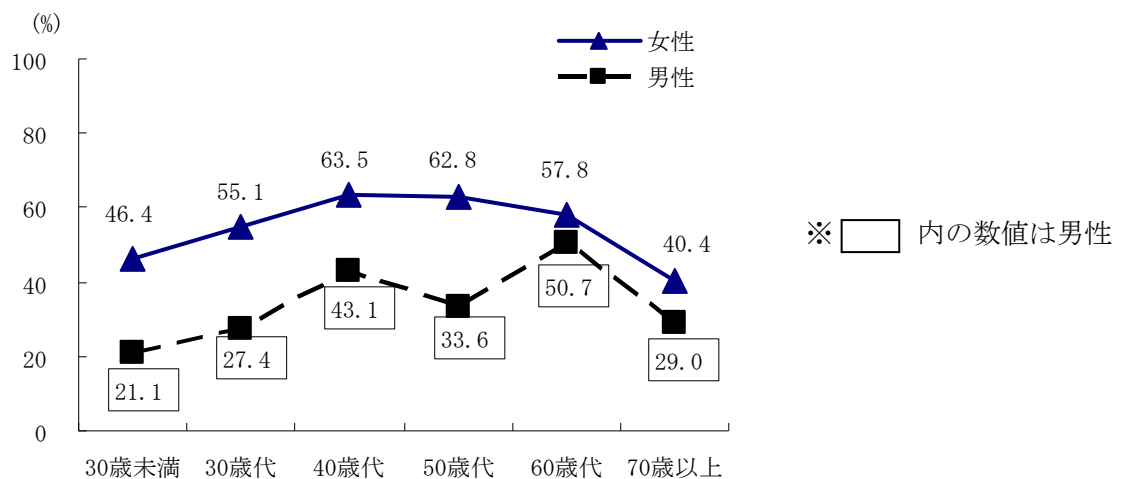


図3-8 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《地域活動、社会活動への参加では》

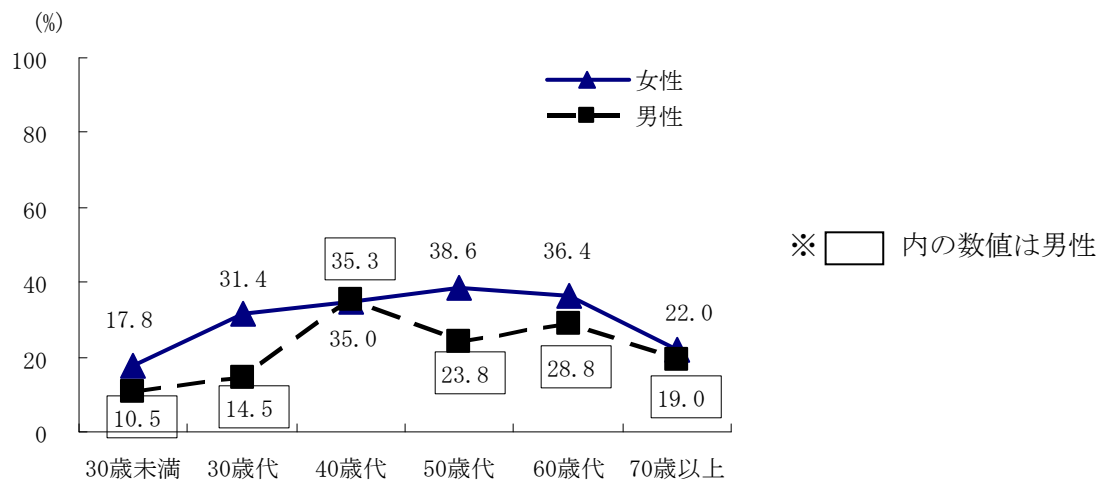


図3-9 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では》

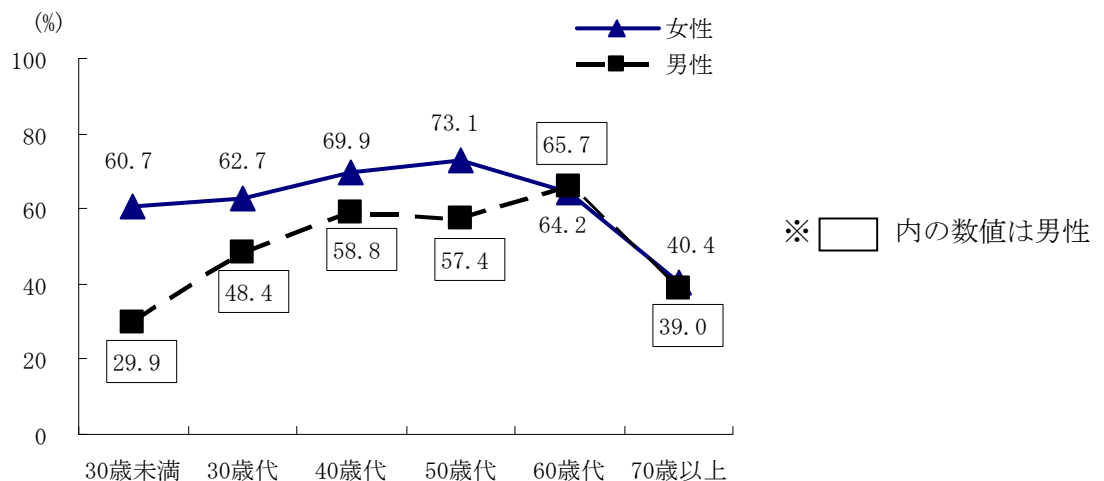


図3-10 性別・年齢層別 男女の地位の平等＜男性が優遇＞の割合 《法律や制度では》

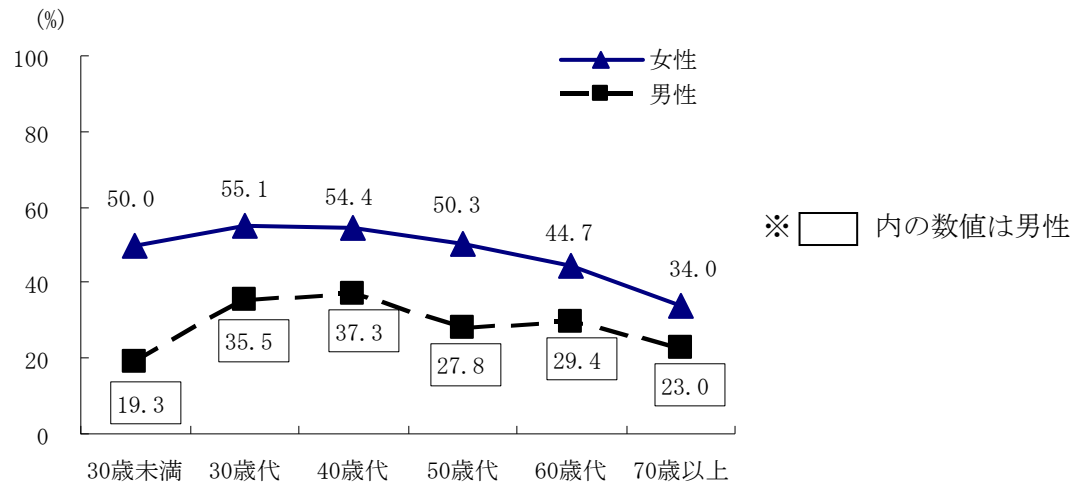


図3-11 性別・年齢層別 男女の地位の平等 ＜男性が優遇＞の割合 《政治・経済活動への参加では》

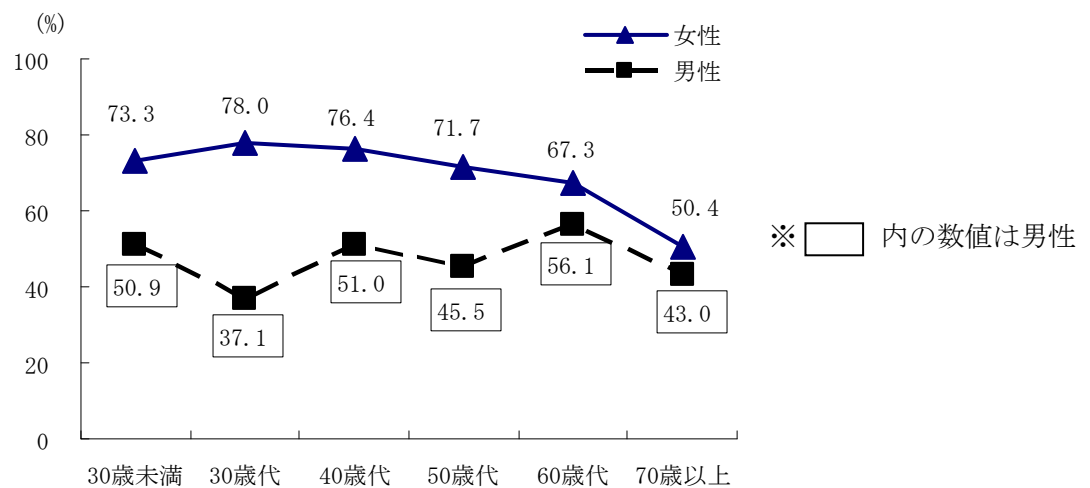
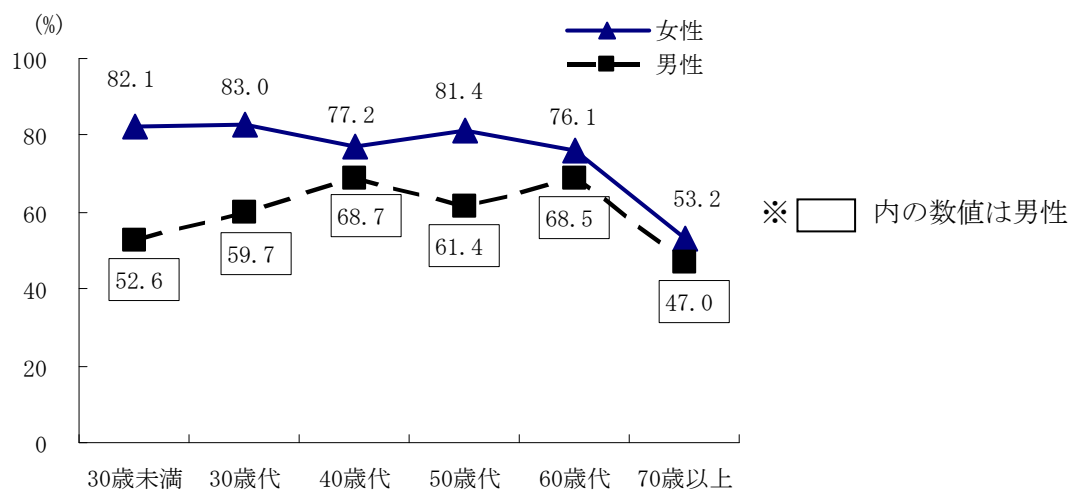
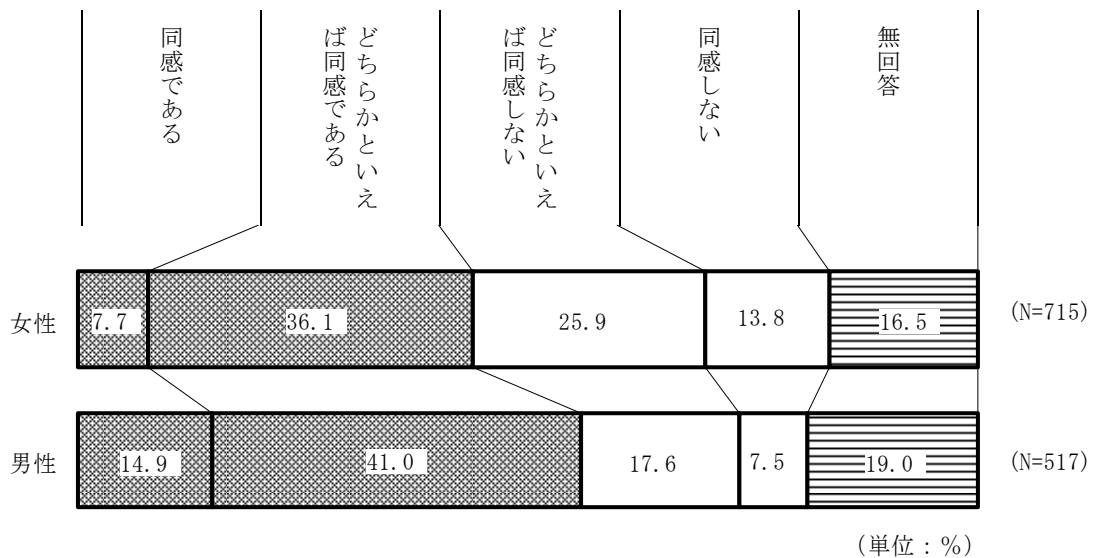


図3-12 性別・年齢層別 男女の地位の平等 ＜男性が優遇＞の割合 《社会全体からみて》



問 22 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

図3-13 固定的な性別役割分担意識について



■女性では、＜同意する＞と＜同意しない＞がほぼ同じ割合

いわゆる固定的な性別役割分担意識に対しての考え方をたずねたところ、女性では「同意グループ」（「同意である」＋「どちらかといえば同意である」）が 43.8%、「同意しないグループ」（「同意しない」＋「どちらかといえば同意しない」）が 39.7%で、ほぼ同じ割合である。

■男性では、＜同意する＞が＜同意しない＞を約 30 ポイント上回る

男性の場合は、「同意グループ」が 55.9%、「同意しないグループ」が 25.1%で、「同意グループ」の方が 30.8 ポイント高くなっている。

この結果を男女で比較すると、男性の方が「同意グループ」の割合が 12.1 ポイント高くなっている。

■前回調査と比較すると、男女とも「同意しないグループ」が減っている

前回調査と比較すると、女性の場合は、前回調査では、「同意グループ」は 44.1%、「同意しないグループ」は 53.5%であるから、「同意グループ」の割合はほとんど変化がないものの、「同意しないグループ」の割合が 13.8 ポイント減っている。

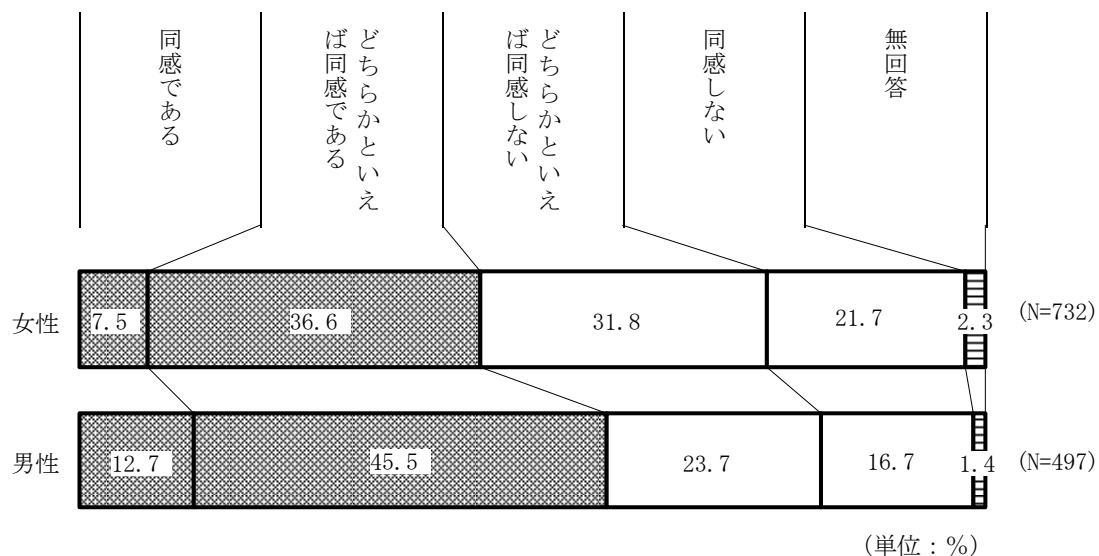
男性の場合は、「同意グループ」58.2%、「同意しないグループ」40.4%であるから、こちらも「同意グループ」の割合はほとんど変化がないものの、「同意しないグループ」の割合が 15.3 ポイント減っている。

■国の調査に比べて「同意しないグループ」の割合が低い

国の調査では、「賛成」（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）の割合は、女性 37.3%・男性 45.9%。「反対」（「どちらかといえば反対」＋「反対」）の割合は、女性 58.6%・男性 51.1%となっており、東大阪市の結果と比べると、「同意しないグループ（国でいえば「反対」）」の割合が女性では 18.9 ポイント、男性では 26.0 ポイント高くなっている。

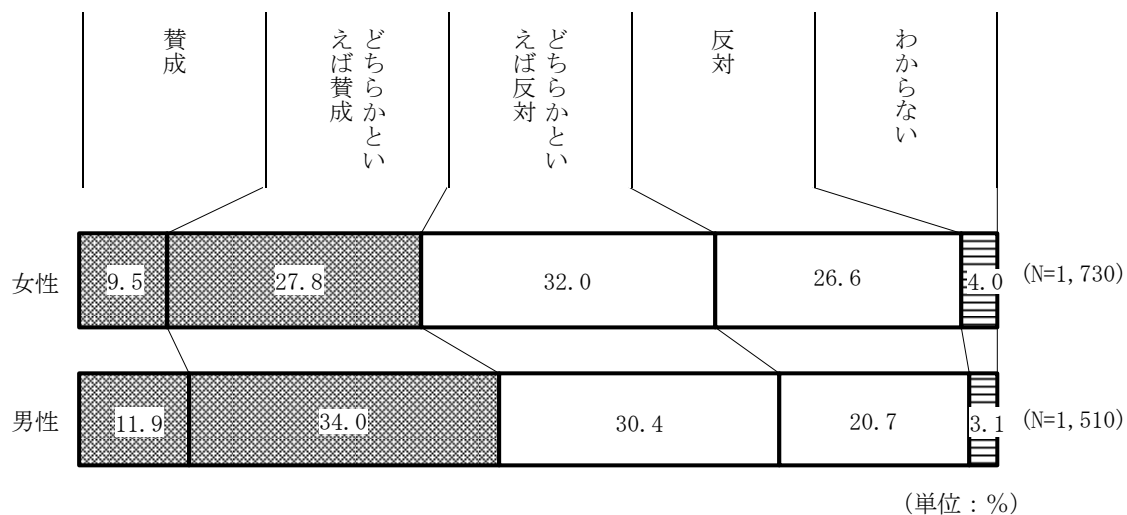
【参考図】

図3-14 固定的な性別役割分担意識について <前回調査>



資料：東大阪市「男女共同参画に関する市民意識調査」平成 17 年

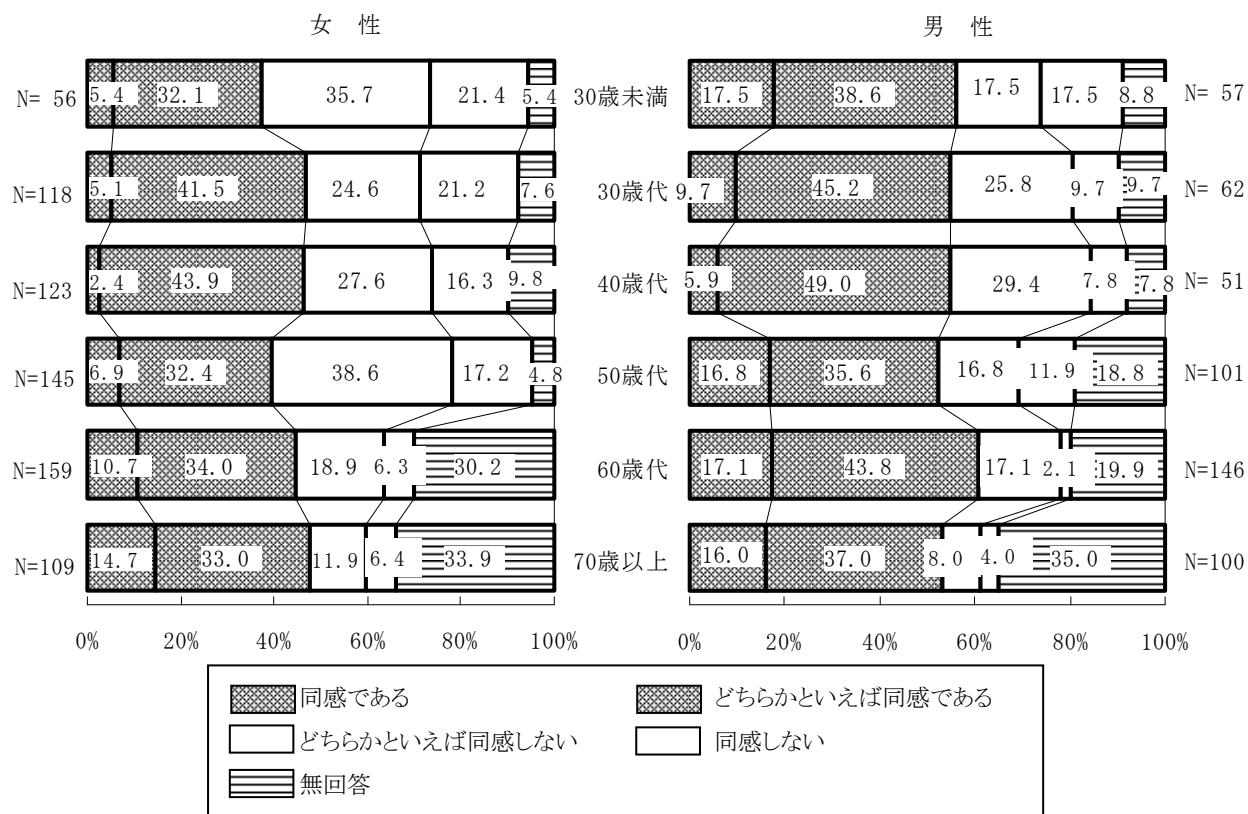
図3-15 固定的な性別役割分担意識について <国の調査>



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 21 年

性別・年齢層別

図3-16 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識について

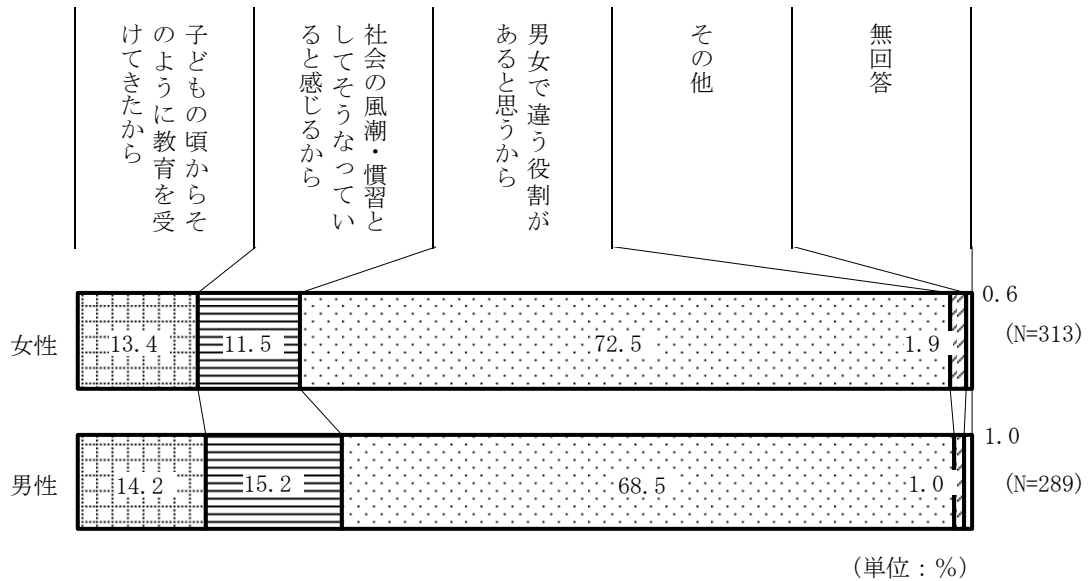


◆女性の場合、「同意しないグループ」の割合が「同意グループ」の割合を上回っているのは、30歳未満と50歳代である。

◆女性の30、40歳代では、「同意しないグループ」と「同意グループ」の割合がほぼ同じである。60歳代以上では「同意グループ」の割合が「同意しないグループ」の割合を大きく上回っている。

問 22－1 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

図3－17 固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由

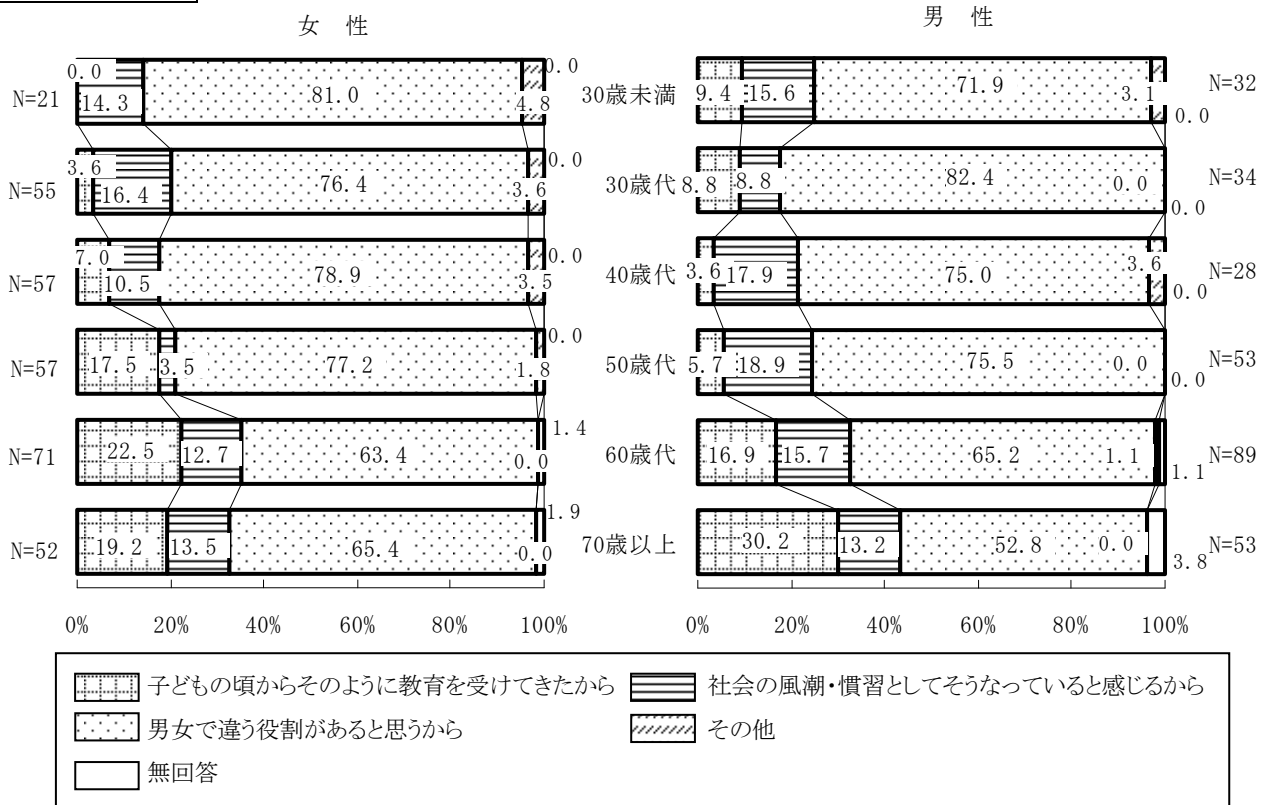


■「男女で違う役割があると思うから」の割合が70%前後

固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由をたずねたところ、男女ともに「男女で違う役割があると思うから」の割合が大半を占め、女性72.5%・男性68.5%である。「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」はそれぞれ10%台である。

性別・年齢層別

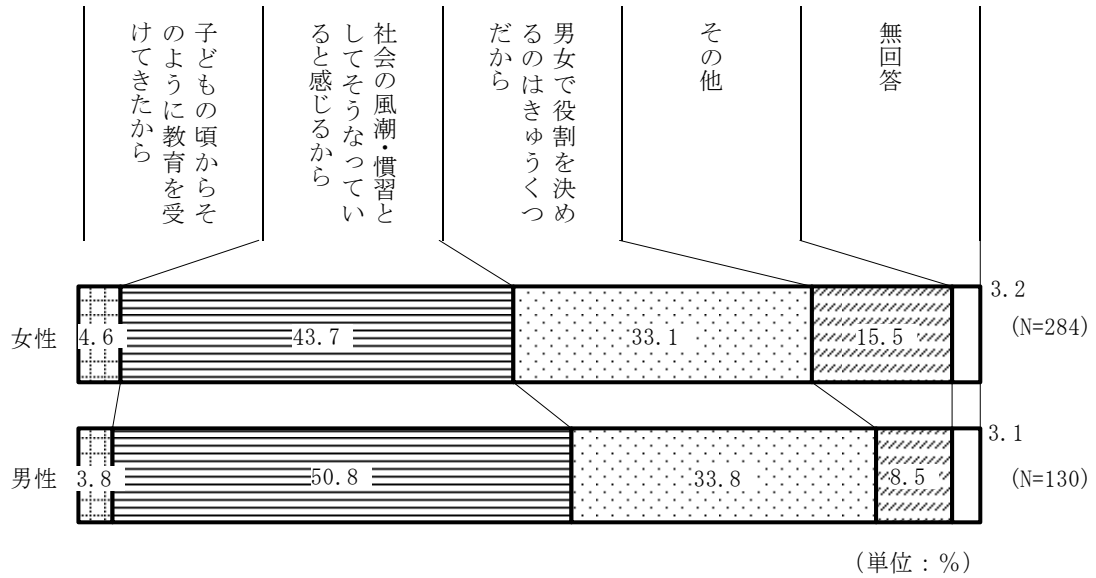
図3－18 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識に「同感する」理由



◆男女ともに、おおむね年齢層が高い層ほど「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」の割合が高くなっている。

問 22-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

図3-19 固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由

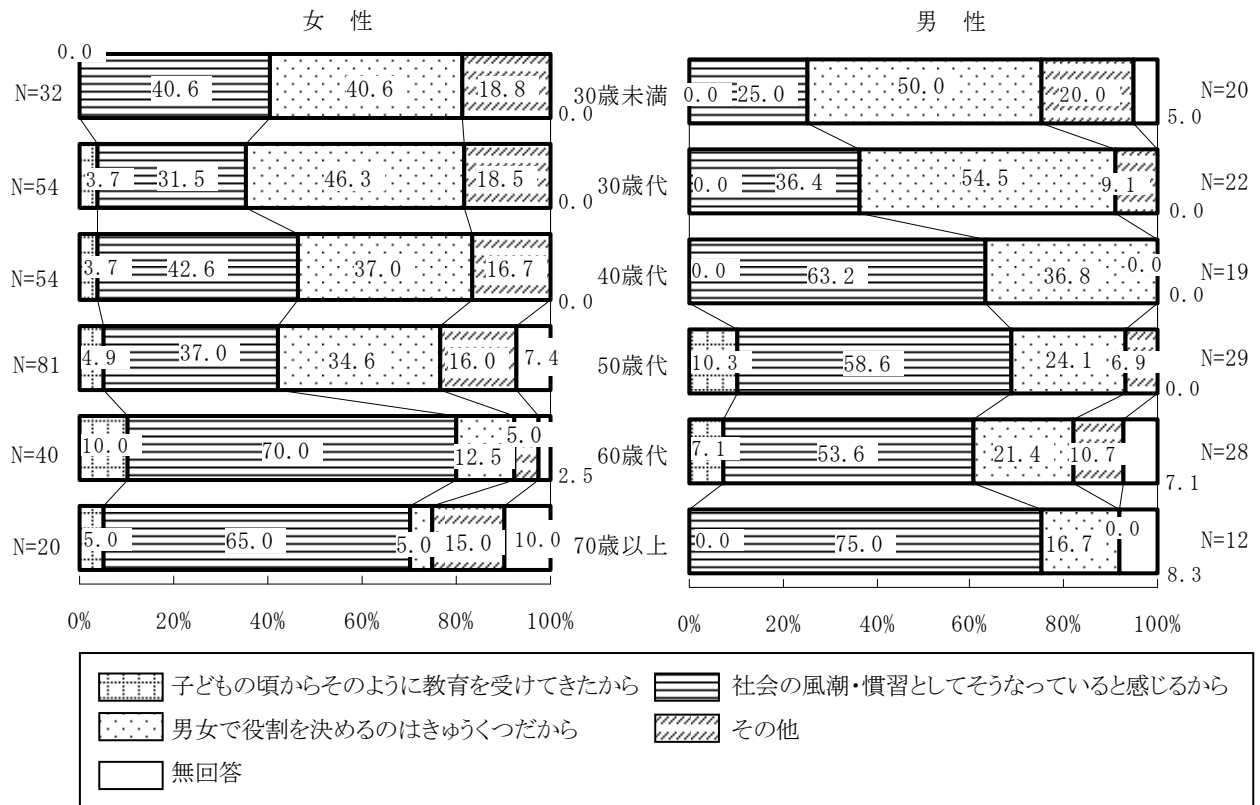


■「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」の割合が最も高い

固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由をたずねたところ、男女ともに「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が最も高く、女性 43.7%・男性 50.8%である。ついで、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が女性 33.1%・男性 33.8%となっている。

性別・年齢層別

図3-20 性別・年齢層別 固定的な性別役割分担意識に「同感しない」理由



4. 健康や地域活動、老後の暮らしについて

問 23 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。

（①～⑦の項目ごとに○は1つずつ）

図4-1 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い



■「老後の生活（経済や健康）」と「経済的なこと」に強いストレスを感じているのは30%前後

生活の中でのストレスの度合いをたずねたところ、男女ともに「ストレスを強く感じる」割合が高いのは、「老後の生活（経済や健康）」（女性 32.9%・男性 26.9%）、「経済的なこと」（女性 27.3%・男性 26.9%）である。

「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」を合わせると、「老後の生活（経済や健康）」「経

済的なこと」とともに男女それぞれ70%前後にもなる。

また、「経済的なこと」以外の項目では、女性の割合が高くなっている。特に、「家事の負担」では18.0ポイント、「配偶者やパートナー、恋人のこと」では10.7ポイント高くなっている。

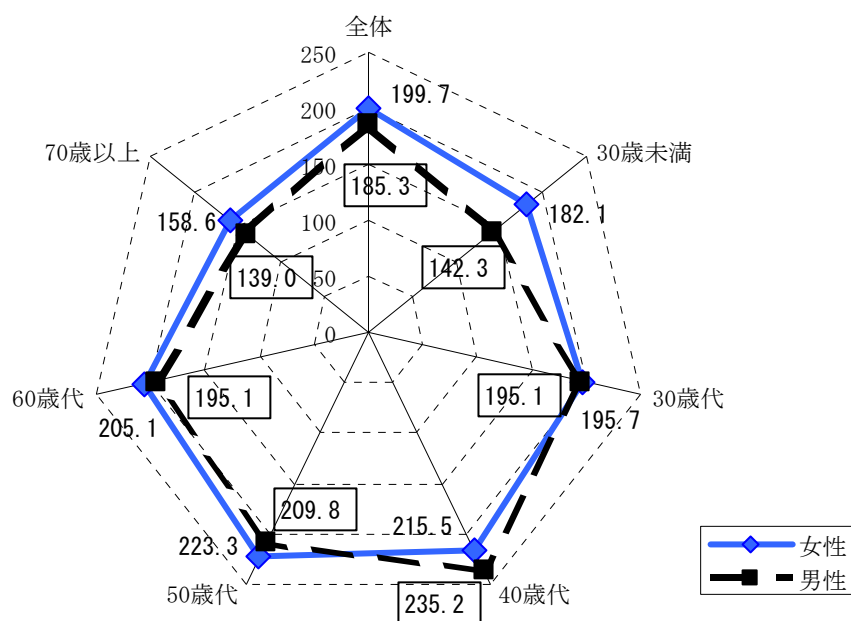
性別・年齢層別

どのようなことにストレス（悩みや不安）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「女性715人、男性517人」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観する。

ストレス強度係数

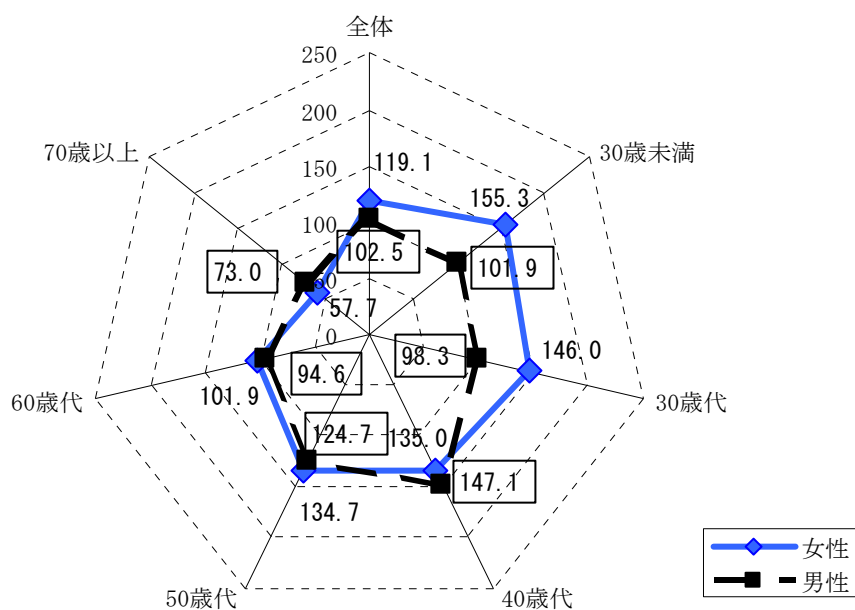
ストレスについて本報告書では、ストレスの強さをどのように感じているかを、選択肢「ストレスを強く感じる」の数値（％）×3、選択肢「ストレスを感じる」の数値（％）×2、選択肢「ストレスはほとんど感じない」の数値（％）×1の合計値と定義し、「ストレス強度係数」と呼ぶ。

図4-2 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「老後の生活(経済や健康)」



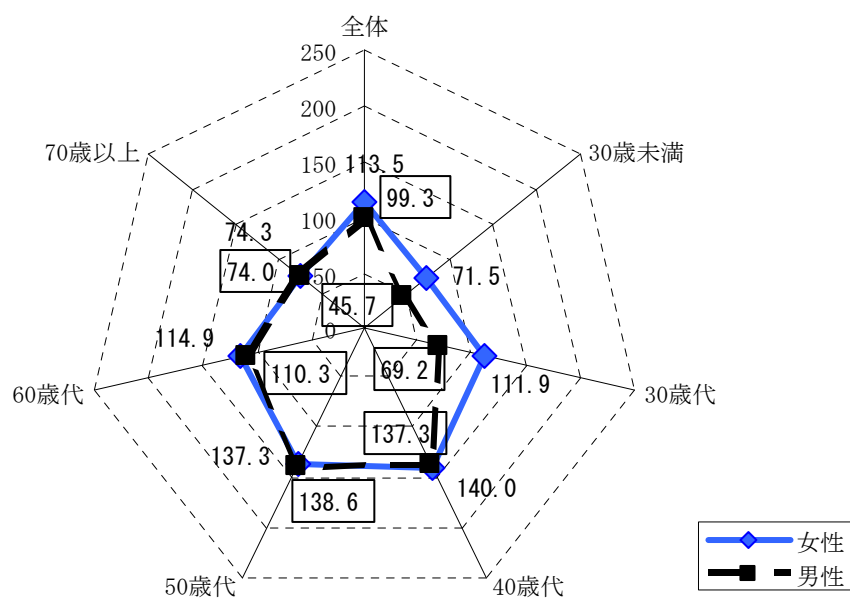
※ □ 内の数値は男性

図4-3 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い
「配偶者やパートナー、恋人のことで」



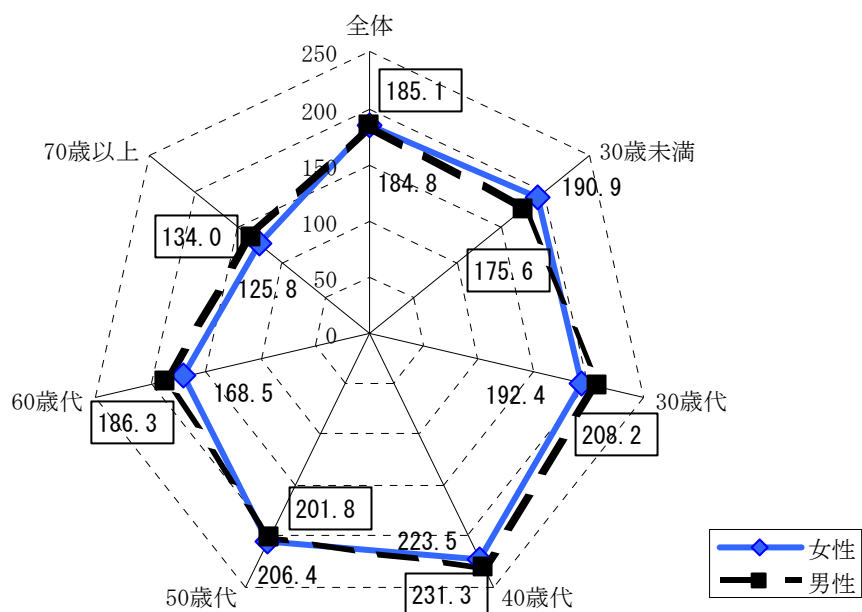
※ □ 内の数値は男性

図4-4 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「子どものことで」



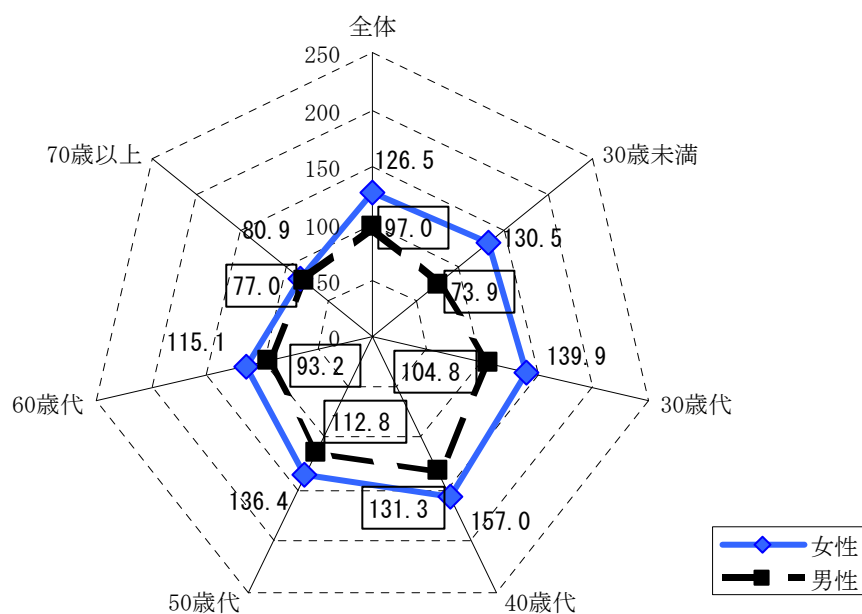
※ □ 内の数値は男性

図4-5 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「経済的なことで」



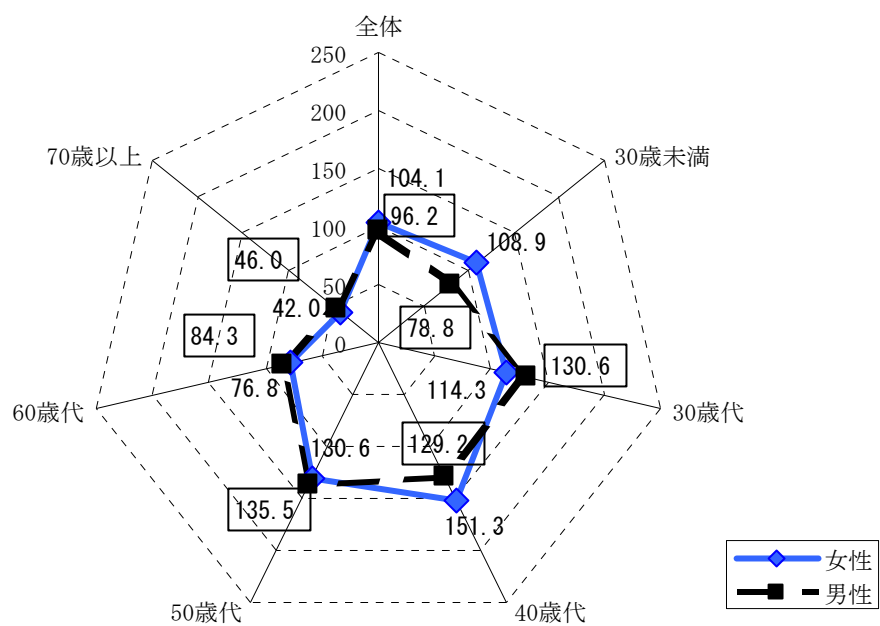
※ □ 内の数値は男性

図4-6 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「家事の負担」



※ □ 内の数値は男性

図4-7 性別・年齢層別 生活の中でのストレス(不安や悩み)の度合い「親の介護や病気」



※ □ 内の数値は男性

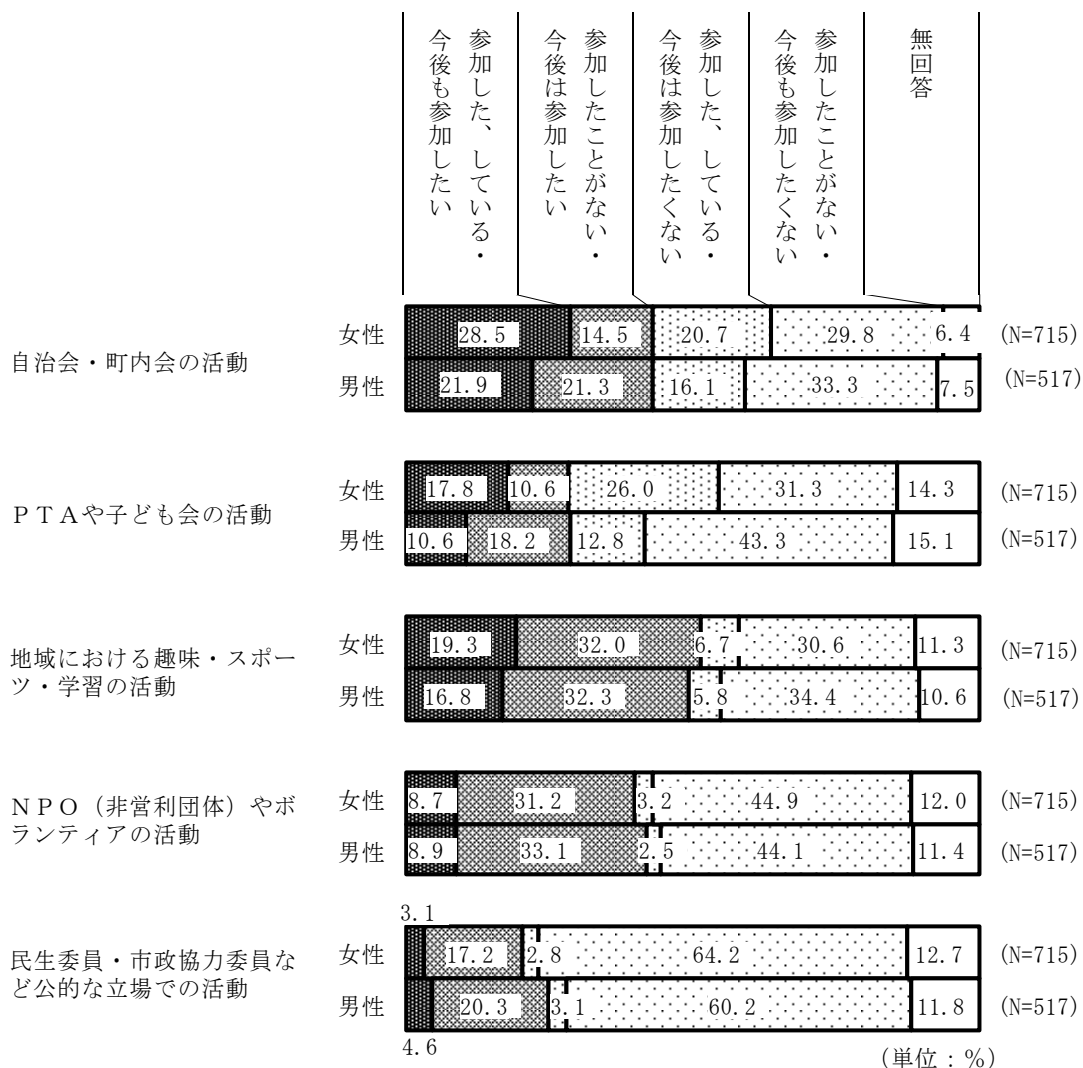
表4-1 性別・年齢層別・就業形態別 生活の中でのストレス強度係数

			対象者数 (人)	老後の生活 (経済や健康)	配偶者やパートナー、 恋人のことで	子どものことで	経済的なことで	家事の負担	親の介護や病気
全 体			1236	193.4	112.0	107.8	184.6	114.2	100.6
女 性			715	199.7	119.1	113.5	184.8	126.5	104.1
男 性			517	185.3	102.5	99.3	185.1	97.0	96.2
年 齢	女 性	30 歳未満	56	182.1	155.3	71.5	190.9	130.5	108.9
		30 歳代	118	195.7	146.0	111.9	192.4	139.9	114.3
		40 歳代	123	215.5	135.0	140.0	223.5	157.0	151.3
		50 歳代	145	223.3	134.7	137.3	206.4	136.4	130.6
		60 歳代	159	205.1	101.9	114.9	168.5	115.1	76.8
		70 歳以上	109	158.6	57.7	74.3	125.8	80.9	42.0
	男 性	30 歳未満	57	142.3	101.9	45.7	175.6	73.9	78.8
		30 歳代	62	195.1	98.3	69.2	208.2	104.8	130.6
		40 歳代	51	235.2	147.1	137.3	231.3	131.3	129.2
		50 歳代	101	209.8	124.7	138.6	201.8	112.8	135.5
		60 歳代	146	195.1	94.6	110.3	186.3	93.2	84.3
		70 歳以上	100	139.0	73.0	74.0	134.0	77.0	46.0
就 業 形 態	女 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	213.0	120.3	100.9	196.0	134.8	114.5
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	237.0	127.7	116.7	212.8	142.6	120.4
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	226.2	143.8	136.9	225.3	154.2	126.2
		自営業主・経営者(農林業を含む)	16	175.0	106.4	106.3	125.0	87.6	106.4
		自営業の手伝い、家族従業員	33	209.1	136.5	121.1	169.7	124.1	106.2
		内職など家庭でできる仕事	11	254.5	109.2	154.7	209.3	109.2	91.0
	男 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	207.9	130.4	123.4	202.7	110.0	127.8
		パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	199.9	69.5	60.9	208.8	112.8	113.0
		パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	156.4	90.6	59.3	165.7	74.9	56.1
		自営業主・経営者(農林業を含む)	64	198.4	117.1	128.3	196.8	98.6	112.7
		自営業の手伝い、家族従業員	10	140.0	40.0	70.0	170.0	80.0	70.0

問 24 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。

(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

図4-8 地域活動への参加状況



■男女ともに「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」への参加意向は、2人に1人の割合

「参加した、している・今後も参加したい」の割合が最も高いのは、男女ともに「自治会・町内会の活動」で女性28.5%・男性21.9%である。これに「参加したことがない・今後は参加したい」を加えた＜今後参加したい＞割合は、女性43.0%・男性43.2%である。

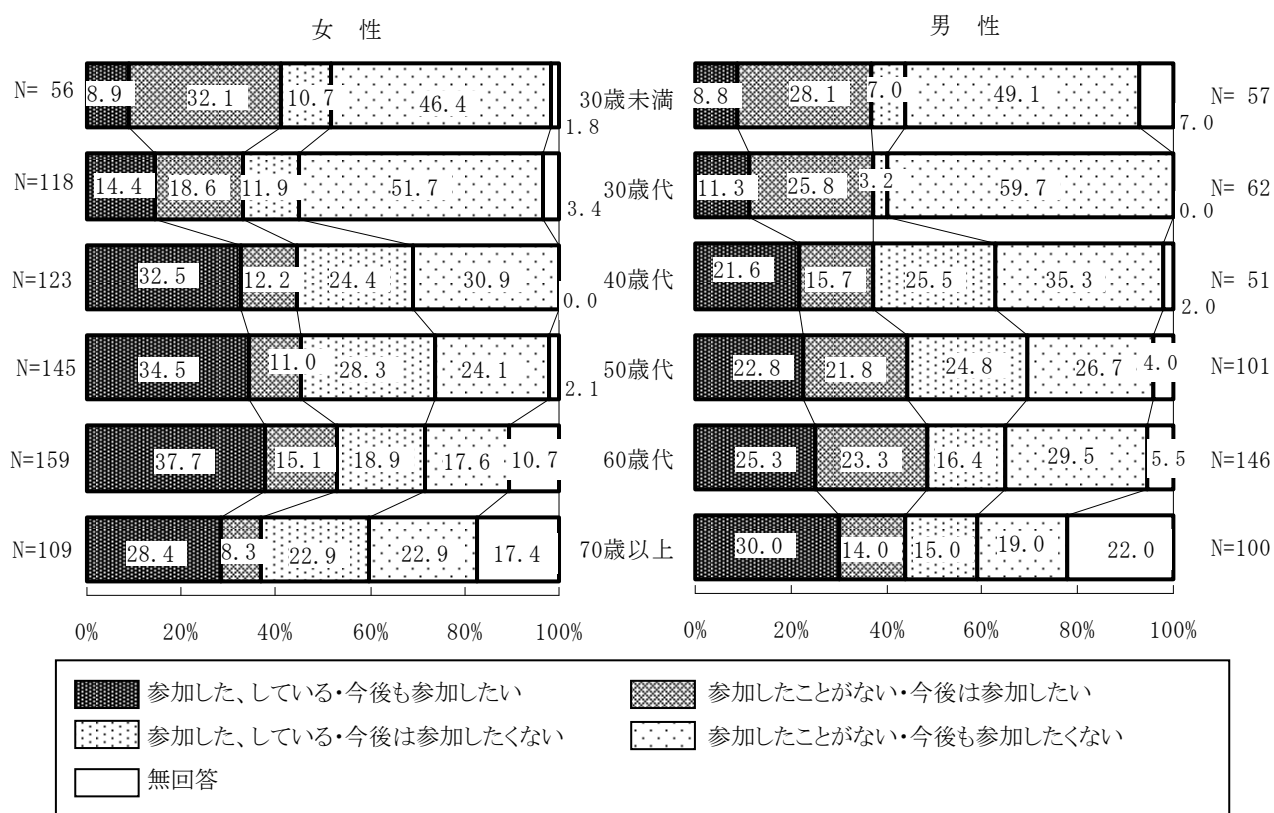
「参加した、している・今後も参加したい」の割合が次に高いのは、「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」で女性19.3%・男性16.8%である。これに「参加したことがない・今後は参加したい」を加えた＜今後参加したい＞割合は、女性51.3%・男性49.1%である。

■男女とも「今後参加したくない」割合が最も高いのは「公的な立場での活動」

「参加した、している・今後は参加したくない」と「参加したことがない・今後も参加したくない」を合わせた＜今後参加したくない＞割合が高いのは、「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」で女性67.0%・男性63.3%である。ついで、「PTAや子ども会の活動」では、女性57.3%・男性56.1%である。

性別・年齢層別

図4-9 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「自治会・町内会の活動」



◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、32.1%である。

＜今後参加したい＞の割合が最も高いのは、60歳代で52.8%である。

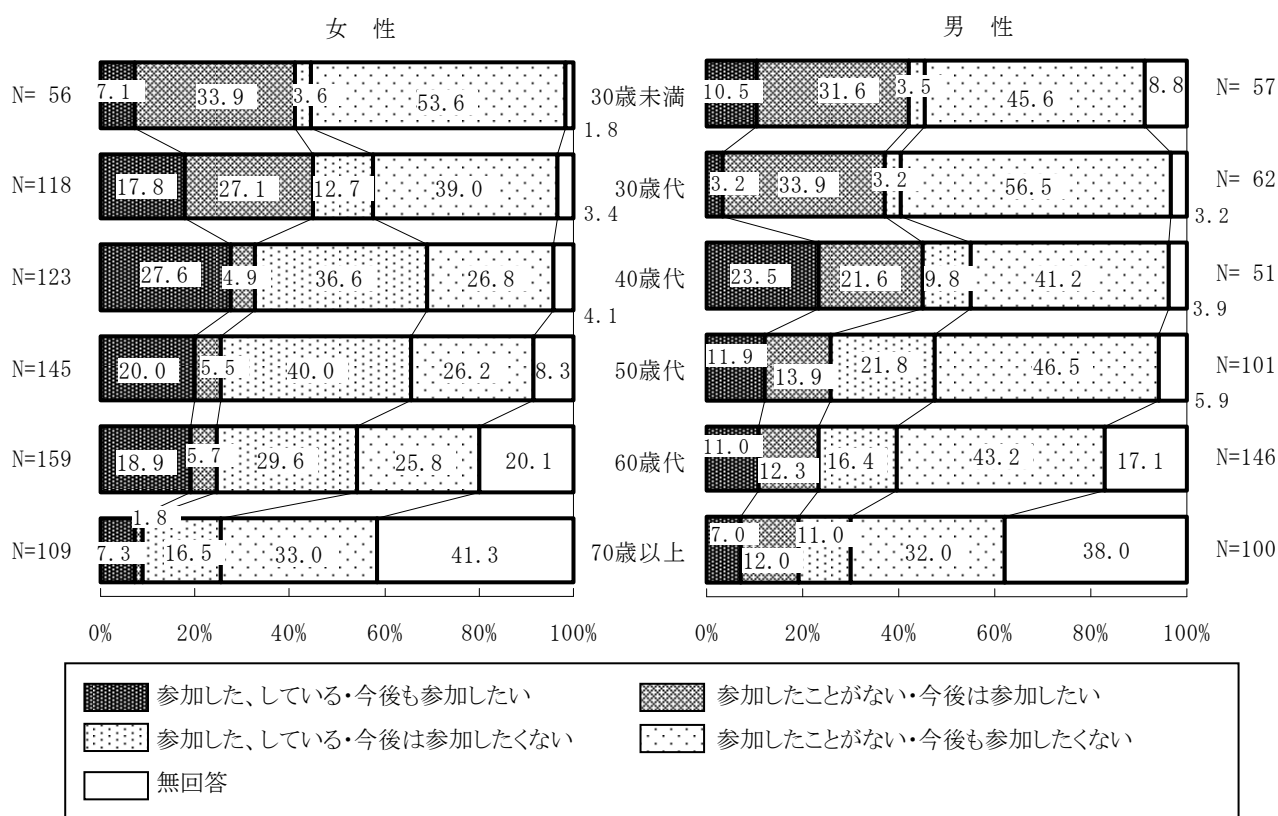
一方、＜今後参加したくない＞の割合が最も高いのは、30歳代で63.6%である。

◆男性の場合、年齢層が高いほど「参加した、している・今後も参加したい」の割合は高く、70歳以上では30.0%である。

＜今後参加したい＞割合が最も高いのは60歳代で、48.6%である。

一方、＜今後参加したくない＞の割合は、30、40歳代で高く、60%を超えている。

図4-10 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「PTAや子ども会の活動」



◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、33.9%である。

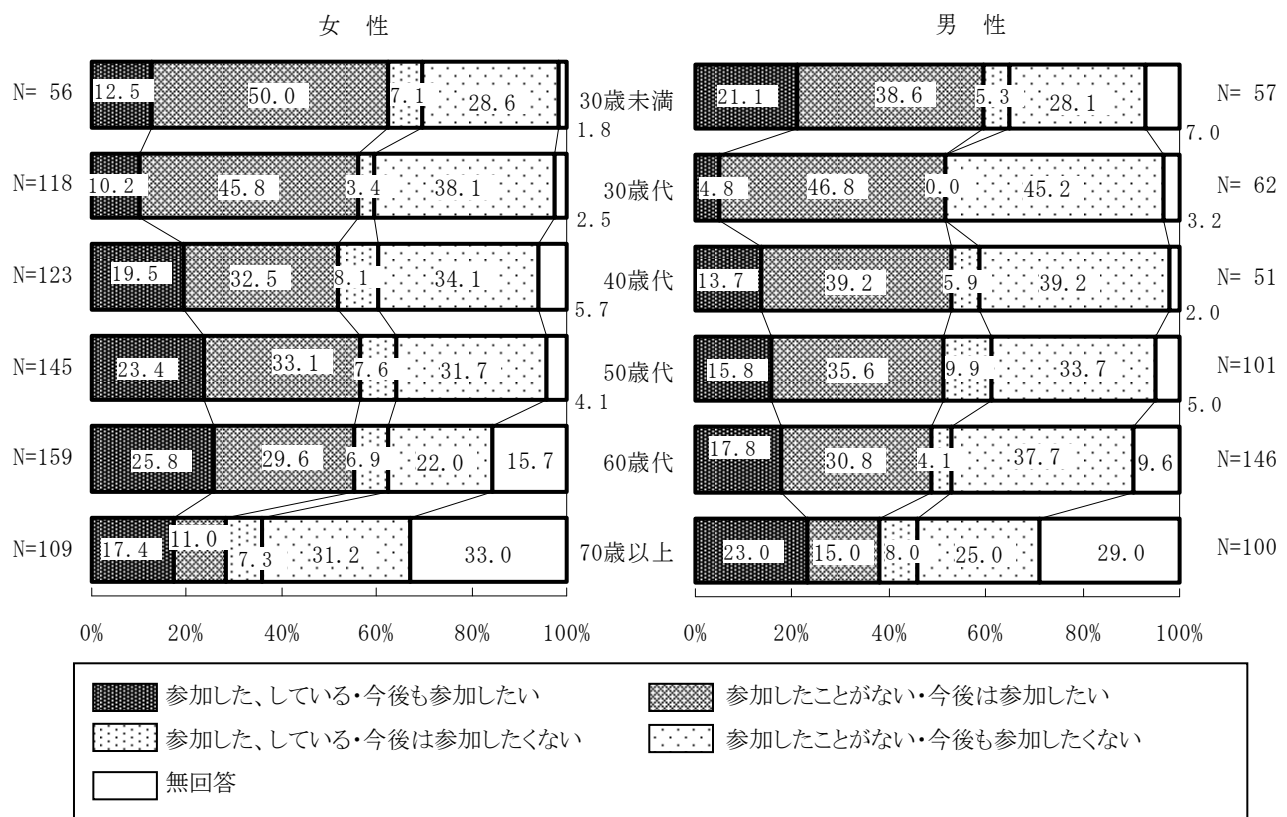
＜今後参加したい＞の割合が最も高いのは、30歳代で44.9%である。

一方、＜今後参加したくない＞の割合が最も高いのは、50歳代で66.2%である。

◆男性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合は、30歳未満、30歳代で30%台で高い。＜今後参加したい＞割合は、40歳代で年齢層中最も高く、45.1%である。

50歳代以降の年代では＜今後参加したい＞割合は、年齢層が高いほど低くなっている。

図4-11 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「地域における趣味・スポーツ・学習の活動」

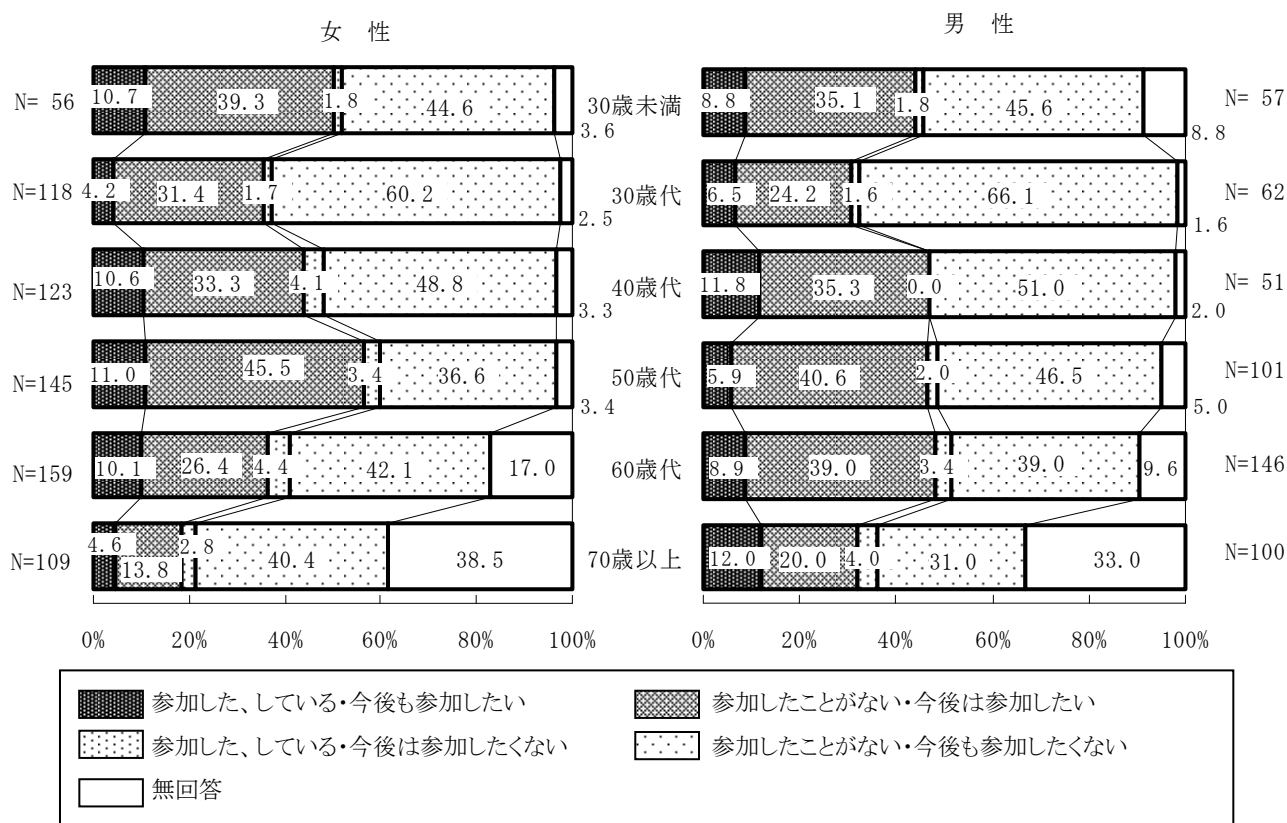


◆女性の場合、「参加したことがない・今後は参加したい」の割合が最も高いのは30歳未満で、50.0%である。

＜今後参加したい＞の割合は、30歳未満で最も高く62.5%である。

◆男性の場合、＜今後参加したい＞の割合は、30歳未満が最も高く59.7%である。

図4-12 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「NPO(非営利団体)やボランティアの活動」



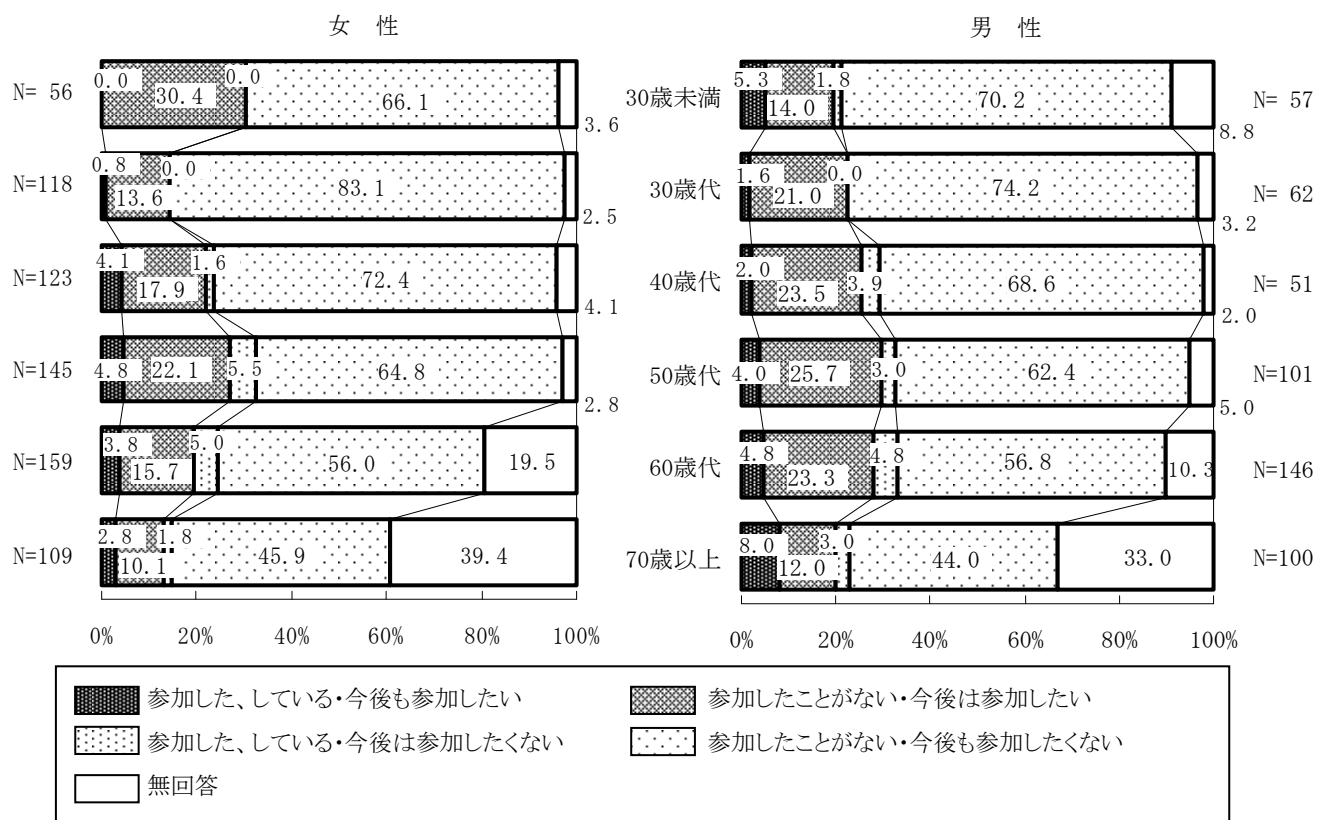
◆女性の場合、「参加した、している・今後も参加したい」の割合は、30歳代、70歳以上で低く4%台で、他の年齢層では10%強である。

＜今後参加したい＞割合が最も高いのは、50歳代で56.5%、ついで30歳未満で50.0%であり、最も低いのは70歳以上で18.4%である。

◆男性の場合は、「参加した、している・今後も参加したい」の割合は40歳代、70歳以上で10%を超えている。

＜今後参加したい＞割合は、40～60歳代で約50%と高くなっており、30歳代、70歳以上では約30%と低くなっている。

図4-13 性別・年齢層別 地域活動への参加状況「民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動」



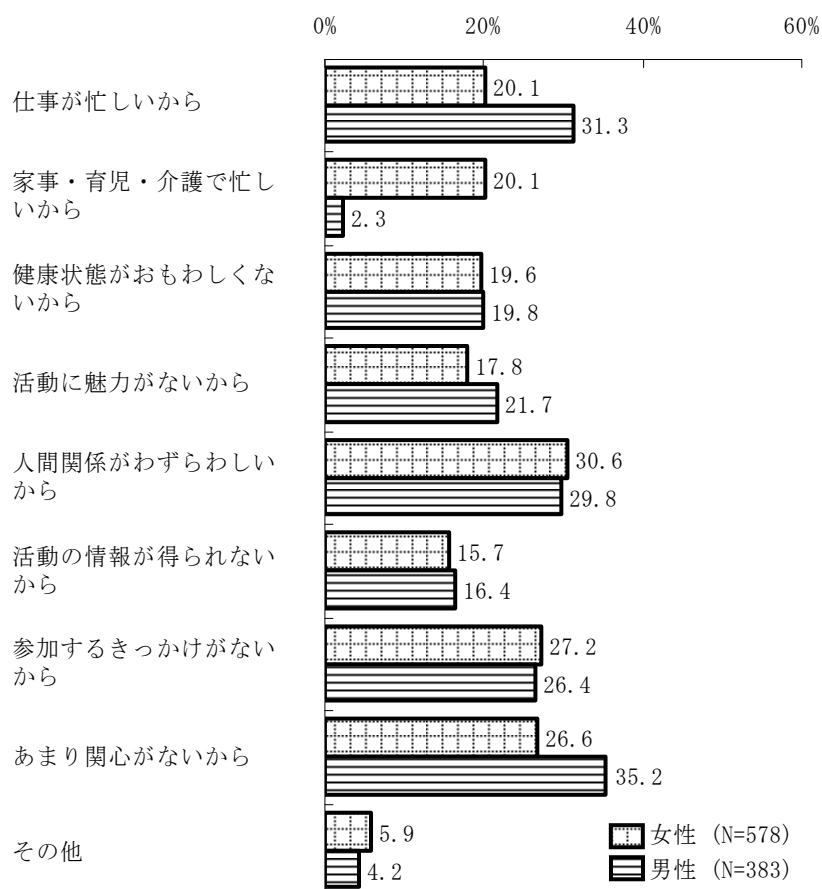
◆女性の場合、＜今後参加したい＞割合が最も高いのは、30歳未満で30.4%。ついで、50歳代で26.9%。

◆男性の場合は、50歳代で＜今後参加したい＞割合が最も高く、29.7%。60歳代28.1%、40歳代25.5%と続く。

問 24 で「今後は（も）参加したくない」と答えられた方におたずねします。

問 24－1 それはどうしてですか。（〇はいくつでも）

図4－14 地域活動に参加したくない理由



■参加したくない理由は、女性の場合「人間関係がわずらわしいから」がトップ

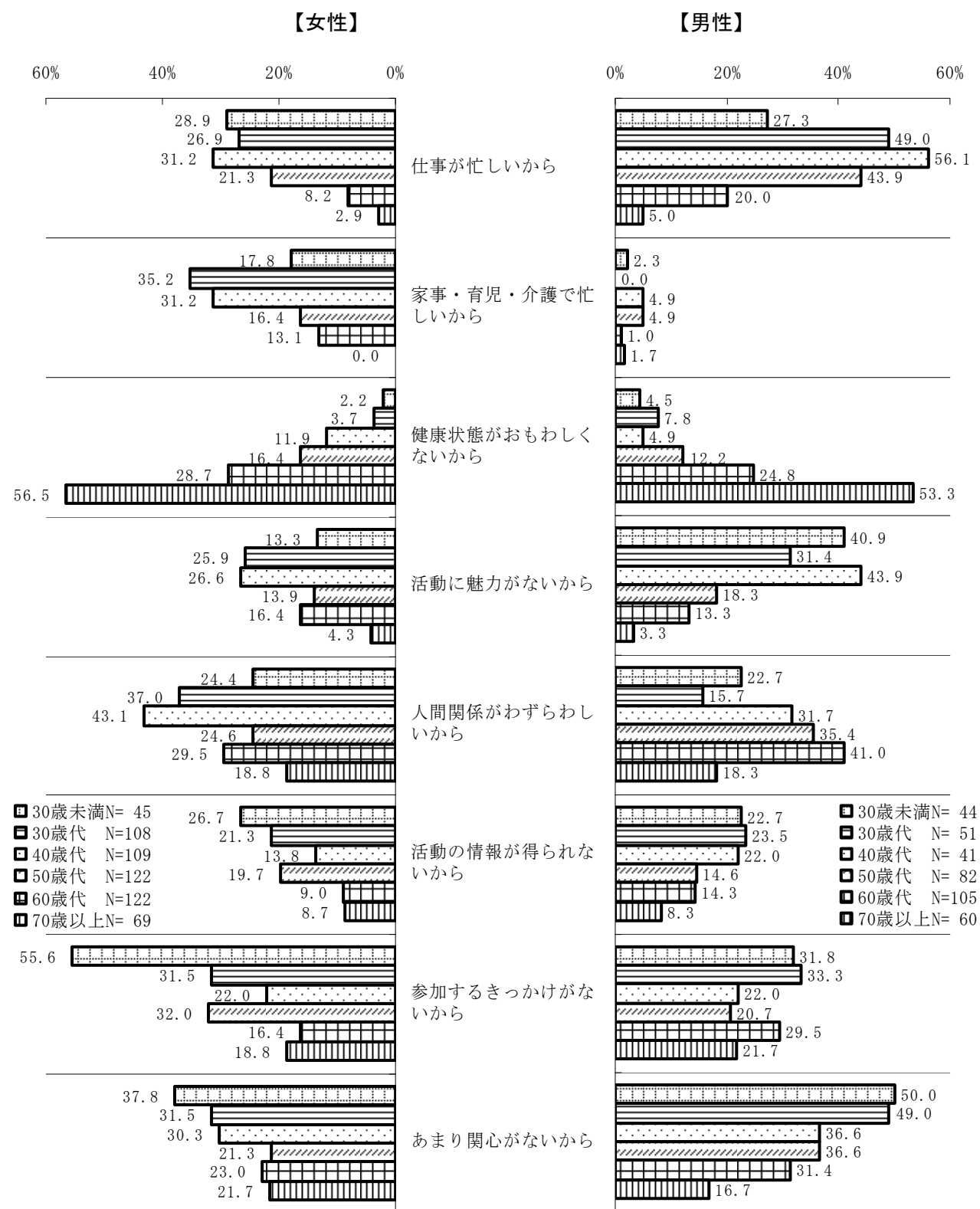
「今後は（も）参加したくない」と答えた男女にその理由をたずねたところ、女性の理由で最も高いのは、「人間関係がわずらわしいから」で30.6%。ついで、「参加するきっかけがないから」が27.2%、「あまり関心がないから」が26.6%と続く。

■男性の場合は、「あまり関心がないから」がトップ

男性では、割合の高い順にみると「あまり関心がないから」が35.2%、「仕事が忙しいから」が31.3%である。

■男女で開きがあるのは、「仕事」と「家事・育児・介護」

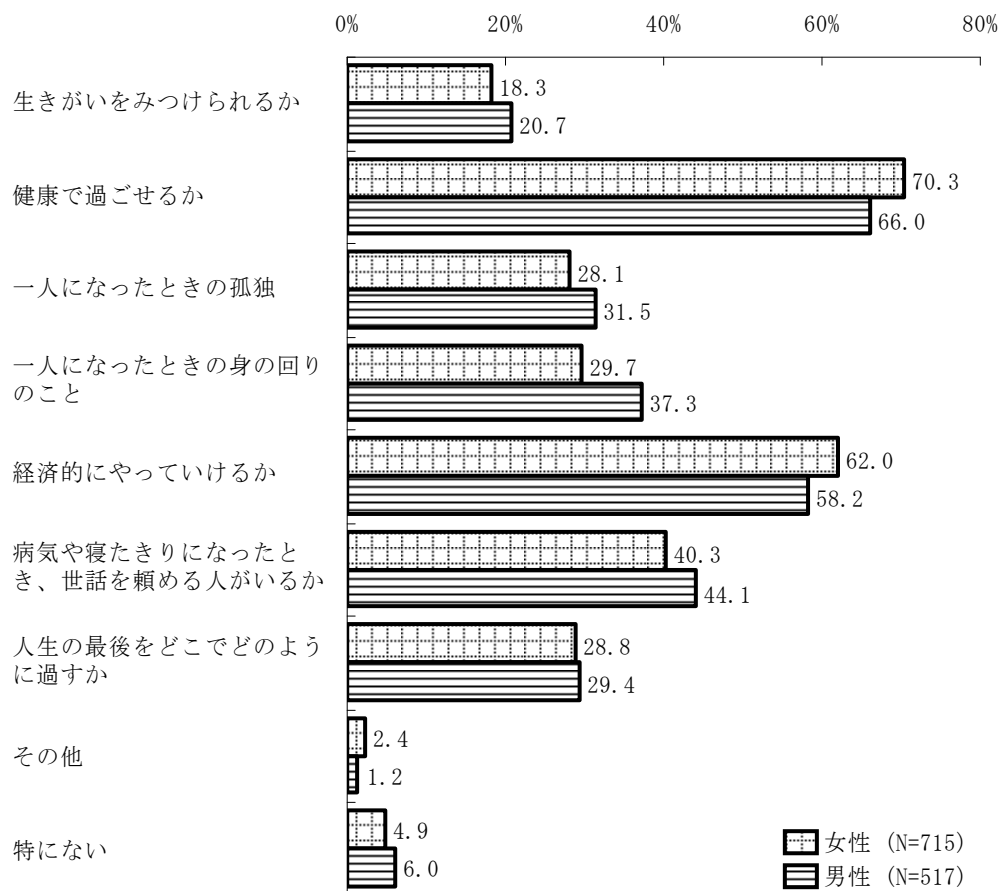
「仕事が忙しいから」では、女性20.1%・男性31.3%で、男性の方が11.2ポイント高くなっている。「家事・育児・介護で忙しいから」では、女性20.1%・男性2.3%で、男性はほとんど選んでいない。



- ◆「参加するきっかけがないから」では、女性の30歳未満で55.6%と年齢層中で突出して高い。
- ◆「仕事が忙しいから」では、男性の40歳代で56.1%で、30歳代、50歳代でも40%台である。
- ◆「家事・育児・介護で忙しいから」は、女性の30、40歳代で30%を超え、他の年齢層より高い。
- ◆「人間関係がわずらわしいから」は、女性では30、40歳代、男性では50、60歳代で高い。

問 25 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。(〇はいくつでも)

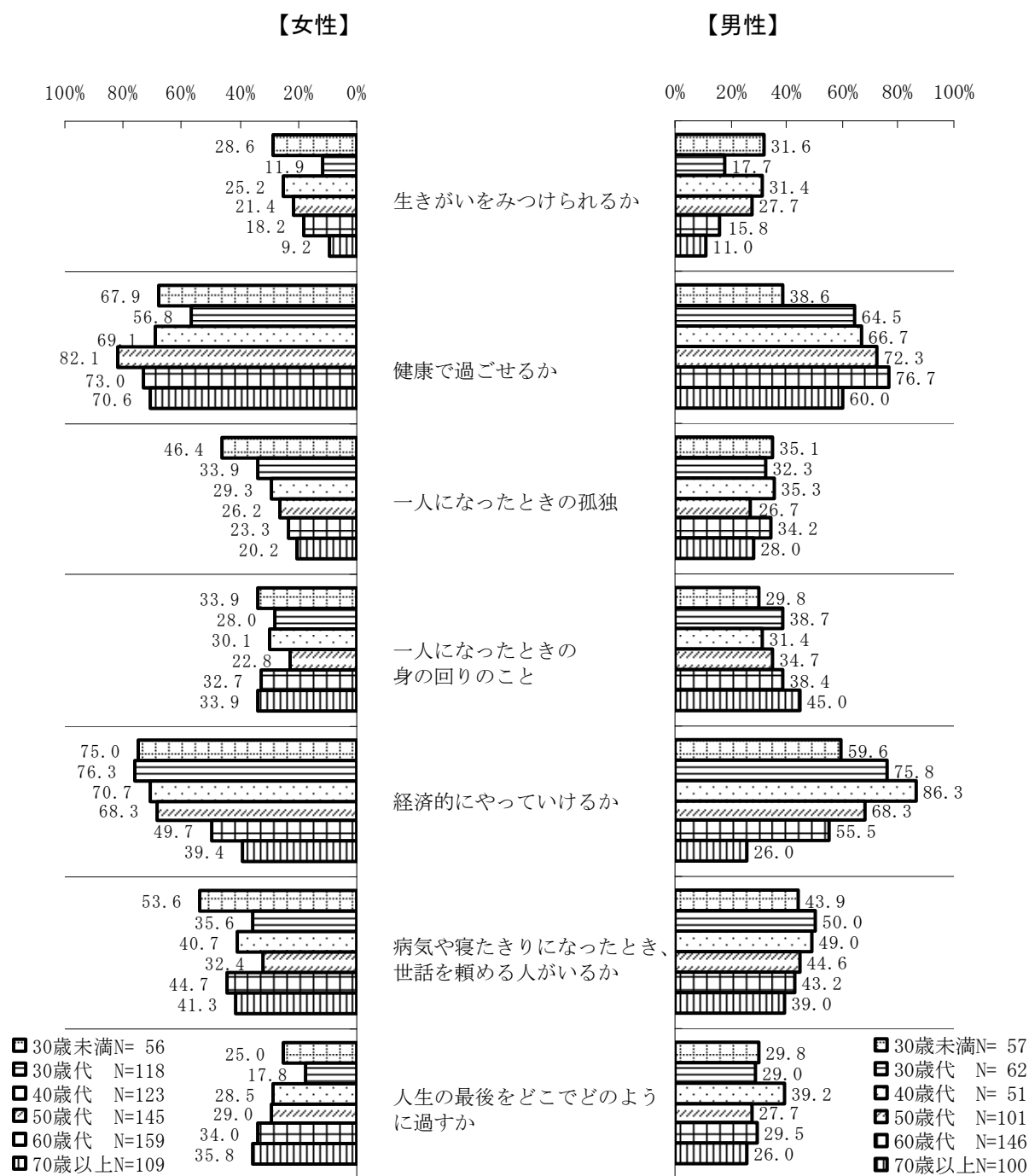
図4-16 老後の生活の不安の内容



■「健康で過ごせるか」と「経済的にやっていけるか」が老後の2大不安

男女でほぼ同様の結果となっている中で、選択率の高いのは、「健康で過ごせるか」(女性 70.3%・男性 66.0%)、「経済的にやっていけるか」(女性 62.0%・男性 58.2%)である。

ついで、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」が男女ともに 40%台である。



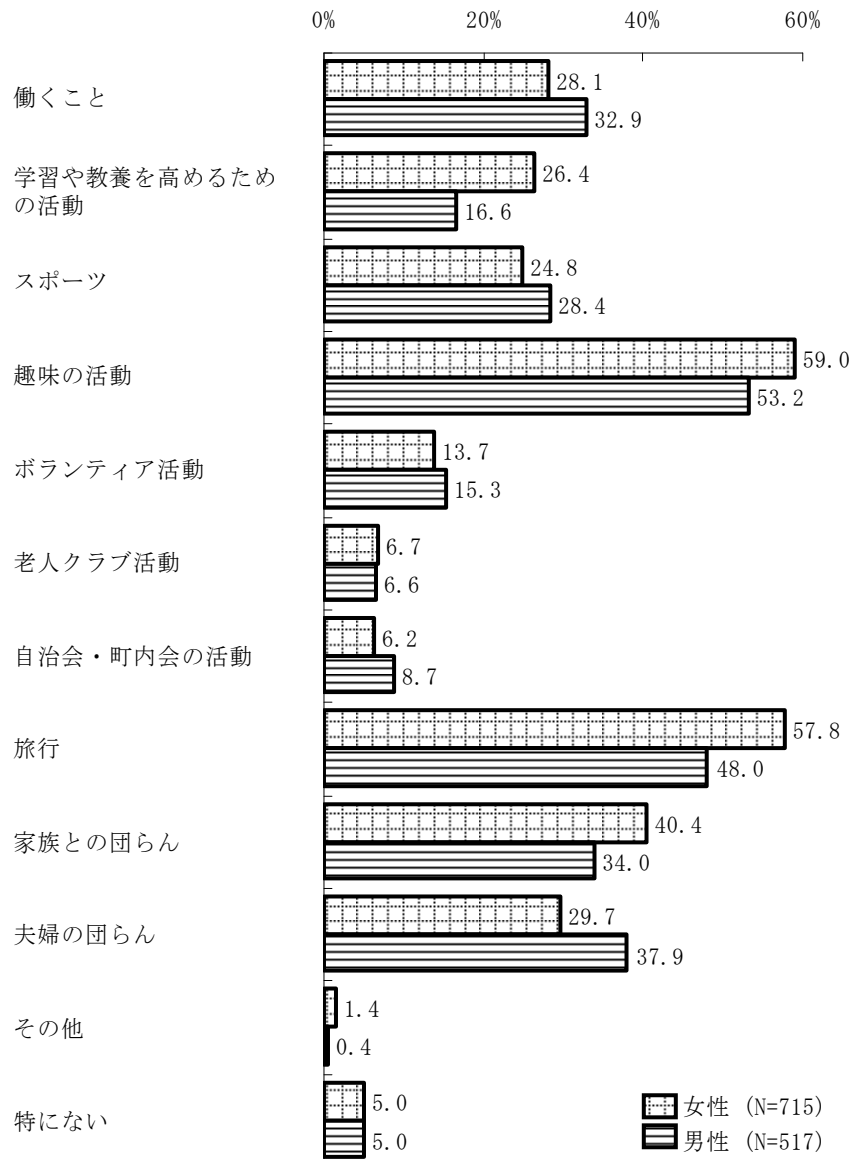
◆「健康で過ごせるか」の割合は、女性の50歳代で82.1%と最も高くなっている。男性の場合は、60歳代まで年齢層が高くなるにつれて選択率も高くなっている。

◆「一人になったときの孤独」では、女性の30歳未満の割合が46.4%で最も高く、70歳以上の20.2%とは26.2ポイントの差がある。男性の場合は、年齢層で大きな違いはない。

◆「経済的にやっていけるか」の割合は、女性の50歳代以前の年齢層で選択率が高くなっている。男性の場合、40歳代で最も高く、70歳以上とは60.3ポイントの開きがある。

問 26 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。(〇はいくつでも)

図4-18 老後にやってみたいこと



■老後にやってみたいことは、男女ともに「趣味の活動」と「旅行」

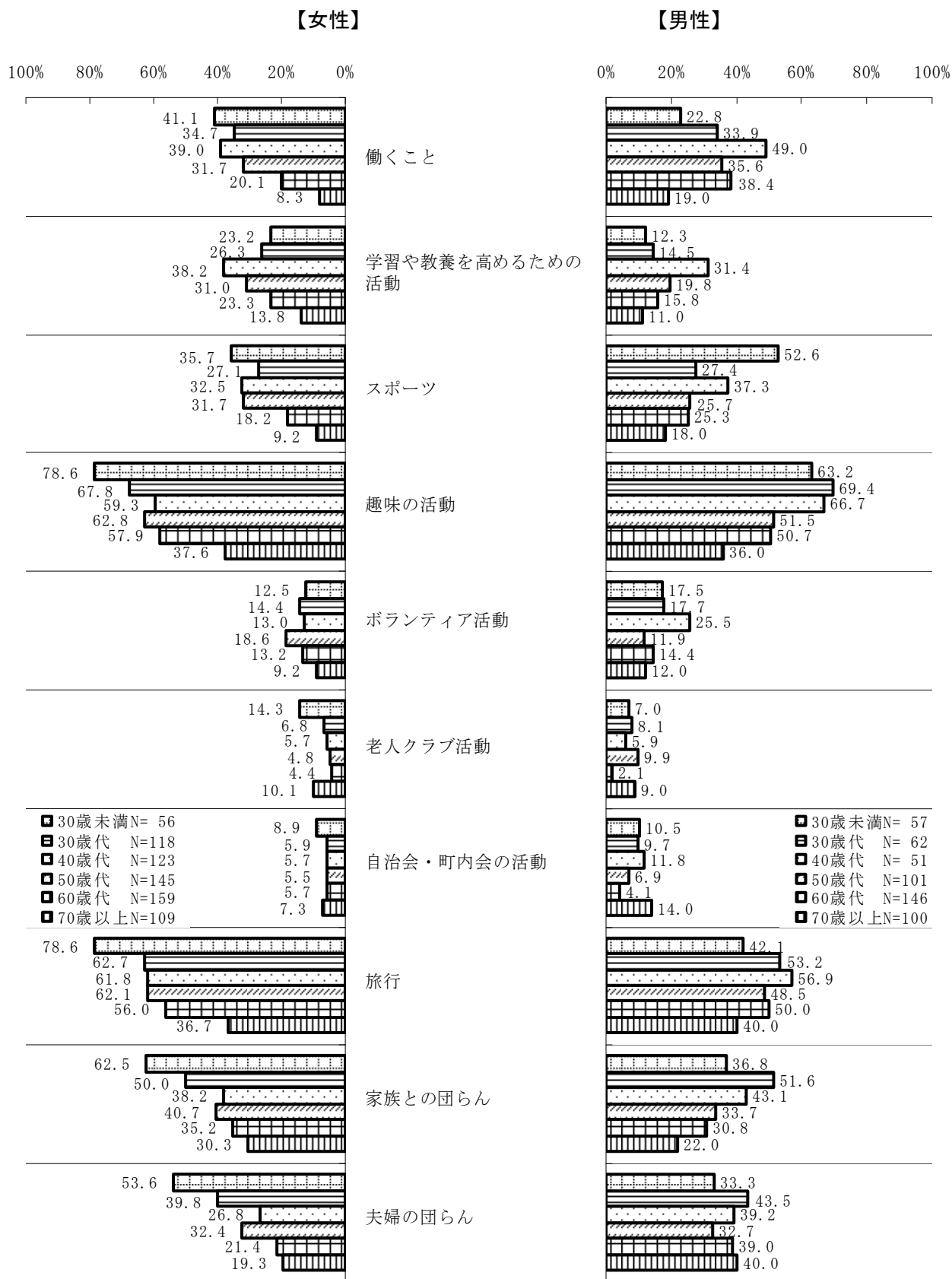
女性がやってみたいことを割合の高い順にみると、「趣味の活動」(59.0%)、「旅行」(57.8%)、「家族との団らん」(40.4%)である。

「ボランティア活動」「老人クラブ活動」「自治会・町内会の活動」などの社会貢献については、選択率が低くなっている。

男性がやってみたいことを割合の高い順にみると、「趣味の活動」(53.2%)、「旅行」(48.0%)、「夫婦の団らん」(37.9%)である。「夫婦の団らん」「働くこと」「スポーツ」「ボランティア活動」「自治会・町内会の活動」では女性よりもやや選択率が高くなっている。

性別・年齢層別

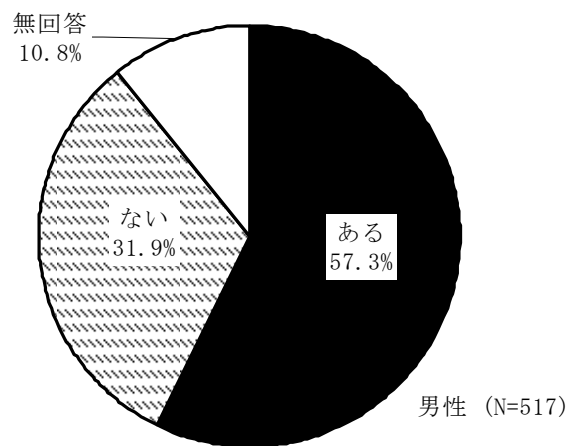
図4-19 性別・年齢層別 老後にやってみたいこと



「男性」におたずねします。

問 27 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

図4-20 「男もつらい」と感じることの有無

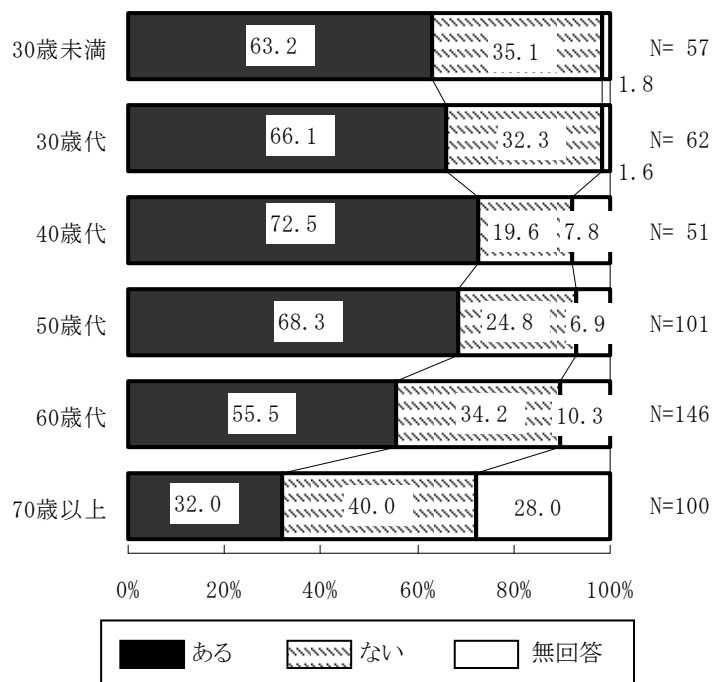


■「男もつらい」と感じる男性は過半数

感じるものが「ある」と回答した男性は、57.3%で半数を超えている。

男性・年齢層別

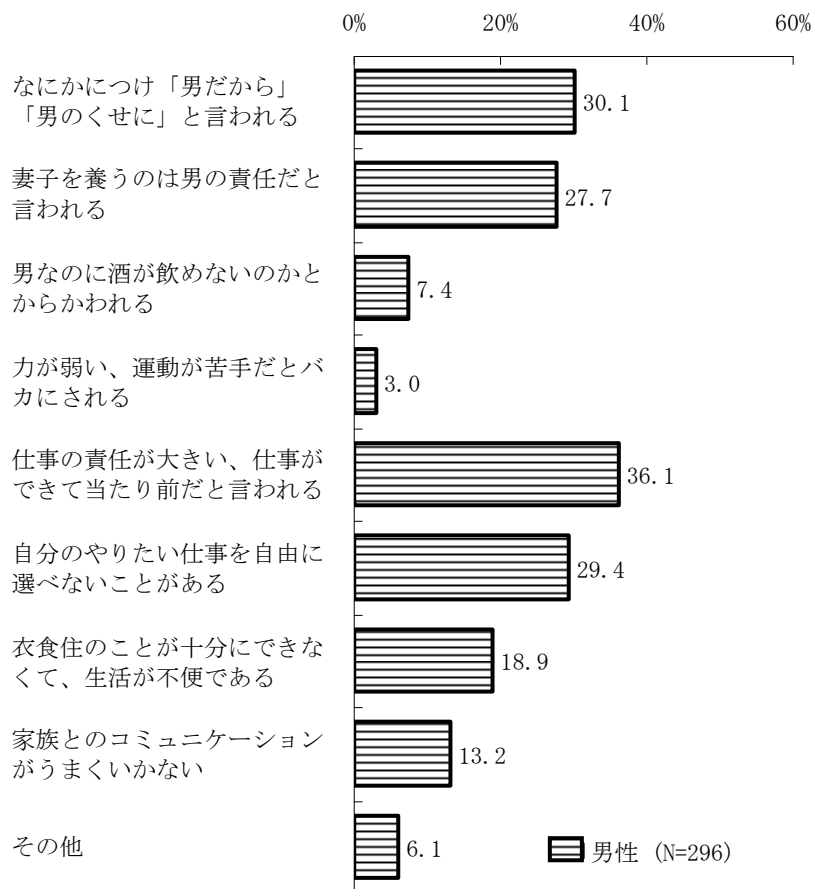
図4-21 年齢層別「男もつらい」と感じることの有無



◆30歳未満から40歳代まで、年齢層が高いほど「男もつらい」と感じる割合が高くなり、最も高い40歳代では72.5%である。

問 27-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

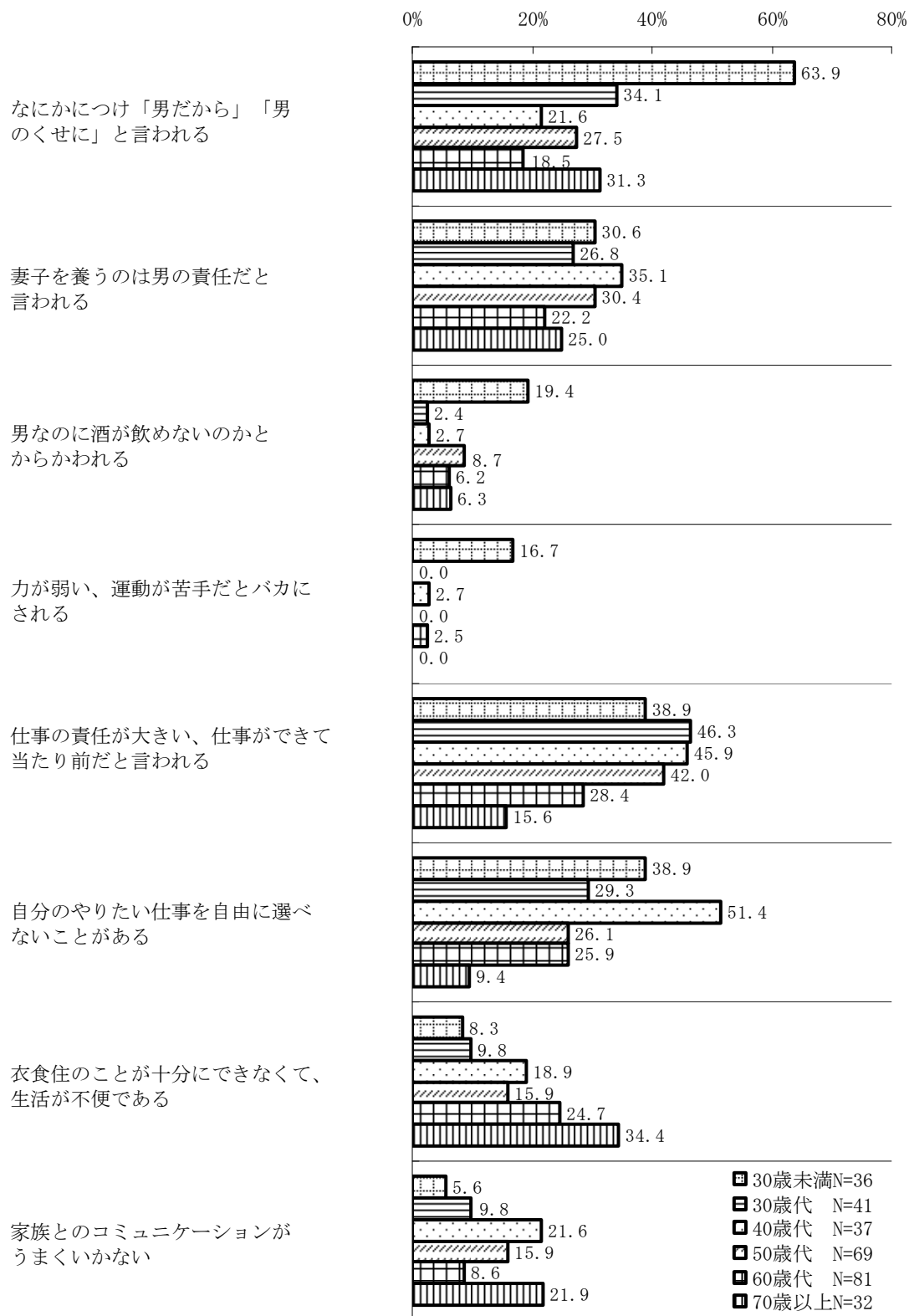
図4-22 「男もつらい」と感じる内容



■「仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる」が最も高く、36.1%

「男もつらい」と感じる内容をたずねたところ、最も割合が高かったのは、「仕事の責任が大きい、仕事ができて当たり前だと言われる」ことで、36.1%である。ついで、「なににかにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」、「妻子を養うのは男の責任だと言われる」が30%前後となっている。

図4-23 年齢層別・「男もつらい」と感じる内容



◆「仕事の責任が大きい、仕事ができ当たり前だと言われる」の割合は、30、40、50歳代で高い。

◆「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」は、60歳代、70歳以上で高くなっている。

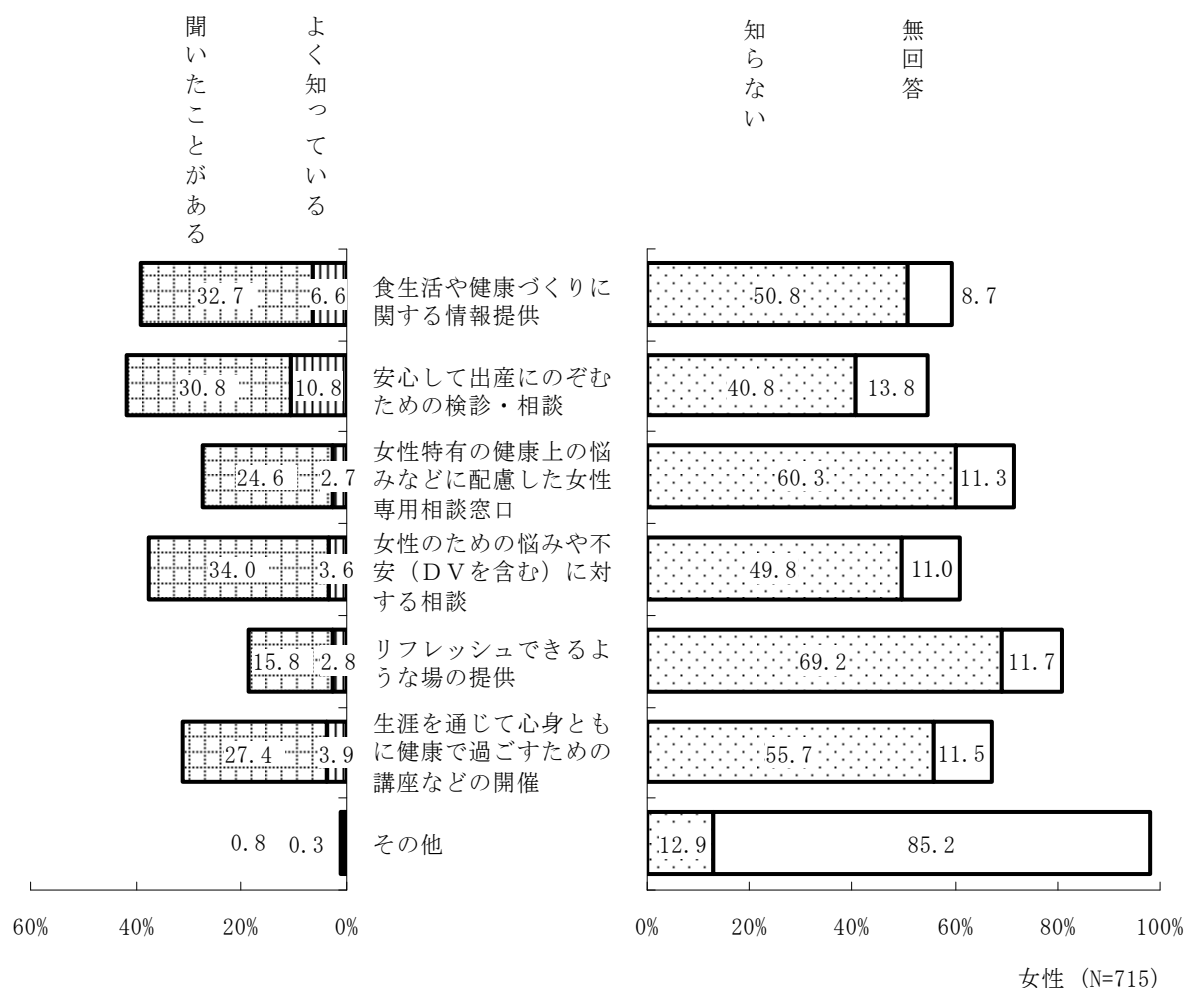
「女性」におたずねします。

問 28 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。

あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

また、利用したことがあるものには「4」にも○をつけてください。

図4-24 女性の心とからだの健康を保つために必要な取り組み <女性>



■取り組みで最も知られているのは「安心して出産にのぞむための検診・相談」。しかし、その割合は 10.8%

「よく知っている」割合が最も高いのは、「安心して出産にのぞむための検診・相談」(10.8%)であり、その他の取り組みについて「よく知っている」の割合は、10%を割っている。

「聞いたことがある」を合わせて最も高い割合なもの、「安心して出産にのぞむための検診・相談」で 41.6%。ついで、「食生活や健康づくりに関する情報提供」39.3%、「女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談」37.6%である。

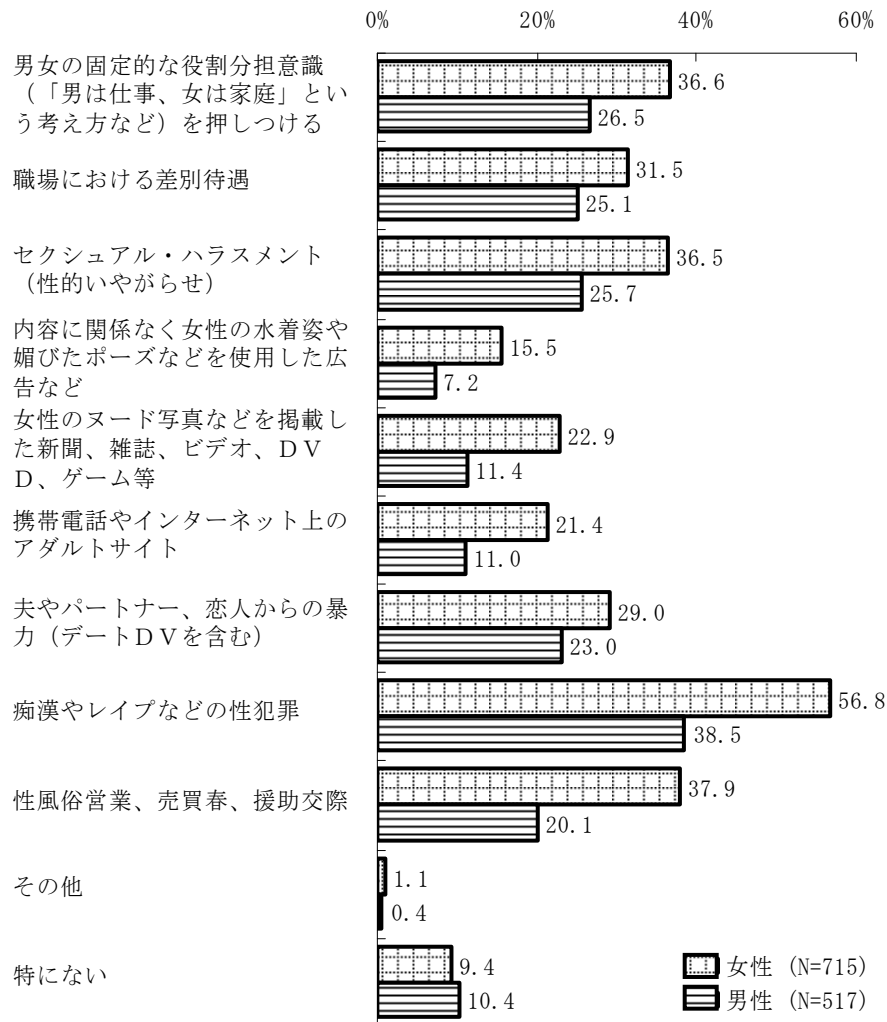
■利用したことがある割合も低い

	食生活や健康づくりに関する情報提供	安心して出産にのぞむための検診・相談	女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口	女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談	リフレッシュできるような場の提供	生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催
利用したことがある割合 (%)	2.4	4.8	1.3	1.8	1.0	2.1

5. 人権の尊重について

問 29 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

図5-1 女性の人権が尊重されていないと感じる内容



■女性の人権に対する認識はそれほど高くない

女性に対する人権が尊重されていない項目を示した上で、どの項目について人権が尊重されていないと感じるかを選んでもらったところ、最も選択率が高かったものは、男女ともに「痴漢やレイプなどの性犯罪」で女性 56.8%・男性 38.5%である。

ついで、女性の場合は、「性風俗営業、売買春、援助交際」「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「職場における差別待遇」が 30%台で高くなっている。

男性の場合は、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける」「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「職場における差別待遇」「夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）」「性風俗営業、売買春、援助交際」の割合が 20%台である。

■すべての項目において、男性の選択率は女性より低い

性別・年齢層別

表5-1 性別・年齢層別 女性の人権が尊重されていないと感じる内容

		対象者数（人）	男女の固定的な役割分担意識を押しつける	職場における差別待遇	セクシアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	内容に関係なく女性の水着姿や媚びたポーズなどを使用した広告等	女性のヌード写真などを掲載した新聞、雑誌、ビデオ、DVDゲーム等	携帯電話やインターネット上のアダルトサイト	夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）	痴漢やレイプなどの性犯罪	性風俗営業、売買春、援助交際
女性	30歳未満	56	53.6	37.5	48.2	19.6	23.2	21.4	37.5	75.0	32.1
	30歳代	118	42.4	41.5	45.8	6.8	12.7	12.7	31.4	69.5	28.0
	40歳代	123	42.3	42.3	49.6	16.3	24.4	26.8	32.5	69.9	45.5
	50歳代	145	37.9	29.7	30.3	17.2	22.8	24.8	29.7	60.0	41.4
	60歳代	159	31.4	26.4	32.7	18.2	25.8	23.9	26.4	43.4	39.6
	70歳以上	109	20.2	14.7	20.2	15.6	28.4	16.5	20.2	34.9	35.8
男性	30歳未満	57	29.8	29.8	45.6	8.8	14.0	21.1	22.8	50.9	19.3
	30歳代	62	29.0	21.0	29.0	3.2	6.5	6.5	25.8	54.8	14.5
	40歳代	51	37.3	25.5	33.3	3.9	5.9	17.6	37.3	54.9	15.7
	50歳代	101	28.7	33.7	28.7	8.9	13.9	10.9	27.7	44.6	22.8
	60歳代	146	24.0	24.0	21.9	8.9	12.3	9.6	21.9	30.8	26.7
	70歳以上	100	19.0	18.0	11.0	6.0	12.0	7.0	11.0	18.0	14.0

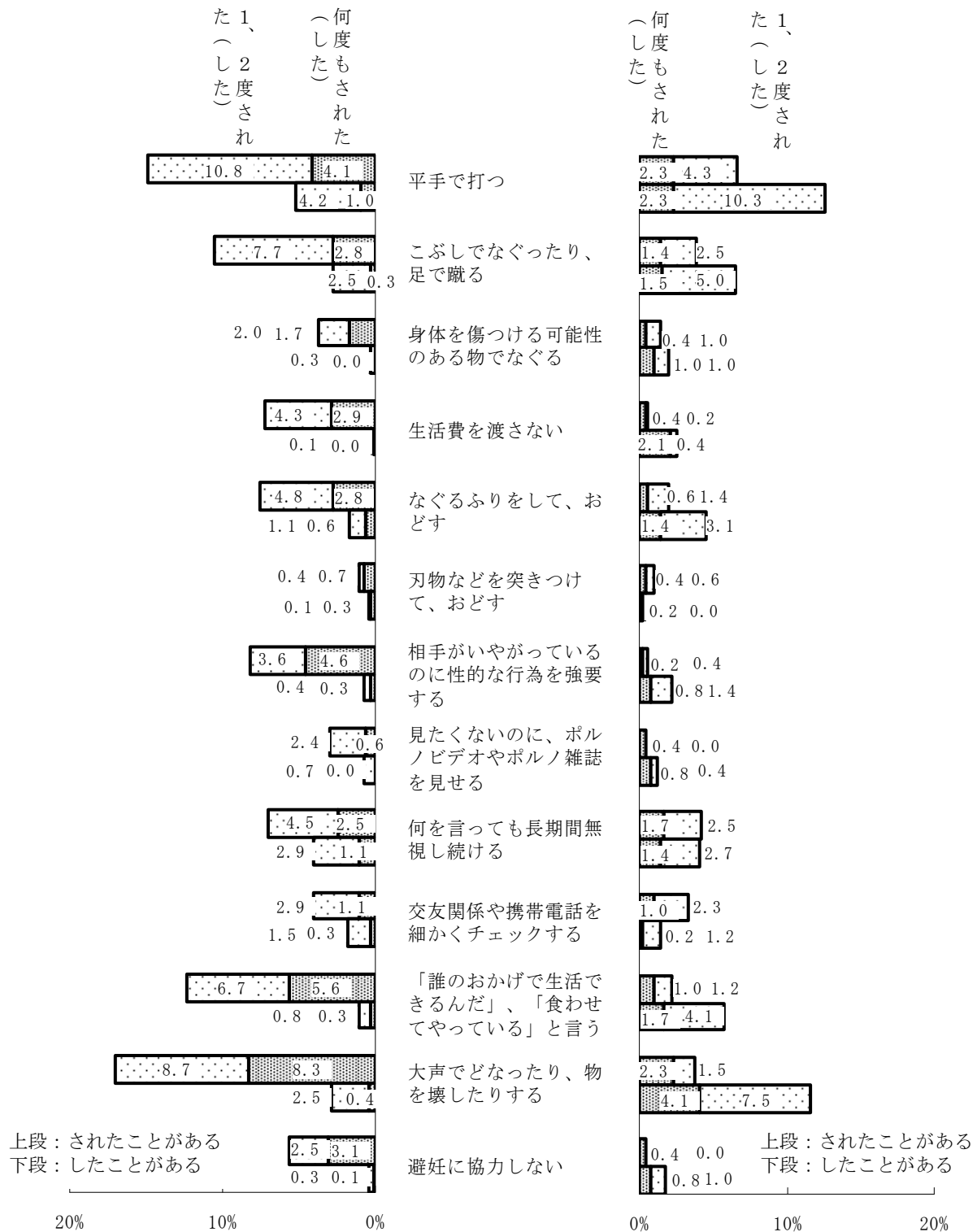
(%)

問 30 あなたは配偶者やパートナー、恋人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。
(当てはまるものすべてに○をつけてください)

図5-2 配偶者やパートナー、恋人からの暴力

【女性】(N=715)

【男性】(N=517)



■全般的に暴力被害の割合は女性に高い

配偶者やパートナー、恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））の経験についてたずねたところ、「何度もされた」と「1、2度された」を合わせた割合は、女性の方が高くなっている。

特に、「大声でどなったり、物を壊したりする」（17.0%）、「平手で打つ」（14.9%）、「『誰のおかげで生活できるんだ』、『食わせてやっている』と言う」（12.3%）、「こぶしでなぐったり、足で蹴る」（10.5%）は10%を超えている。

男性の場合は、「何度もされた」と「1、2度された」を合わせた割合が5%を超えているのは、「平手で打つ」（6.6%）のみである。

一方、男性の場合は、「何度もした」と「1、2度した」を合わせた割合が、「平手で打つ」（12.6%）、「大声でどなったり、物を壊したりする」（11.6%）で10%を超えている。

性別・職業別

◆女性における「仕事の有無」で比較すると、すべての項目で「仕事をしている」方が被害の割合が高くなっている。

◆職業別でみた場合、女性では、13項目のうち5項目において「常勤なみのパート、アルバイト」において被害の割合が高くなっている。特に「相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」（18.5%）、「平手で打つ」（24.1%）で他の職業との開きがある。

◆「内職など家庭でできる仕事」では、「『誰のおかげで生活できるんだ』、『食わせてやっている』と言う」（27.3%）、「大声でどなったり、物を壊したりする」（27.3%）、「なぐるふりをして、おどす」（18.2%）が高くなっている。

（男性については標本数が少ないために省略。）

表5-2 性別・仕事の有無別・職業別

ドメスティック・バイオレンスの被害体験(「何度もされた」+「1、2度された」)

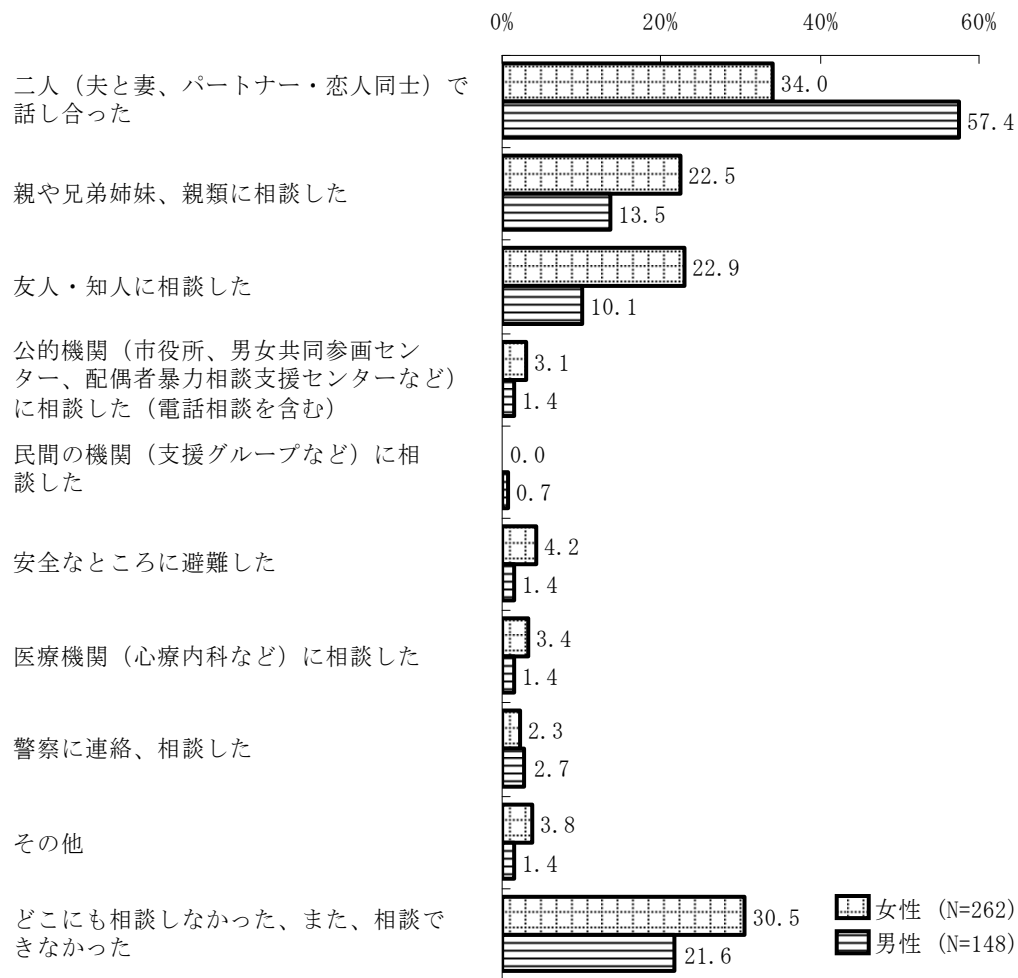
		対象者数(人)	平手で打つ	こぶしでなぐったり、足で蹴る	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	生活費を渡さない	なぐるふりをして、おどす	刃物などを突きつけて、おどす	相手がいやがっているのに性的な行為を強要する	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	何を言っても長期間無視し続ける	交友関係や携帯電話を細かくチェックする	「誰のおかげで生活できるんだ」、「食わせてやっている」と言う	大声でどなったり、物を壊したりする	避妊に協力しない
女性	仕事をしている	354	16.1	11.6	4.0	7.3	8.7	1.2	10.7	4.0	8.2	6.0	12.7	19.2	7.4
	仕事はしていない	359	13.7	9.5	3.3	7.0	6.4	1.1	5.8	1.9	5.8	2.2	12.0	14.8	3.9
男性	仕事をしている	342	8.2	4.9	2.1	0.6	2.4	1.5	0.9	0.6	5.8	4.4	3.0	5.8	0.6
	仕事はしていない	175	3.5	1.7	0.0	0.6	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	1.1	0.6	0.0	0.0
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	124	13.8	10.4	4.8	12.1	7.2	1.6	11.3	4.8	5.6	7.2	5.6	19.4	11.3
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	24.1	13.0	3.8	9.3	11.1	1.9	18.5	9.3	13.0	13.0	18.6	22.2	9.3
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	103	16.6	13.6	3.9	3.9	8.8	0.0	10.7	1.0	7.8	2.9	18.4	20.4	5.9
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	18.8	12.6	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	6.3	18.8	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	33	12.1	9.1	3.0	0.0	6.1	0.0	6.0	0.0	9.1	0.0	12.2	9.1	3.0
	内職など家庭でできる仕事	11	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	27.3	0.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	201	9.0	5.0	1.5	0.5	2.5	1.5	0.5	0.5	7.5	5.5	4.0	7.0	0.5
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	23	8.7	8.6	4.3	4.3	4.3	0.0	4.3	4.3	8.6	4.3	4.3	4.3	4.3
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	32	9.4	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	64	1.6	1.6	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	3.1	3.1	1.6	4.7	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(%)

問30の選択肢①～⑬に1つ以上○をつけた方におうかがいします。

問 31 問 30 のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。(○はいくつでも)

図5-3 被害を受けた後の行動



■暴力行為後に「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」の割合が男女ともに高い

配偶者やパートナー、恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））後の対処の仕方をたずねたところ、「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」割合が最も高く、女性 34.0%・男性 57.4%である。

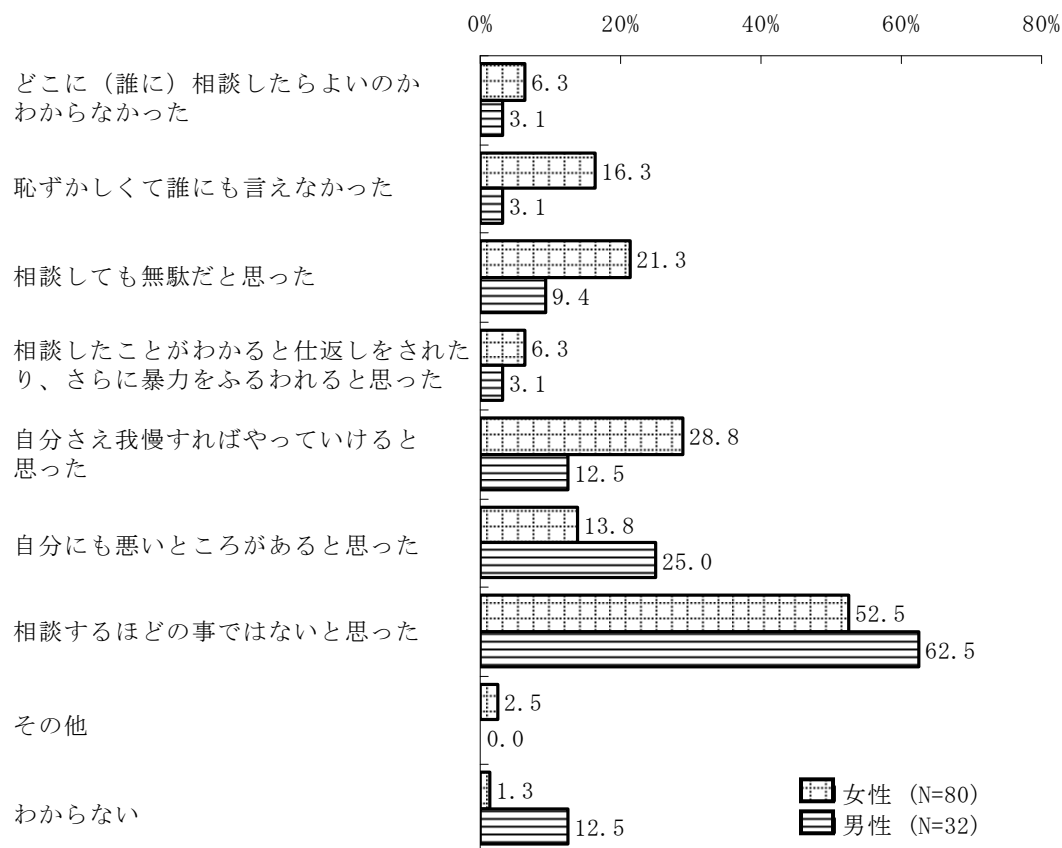
■「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」は、女性 30.5%・男性 21.6%

「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は、女性 30.5%・男性 21.6%と高い。身内や友人・知人以外のところに相談、避難した割合は極めて低くなっている。

問 31 で、「10.」と答えられた方におうかがいします。

問 32 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図5-4 相談しなかった(または、できなかった)理由



■「相談するほどの事ではないと思った」割合が男女ともに半数を超える

男女ともに最も高い割合なのは、「相談するほどの事ではないと思った」で、女性 52.5%・男性 62.5% である。

ついで、女性の場合は、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「相談しても無駄だと思った」が 20% 台で続く。

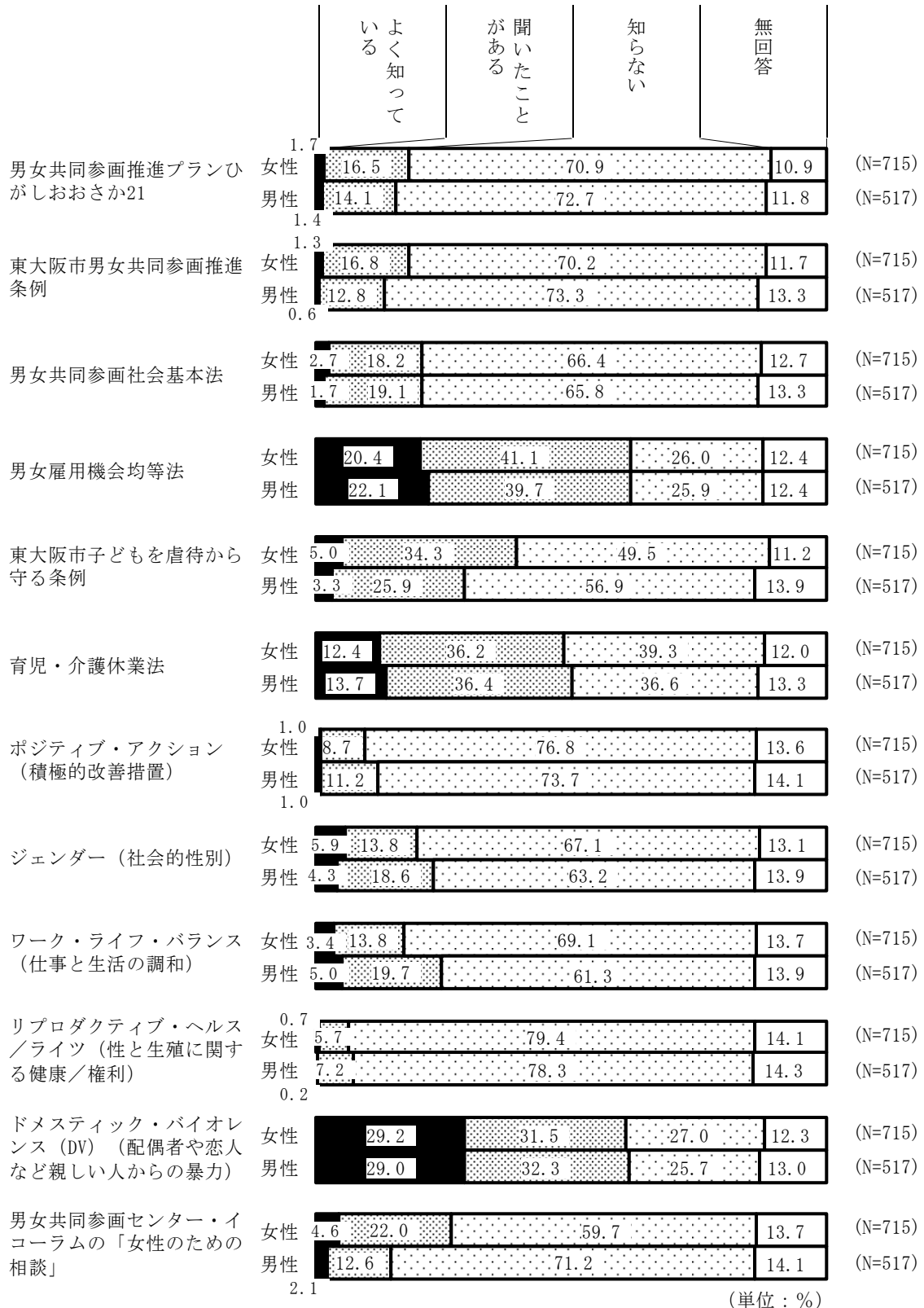
男性の場合は、「自分にも悪いところがあると思った」が 2 番目に高い割合で 25.0% である。

「どこに(誰に)相談したらよいかわからなかった」は女性 6.3%・男性 3.1% である。

6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問 33 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

図6-1 法律や言葉、東大阪市の取り組みの認知度



■＜知っている＞の割合が最も高いのは「男女雇用機会均等法」

＜知っている＞（「よく知っている」＋「聞いたことがある」）の割合が最も高いのは、「男女雇用機会均等法」で女性 61.5％・男性 61.8％である。ついで、「ドメスティック・バイオレンス（DV）（配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」（女性 60.7％・男性 61.3％）、「育児・介護休業法」（女性 48.6％・男性 50.1％）、「東大阪市子どもを虐待から守る条例」（女性 39.3％・男性 29.2％）である。

男女で比較すると、「東大阪市子どもを虐待から守る条例」と「男女共同参画センター・イコラムの『女性のための相談』」では、女性が男性より約 10 ポイント高い。

その逆に、＜知っている＞割合が最も低いのは、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）」で女性 6.4％・男性 7.4％である。

「男女共同参画推進プランひがしおおさか 21」は女性 18.2％・男性 15.5％、「東大阪市男女共同参画推進条例」は女性 18.1％・男性 13.4％である。

性別・年齢層別

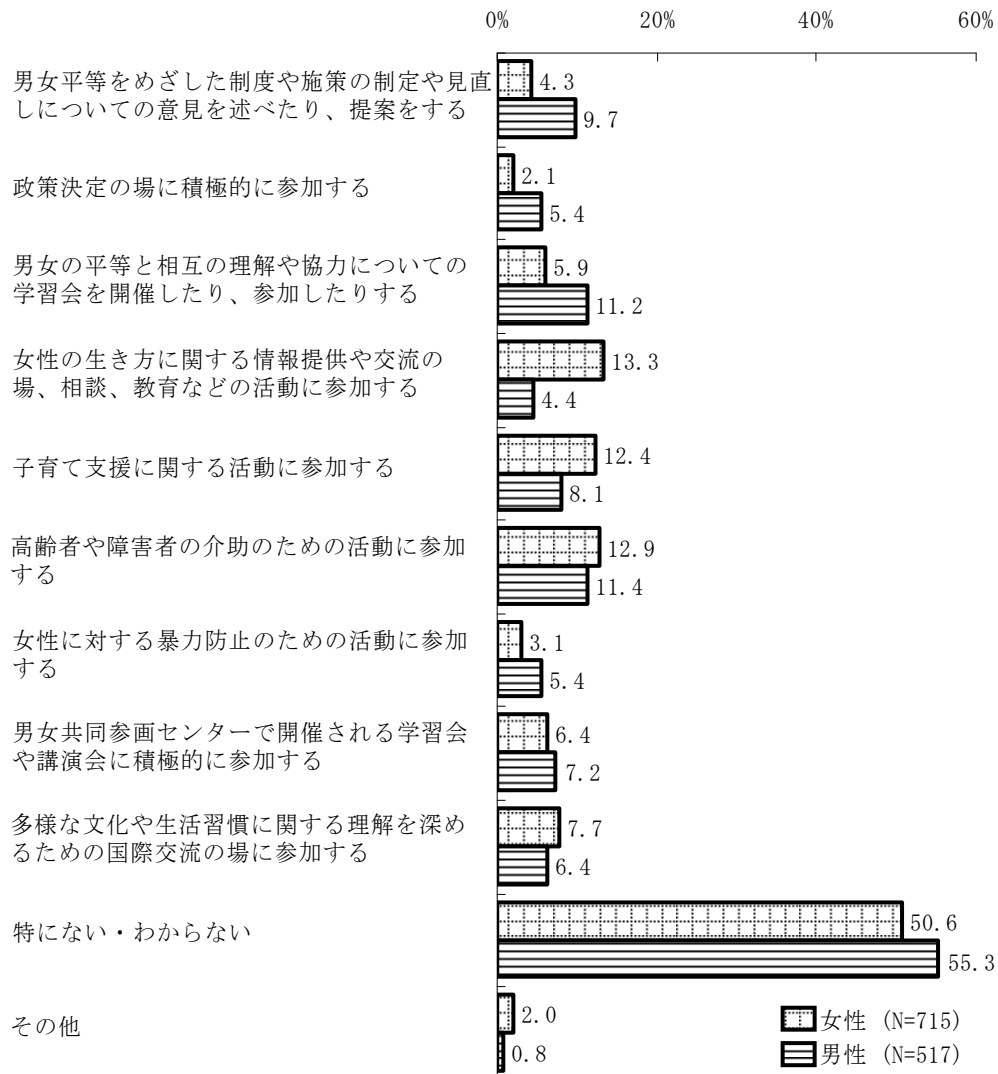
表6－1 性別・年齢層別 法律や言葉、取り組みの認知度＜知っている＞の割合

		男女共同参画推進プランひがしおおさか 21	東大阪市男女共同参画推進条例	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	東大阪市子どもを虐待から守る条例	育児・介護休業法	ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	ジェンダー（社会的性別）	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）	ドメスティック・バイオレンス（DV）	男女共同参画センター・イコラムの「女性のための相談」
女性	30 歳未満	12.5	16.1	32.2	64.2	19.7	50.0	12.5	34.0	16.0	9.0	64.2	19.7
	30 歳代	9.3	12.7	20.3	67.8	27.1	44.1	6.8	22.9	16.1	6.7	67.8	25.4
	40 歳代	17.9	18.7	17.9	70.7	45.6	56.1	9.7	22.7	16.3	2.4	71.6	34.2
	50 歳代	17.3	18.6	21.4	71.0	44.8	57.9	9.7	22.7	18.6	6.2	71.7	22.7
	60 歳代	25.1	20.1	24.6	60.4	49.0	53.5	11.3	15.1	22.0	8.1	57.9	31.4
	70 歳以上	22.0	21.1	13.7	33.9	34.9	25.7	8.2	8.2	11.0	6.4	30.2	21.1
男性	30 歳未満	10.6	15.8	31.6	54.4	17.6	45.6	14.0	33.3	24.6	8.8	64.9	14.0
	30 歳代	8.1	6.5	9.7	66.2	30.6	56.4	11.3	33.9	30.6	9.7	79.1	17.7
	40 歳代	9.8	11.8	23.5	64.8	23.5	56.9	19.6	23.5	35.3	13.7	70.6	11.7
	50 歳代	11.9	7.9	21.8	70.3	24.8	55.5	12.9	25.8	28.7	6.9	73.2	12.9
	60 歳代	19.2	17.1	22.6	63.7	36.9	51.4	13.7	17.9	19.9	5.5	56.2	16.5
	70 歳以上	24.0	17.0	17.0	50.0	31.0	38.0	5.0	14.0	19.0	5.0	39.0	14.0

(%)

問 34 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。
あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

図6-2 「男女共同参画」を推進するために参加したい活動



■「特にない・わからない」が半数を超える

男女共同参画を推進するために自分自身がどのような活動をしたいかをたずねたところ、「特にない・わからない」が男女ともに 50%を超えた。

■「高齢者や障害者の介助のための活動」は男女ともに 10%強

男女がともに 10%を超えているのは、「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」のみである。

性別・年齢層別

◆女性の場合、「女性の生き方に関する情報提供や交流の場などの活動に参加する」の割合は、30 歳未満で他の年齢層より 10 ポイント以上高く、28.6%である。

◆男性の場合、「子育て支援に関する活動に参加する」の割合が最も高いのは 30 歳代で、21.0%である。

図6-3 性別・年齢層別「男女共同参画」を推進するために参加したい活動

